自治医科大学内科学講座
循環器内科学部門　2015年年報 第7号

自治医科大学
内科学講座循環器内科学部門

目　　次

1．主任教授挨拶…… 1

2．医療安全対策部教授就任から１年を経て…… 5
- 新保昌久

3．医局の現況…… 9
- 星出　聡（2015年度医局長）

4．スタッフの紹介…… 13
- 水野裕之
- 奥山貴文
- 小林久也
- 金子大介
- 鈴木悠介
- 各分野からの報告

5．診療実績…… 33

6．研究業績…… 39

7．学生教育…… 85

8．博士課程修了報告…… 91
（鍵谷英明、柴﨑誠一、福冨基城）

9．アメリカ留学報告…… 103
（齋藤俊信）

10．～１年間を振り返って（写真集）～　…… 107

1．主任教授挨拶

主任教授挨拶

「今こそ創新を目指して！」

自治医科大学内科学講座
循環器内科学部門
主任教授　苅尾七臣

ここに自治医科大学内科学講座循環器内科学教室の2015年度年報をまとめました。今年も、医局員や研究コーディネータの活躍により、臨床のボリューム、研究の発展、教育の充実、いずれも満足のいく結果であったと自負いたします。

2015年度は、新保昌久准教授が自治医科大学附属病院医療安全対策部教授に就任することになりました。病院機能評価や医療監視、厚労省のヒアリングなど数多くの病院の医療管理業務の質が審査されましたが、いずれも首尾よく終了できました。

研究面では、最先端循環モニタリング研究開発拠点SURGE（SUper CiRculation MonitorinG with High TEchnology R & D Center）と地域医療循環器アジアITネットワーク研究拠点CoCREATE（Community Medicine Cardiovascular REsearch Asia IT NEtwork Center）の2つの共同研究講座の設立に加え、内閣府・革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）「超ビッグデータプラットフォームによる社会リスク撤廃のための革新的イノベーション」と国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の医療機器・システム研究開発事業「ICTを活用した診療支援技術研究開発プロジェクトウェアラブルモニターで実現する循環器診断支援技術の開発」の国の大型研究プロジェクトを開始することができたことが大きな成果です。今後、医局を挙げて、産官学の共同プロジェクトを大きく発展させてゆきたいと思っています。

今年は、新入局員が5名、我々の新たなメンバーに加わってくれました。これにより、医局全体が、大変活気づいています。出身背景も年齢も異なる多様なメンバーがお互いに切磋琢磨することにより、医局の発展があります。我々の教室の標語は「創新」です。明日の仕事は、単なる今日の仕事の延長ではありません。自らが自分の頭で考え、独自の視点を持って、自分の仕事において新たな付加価値を作り出す―これが創新です。これができて、初めて個人のキャリアアップが前進し、さらに所属する組織や社会への貢献が積みあがります。今後、医局員がそれぞれ得意とする分野において、切磋琢磨し、努力を積み重ね、どのような味のある”創新”を見せてくれるか大変楽しみにしています。

ますますのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2016年9月吉日

2. 医療安全対策部教授就任から1年を経て

医療安全対策部教授就任から1年を経て

「2015年活動のご報告と今後の抱負」

自治医科大学附属病院 医療安全対策部
自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門
教授　新保 昌久

2015年4月1日付で、自治医科大学附属病院医療安全対策部教授を拝命し、1年余りを経過しました。2015年の年報に寄せまして、日頃から多くのご厚情を頂いております皆様に改めてご報告とご挨拶を申し上げます。

ごく簡単にこれまでの経歴を述べさせて頂きますと、私は1991年（平成3年）に自治医大を卒業し、以来栃木県内の病院、診療所にて、内科、循環器科を中心とした地域医療に従事して参りました。その後、大学院に進学し循環器診療の専門研修と基礎研究を行う機会を頂きまして、義務年限終了後から当教室に勤務しております。先代の島田和幸主任教授をはじめ、多くの先輩方から熱いご指導を頂きましたこと、またすばらしい同僚・後輩諸氏とともに、診療、研究、教育に研鑽できていることに心から感謝申し上げます。

大学での勤務が10年を過ぎましたが、診療では、末梢動脈疾患を主とする動脈硬化性疾患の診療、またCT、MRIなどの心血管系画像診断を中心に行ってまいりました。苅尾七臣主任教授が提唱する「全身性血行動態アテローム血栓症症候群（SHATS）」、すなわち「全身の血管を適切に評価し、血栓・メタボリックリスクおよび血行動態異常を管理することで、心血管イベント抑制を目指す」という課題を、日常診療および研究面でさらに発展させたいと考えています。また、病棟医長および医局長としての経験を経て、地域における「診療ネットワーク」構築をさらに進めていく必要を感じております。少しずつではありますが具体的なミーティング等が動きつつありますので、ぜひ地域の先生方のご指導を頂きながら、自治医大附属病院全体に広がるムーブメントに育てていければと思います。

今回、医療安全対策部の責任者という新たな立場をお引き受けしましたが、「医療の質と安全の向上」という課題は、社会のニーズを含めてますますその重要性を増しています。「医療安全活動」は、どうしても制度やルールで「やらされている感」が強くなりがちなのですが、その具体的な活動内容に「どのような意味があるのか」納得できなければ個人の行動は変わりません。循環器内科は、侵襲的かつ高度な急性期医療に奮闘する診療科でございますので、「プロフェッショナル」として自分が納得できる医療を提供し、そして患者さんが「満足できる質」を確保できるよう、ポジティブ思考で安全管理を考えていければと思っています。

今年は循環器内科に多くの新入局者を迎えることができました。本当にうれしく思いますとともに、身の引き締まる思いです。優秀な若手医師をいかに集め、いかに育てていくか、栃木に限らず地

域医療全体の重要な課題であります。苅尾教授が掲げる「創新」が教室全体に広がることは、循環器内科はもとより自治医科大学および附属病院の魅力を若手に伝えることにつながることでしょう。私自身も、さまざまな分野で「創新」を目指し、少しでも社会貢献ができるよう努力していく所存です。まだまだ力不足でございますが、今後とも何卒ご指導のほどを宜しくお願い申し上げます。

≪『自治医科大学附属病院医療安全対策部 新保昌久教授 就任記念祝賀会』 開催のご報告≫

2015年5月20日、宇都宮グランドホテルにて、教授就任記念祝賀会を開催いたしました。祝賀会開催にあたり、同門会の皆様には、多数のご臨席と多大なご協力を頂きましたこと、医局員一同、改めて御礼申し上げます。

3. 医局の現況

医局の現況

「1年を振り返って」

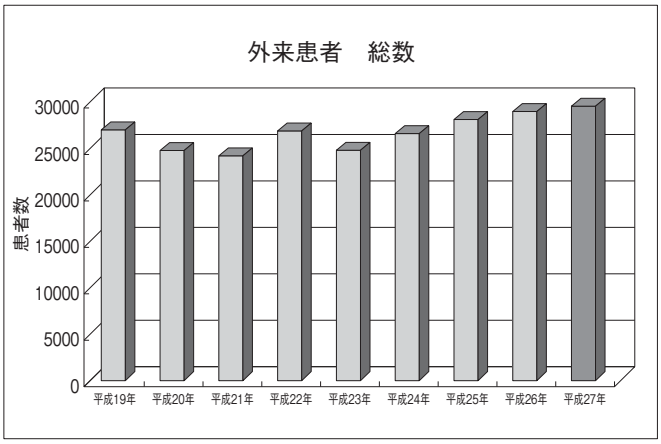
自治医科大学内科学講座
循環器内科学部門　准教授
2015年度　医局長　星出　聡

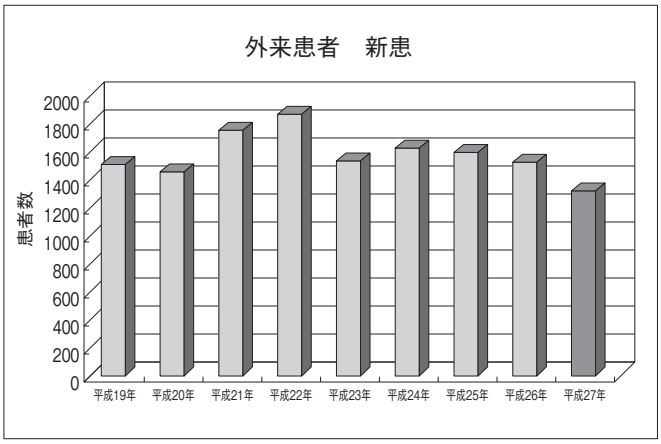
2015年4月より、医局長を務めさせていただきました。当科において、この1年は入局をされた先生もいらした一方で、医局を去られた先生も多く、近年では最も少ない医局員の人数で業務をこなさなければなりませんでした。その中で、病棟、当直、外来、外勤、派遣など医局員の先生方の協力で、乗り越えることができました。紙面をかりまして、医局員の先生方には御礼申し上げます。

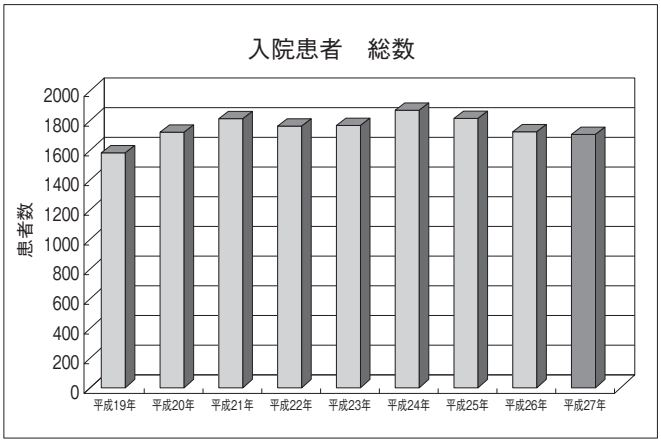
一方で、この4月からは、新たに5人の先生方を迎えることが出来ました。特に、レジデントからの入局者4名は2年ぶりであり、その結果、上級医の意識改革も現れ始め、医局に新たな風が吹き込まれているのを感じます。

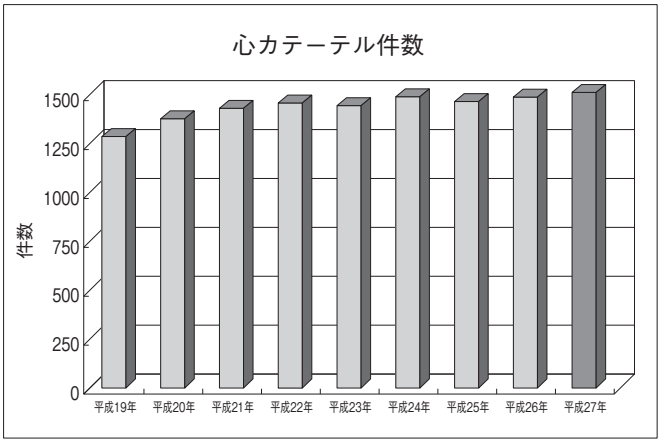
個人的には、1年ほど前から、苅尾教授が会長を務めた、第5回臨床高血圧フォーラムの事務局長として準備から関与させて頂き、過去最高のご参加をいただき、大きなトラブルもなく終了できたことで、安堵いたしております。研究面においては、2010年に留学先のボスであったParati教授と開始した共同研究の成果が5年がかりで、Hypertension誌にpublishできたこと、また、10年前から開始され、苅尾教授をPIとし、全国の実地医科の先生方と協力して行ってきた家庭血圧の予後推定能の研究（J-HOP研究）の予後追跡結果が、Hypertension誌にpublishされたことで、研究の一区切りをつけることができました。一方で、AMED、ImPACTといった政府主体の研究も開始された年でもありました。

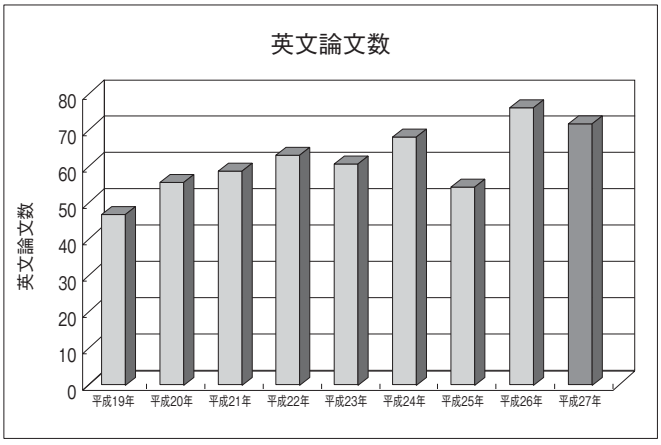
本年7月からは、新体制として河野　健先生に医局長として医局運営の中心を行っていただくことになりました。小生も微力ではありますが、今後も循環器内科医局の発展に貢献できればと思います。

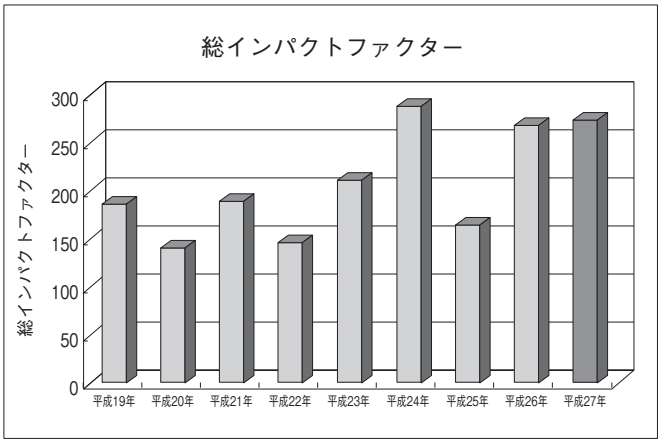

外来患者　総数
患者数
30000
25000
20000
15000
10000
5000
0
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年


外来患者　新患
患者数
2000
1800
1600
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年


入院患者　総数
患者数
2000
1800
1600
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年


心カテーテル件数
件数
1500
1250
1000
750
500
250
0
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年


英文論文数
英文論文数
80
70
60
50
40
30
20
10
0
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年


総インパクトファクター
総インパクトファクター
300
250
200
150
100
50
0
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年

4. スタッフの紹介

スタッフの紹介

（H28年度：H28.5.1現在）

主任教授	苅尾七臣	
教　授	高橋将文（兼：炎症・免疫研究部）	
教　授	新保昌久（兼：医療安全対策部）	
学内教授	江口和男（兼：卒後臨床研修センター）	*H28.5.1付発令*
准教授	宮下　洋（兼：健診センター）	
准教授	興梠貴英（兼：医療情報部）	
准教授	星出　聡	
准教授	今井　靖（兼：成人先天性心疾患センター）	
准教授	緒方信彦（兼：心疾患治療部）	
講　師	河野　健	*H28.4.1付発令*
講　師	甲谷友幸	*H28.4.1付発令*
学内講師	小形幸代	*H28.4.1付発令*
病院講師	小森孝洋（兼：リハビリテーションセンター）	*H28.5.1付発令*
助　教	横田克明	*平成28.4.1付発令*
特命助教	福冨基城	
（兼：地域医療循環器アジアITネットワーク研究拠点講座）		*H28.4.1付発令*
特命助教	齋藤俊信	
（兼：最先端循環モニタリング研究開発講座）		*H28.4.1付発令*
病院助教	西村芳興（派遣中）	
病院助教	渡部智紀（国内留学）	
病院助教	去川睦子（兼：臨床検査医学）	
病院助教	清水勇人（派遣中）	
病院助教	横田彩子（派遣中）	
病院助教	鳥海進一（派遣中）	
病院助教	桂田健一（派遣中）	
病院助教	渡邉裕昭	
病院助教	滝　瑞里	
病院助教	大場祐輔	
病院助教	水野裕之	*H28.4.1付入局*
臨床助教	篠原　肇	
臨床助教	久保田香菜（派遣中）	
臨床助教	石橋和世	
臨床助教	脇　広昴（派遣中）	
臨床助教	渡辺貴裕（派遣中）	
臨床助教	小古山由佳子	

臨床助教　石山裕介
臨床助教　有馬生悟
臨床助教　奥山貴文　*H28.4.1付入局*
臨床助教　小林久也　*H28.4.1付入局*
臨床助教　金子大介　*H28.4.1付入局*
臨床助教　鈴木悠介　*H28.4.1付入局*
大学院生　新島　聡（循環器内科・一般大学院生）
大学院生　根岸経太（循環器内科・一般大学院生）
大学院生　今泉悠希（学外社会人大学院生）
大学院生　藤原健史（学外社会人大学院生）
大学院生　貝原俊樹（学外社会人大学院生）
大学院生　桑原光巨（学外社会人大学院生）
大学院生　仲里　淳（学外社会人大学院生）
客員教授　島田和幸（新小山市民病院理事長）
客員教授　松尾武文（兵庫県立淡路病院　名誉院長）
客員教授　廣江道昭（国立国際医療研究センター病院循環器科非常勤）
客員教授　Jiguang Wang（Shanghai Jiaotong University School of Medicine）
客員教授　Bryan Williams（University College London）
客員教授　土橋卓也（社会医療法人製鉄記念八幡病院）
客員教授　勝木孝明（古河赤十字病院）
学外准教授　藤川日出行（JHCOうつのみや病院）
学外准教授　村上善昭（芳賀赤十字病院）
非常勤講師　椎名　明（椎名内科クリニック）
非常勤講師　村田光延（国分寺さくらクリニック）
非常勤講師　蜂谷　仁（土浦協同病院）
非常勤講師　北條行弘（きぬの里クリニック）
非常勤講師　上野修市（うえのクリニック）
非常勤講師　市田　勝（いちだクリニック）
非常勤医員　生方　聡（うぶかた循環器クリニック）
非常勤医員　海老澤勝人（とちぎメディカルセンター　しもつが）
非常勤医員　星出陽子（佐藤医院）
非常勤医員　佐藤彰洋（南会津病院）
非常勤医員　高橋真美
非常勤医員　黒木茂広（新上三川病院）
非常勤医員　山中祐子（山中医院）
非常勤医員　池本智一（熊本大学）
研究生　西澤匡史（公立南三陸診療所）
研究生　近江晃樹（日本海総合病院　循環器内科）

研究生　　山下英治（群馬県立心臓血管センター循環器内科）
研究生　　横田　啓（聖マリアンナン医科大学病院）
研究生　　横山靖浩（徳島県三好市国保西祖谷村診療所）
研究生　　毛見勇太（前橋赤十字病院）
研究生　　成田圭祐（佐賀県唐津市馬渡島診療所）
研究生　　佐藤ちひろ（水戸済生会総合病院腎臓内科）
研究生　　早川　学（宮崎大学医学部附属病院地域医療総合診療医学講座）
研究生　　鐘江　宏（医療法人社団こころとからだの元氣プラザ）

研究補助員

齋藤君代	菅原則子	上野ひろみ	濵嵜春菜	落合留美子
松本祐里	大倉綾子	佐藤美希	近藤舞子	野末亮子
諏訪裕美	古澤理紗	片岡睦美	豊田理香	冨谷奈穂子
鈴木友貴子	佐藤圭子	岩下千英	高橋恵美子	

平成27年度中異動者

中山美緒　H27.9.30退職
矢野裕一朗　H27.9.30退職
山中祐子　H27.10.4退職
市田　勝　H27.10.31退職　⇒　いちだクリニック（開業）

池本智一　H28.3.31退職　⇒　熊本大学　⇒　熊本赤十字病院へ

【 入局のご挨拶 】

＜水野裕之＞

このたび入局させて頂きました、自治医大卒業生で福島県30期の水野裕之です。

私は地域医療で、脳卒中や心筋梗塞に苦しむ大勢の患者さんを目の当たりにして、心血管疾患の最大のリスクファクターである高血圧の問題を解決したいと思い、高血圧の臨床研究を始めました。苅尾七臣先生、星出 聡先生をはじめ、自治医大循環器内科の先生方はいつも私を指導して下さりました。臨床研究をこれからも続けたいと考え、循環器内科に入局致しました。

高血圧の問題もさることながら、高齢化社会の現代では、心不全患者が年々増え続けて大きな問題になっています。高血圧と心不全の臨床研究を通じて、病に苦しむ患者さんを一人でも多く救うことが私の研究における目標です。

臨床では、心不全を中心として循環器内科全般の診療にあたっています。忙しい毎日ですが、患者さんが元気になっていく姿を見られることに、やりがいを感じています。また、循環器内科の医局は雰囲気が良いため、楽しく仕事をさせて頂いています。

まだまだ未熟者ではありますが、少しでも患者さんの役に立てるよう、日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願いいたします。

＜奥山貴文＞

2016年4月から新入局者としてお世話になっております奥山貴文と申します。群馬県伊勢崎市出身で、2013年に日本大学を卒業しました。中学・高校と栃木県にある学校へ通学していたこともあり、当院での初期研修を決めました。

学生時代から循環器内科に興味があり、1年目の最初にローテートさせて頂きましたが、病棟業務に追われ深く循環器内科を研修することが出来なかったことがずっと心残りでありました。そのようなこともあり、3年目の最後に無理を言って再度ローテートさせて頂き、以前よりも循環器内科の面白さに触れることができ、やはりこの科しかないと思い循環器内科へ進むことを決めました。

入局し循環器内科医として２ヶ月経ちますが、中ベン見習いとして自治医科大学の先生方の暖かいご指導の元、日々新しいことを学ぶことができ充実した毎日を送れております。色々不器用でまだまだ医師として未熟であり、皆様には何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、少しでも早く一人前になれるよう一生懸命頑張りますので、これからもご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

＜小林久也＞

平成28年4月から自治医科大学循環器内科でお世話になっております、小林久也と申します。出身は和歌山県で、小学校から高校まで地元で過ごし、大学も和歌山県立医科大学へ進学しました。関東、特に栃木県にはもともと縁のない生活を送っていましたが、出身大学病院に留まらない幅広い研修を希望して初期研修先を探している中で、自治医科大学附属病院に興味を持ち、この病院で初期研修をスタートすることになりました。

循環器内科は研修医2年目の冬にローテートさせていただきました。先生方から熱心にご指導していただき、忙しいながらも非常に充実した研修を送ることができ、循環器内科に興味をもつきっかけとなりました。そして3年目に後期研修ローテートを行った後、今年度から正式に入局させていただくこととなりました。

今までは研修医という立場でしたが、これからは主治医、そして循環器のスペシャリストとしての立場のため、その責任の大きさを痛感しているところです。先生方にはご迷惑をお掛けすることが多々あるとは存じますが、日々精進して参りたいと考えておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

＜金子大介＞

2016年4月からお世話になっております金子大介と申します。私は2014年3月に日本大学医学部を卒業し、当院で2年間の初期臨床研修を行いました。もともと循環器内科という分野に興味があり、初期研修1年目の冬に3か月のローテーションをさせていただいた時には忙しい日々を過ごしながらもさらに循環器内科診療の面白さに魅せられました。また、先輩諸先生方の手厚い指導が徹底しており、知識や技術の向上は間違いなくできると考え入局を決めました。

卒後3年目は内科ローテーションをしている同期が多く3年目での入局には少々の不安もありましたが、先生方のお力をいただきながら充実した日々を過ごしております。

まずは心不全、不整脈、虚血性心疾患、高血圧症などの基本的な診療、心エコーなどの基本的な手技を習得し、最終的に最も興味のある虚血性心疾患に対するカテーテル治療に重きをおいたキャリアアップができるように努力して参りたいと思います。なお、外病院では一般内科医として週一回の初診外来を担当させていただいており、ご指導いただきながらトレーニングを積んでいるところです。まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

＜鈴木悠介＞

2016年4月からお世話になっております鈴木悠介と申します。栃木県那須塩原市出身、宇都宮高等学校を卒業し、2014年に福島県立医科大学を卒業しました。自治医科大学附属病院で初期研修を2年間行い、2016年4月に自治医科大学循環器内科へ入局させて頂きました。

学生時代から、心雑音の生じる機序など理論立てて病態を理解していく点や、カテーテル治療により患者様が劇的に回復していく姿をみるにつれ、魅力的な科であると感じており

ました。生死の緊急性の高い場面に直面することも多く、重責を伴う専門科であると思いますが、その分やりがいを感じて自身の進路に選ばせていただきました。

知識、経験ともに乏しくご迷惑をおかけすることも多いかと存じますが、精一杯頑張っていきたいと思います。今年は他の内科を引き続きローテーション研修させて頂いておりますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

各分野からの報告

【虚血性心疾患・心臓弁膜症カテーテル治療：緒方信彦】

低侵襲冠動脈カテーテル（PCI）治療を行っております。このほか高度石灰化病変に対しては積極的なロータブレーター（高速回転式経皮経管的アテレクトミーカテーテル）治療を行っています。特に急性冠症候群に対する緊急PCIに関しては、PCI術者6名を中心として24時間365日対応可能な診療体制を構築しております。

2015年12月より、栃木県内発となるエキシマレーザー冠動脈形成術（ELCA）を開始しました。8月末の時点で40例を実施し、合併症なくその有効性を確認しております。おもに急性冠症候群に対する急性期治療への応用が期待されます。

中央手術部にハイブリッド手術室（撮影装置：シーメンス Artis ZeeTA）が完了し、現在施設審査待機中という最終段階に至っております。患者さんのみならず同門ならびに連携医の先生方にご不便をお掛けしておりますが、順調に準備が進捗していることをご報告申し上げます。

●冠動脈カテーテルインターベンション（PCI）
- ▶ 特に細径カテーテルによる撓骨動脈アプローチ
- ▶ ロータブレーターならびにエキシマレーザー冠動脈形成術

●下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療（PTA）
●腎血管高血圧症に対する腎動脈ステント留置術（PTRA）
●動脈硬化に起因する大動脈弁狭窄症に対するバルーン拡張術（BAV）

臨床アクティビティ

別添の「**過去5年間の検査・治療実績**」一覧をご覧ください。

研究アクティビティ　2015年度～2016年度

緒方准教授は、前任地である東海大学から継続して、エキシマレーザー冠動脈形成術に関する臨床研究、造影剤腎症予防に関する臨床研究を継続しています。

福冨助教を中心にショック・レジストリー研究に参加しております。また自施設内の急性冠動脈症候群のデータベース構築を行っており、今後臨床的研究を展開する予定です。

国内外の医師を招いて，血管内イメージングやPCI治療手技の検討や意見交換を行う，ワークショップ形式の院内勉強会を，定期的に開催しています．

院内の活動にとどまらず，カテチーフの緒方准教授は，これまで海外（韓国・台湾・シンガポールなど）のワークショップへ招聘され，現地医師とともにPCIを行うとともに，若手医師も随行して症例検討会へ参加します．

過去5年間の検査・治療実績

入院・外来患者数

	入院患者数	外来患者数(新来)	外来患者数(再来)
H23年実績	1,742人	1,514人	23,215人
H24年実績	1,876人	1,586人	24,587人
H25年実績	1,767人	1,566人	24,542人
H26年実績	1,694人	1,466人	26,114人
H27年実績	1,632人	1,262人	25,622人

カテーテル検査・治療

	H23年実績	H24年実績	H25年実績	H26年実績	H27年実績
心臓ｶﾃｰﾃﾙ検査	**1.326件**	**1,446件**	**1,408件**	**1,481件**	**1,357件**
冠動脈ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ数（病変数）	**600病変**	**707病変**	**688病変**	**591病変**	**573病変**
POBA	74病変	89病変	81病変	73病変	65病変
Stent留置術	550病変	579病変	566病変	491病変	394病変
ﾛｰﾀﾌﾞﾚｰﾀｰ	23病変	42病変	41病変	14病変	12病変
ｽｺｱﾘﾝｸﾞﾊﾞﾙｰﾝ	-	3病変	3病変	-	-
ｴｷｼﾏﾚｰｻﾞｰ（2015年12月～）	-	-	-	-	6病変
PTMC	1症例	3症例	0	1症例	0
下静脈ﾌｨﾙﾀｰ（一時留置のみ）	4症例	5症例	12症例	10症例	15症例
副腎静脈ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ	12症例	18症例	17症例	20症例	30症例
ｶﾃｰﾃﾙｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝ	**162症例**	**148症例**	**75症例**	**145症例**	**141症例**
WPW症候群	40症例	27症例	21症例	30症例	29症例
房室結節回帰頻拍	45症例	45症例	24症例	44症例	31症例
心房粗動	41症例	36症例	19症例	30症例	22症例
心房細動	18症例	18症例	3症例	21症例	36症例
心室頻拍	14症例	11症例	5症例	12症例	17症例
心房頻拍	5症例	6症例	1症例	5症例	6症例
心室性期外収縮	9症例	5症例	2症例	8症例	-
末梢動脈疾患のｶﾃｰﾃﾙ治療	**65症例**	**76症例**	**98症例**	**75症例**	**59症例**
ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ数（病変総数）	**88病変**	**101病変**	**125病変**	**96病変**	**75病変**
大動脈腸骨動脈領域	49病変	45病変	59病変	33病変	32病変
大腿膝窩動脈領域	24病変	30病変	51病変	37病変	27病変
下腿領域	4病変	7病変	5病変	3病変	6病変
腎動脈領域	6病変	6病変	5病変	17病変	8病変
鎖骨下動脈領域	2病変	9病変	5病変	1病変	2病変
静脈	-	4病変	-	-	-
その他（腹部・上肢）	-	-	-	5病変	-

【不整脈治療：今井　靖】

当院の不整脈治療として、心臓電気生理検査・カテーテルアブレーションおよびペースメーカー、植え込み型除細動器（ICD）、心室再同期療法（CRT）の植込み・交換手術を行っています。

●心臓電気生理検査・カテーテルアブレーション

全てのタイプの頻脈性不整脈（上室性（心房細動を含む）、心室性）に対しての心臓電気生理検査、カテーテル治療を行っています。2015－2016年と急激に心房細動に対するカテーテルアブレーションが増加。2016年末に心房細動に対するカテーテルアブレーションの新しい手法としてクライオバルーンを用いたカテーテルアブレーションを開始する予定です。この原稿を書いている今（2016年9月）、すでに昨年の症例数を超えた症例数のカテーテル治療を実施しており、今後心房細動治療として新たな治療法をさらに進めて参ります。

●ペースメーカー植え込み

●植え込み型除細動器（ICD）、心室再同期療法（CRT）

致死性不整脈に対するICD植え込みや、重症心不全に対するCRT植え込みを積極的に行っています。またデバイスのリードの抜去が出来る体制を整え、近日開始できる状況となりました。

<u>臨床アクティビティ　2015年度</u>

●心臓電気生理検査・カテーテルアブレーション：年間 141例

発作性上室頻拍、WPW症候群、心房粗動、特発性心室頻拍の実施頻度が高いですが、心房細動、器質的心疾患に伴う心室頻拍にも取り組んでおります。3次元マッピング、心腔内エコーなど最新の機材も活用しながら安全に治療が行えるように努めております。

●ペースメーカー手術：年間 106例（新規83例、交換23例）

基本的にMRI対応ペースメーカーの植え込みを行っています。

●ICD/ CRT手術　年間62例（新規37例、交換25例）

<u>研究アクティビティ　2015年度</u>

2015年度はデバイス研究会、日本循環器学会、日本不整脈学会、アメリカ心臓病学会などで学術発表を行っています。また、毎週月曜朝 8:00- に不整脈カンファランス、月に1回心不全・不整脈ジョイントリサーチミーティングを行っています。心電図・心臓電気生理という不整脈領域のみならず心不全、血行動態、血管機能など多彩な研究テーマを展開しております。

後進の指導については、PSVT・心房粗動といった上室性不整脈に対するアブレーション治療、ペースメーカー植え込みを責任もって実施できる若手医師を育成できる指導体制を敷いています。また、非常勤講師として土浦協同病院の蜂谷仁部長をお招きし難易度の高いカテーテル治療にも取り組んでいます。また小児科、心臓血管外科とも連携しつつ、心臓手術術後、先天性心疾患合併の不整脈にも対応しており、成人先天性心疾患学会などでも報告しております。

ハイブリッド手術室が最近完成し循環器内科としても利用できる状況となり、デバイス関連手術でも利用できるようになりました。今後エキシマレーザーを用いたリード抜去や皮下ＩＣＤ植え込みなど最新のデバイス関連手技を展開する予定です。一緒に仕事をする仲間を募集しています。

2015年秋にはＷＰＷ症候群の副伝導路局在診断で知られるArruda先生を自治医大にお招きしWPW症候群のカテーテルアブレーション・セッションを実施。2例目は奇しくも3本の副伝導路を有する症

例でしたが根治、以後頻拍発作なく経過しております（左から渡邉裕昭、今井靖、Arruda先生、右から甲谷友幸）

不整脈グループ、臨床工学技士、看護師のみなさんとのスナップ

【高血圧分野：星出　聡】

●臨床

高血圧専門外来を開設しており、治療抵抗性高血圧や2次性高血圧の診断、治療にあたっています。24時間自由行動下血圧計(ABPM)を積極的に使用しています。動脈硬化性の腎動脈狭窄は、動脈硬化のリスクの高い循環器疾患患者に合併していることが多いため、入院患者全員を対象にスクリーニングとして腎血管エコーを行っています。治療については、私たち循環器内科の得意としているカテーテル治療によって治療も行います。原発性アルドステロン症の診断のための副腎静脈サンプリングも内分泌代謝科と協力して、積極的に行っています。治療抵抗性高血圧の治療として腎交感神経デナベーションについても、当院でもグローバルな治験が現在進行中です。

●研究

循環器内科の高血圧グループは、臨床研究を中心に行っています。2015年度は、10年前から開始された家庭血圧のレジストリー研究であるJ-HOP研究の追跡結果を発表することができました。昨年からCAVIを用いた、“循環器リスク患者における心臓・血管関連の予後に関する前向き研究（Coupling研究）”を開始しました。日本全国より5000症例をエントリーし、7年間の追跡を行う予定ですが、現在まで約3600症例が登録されています。また、2015年度より、IMPACTやAMEDといった大型研究が開始され、その中で、血圧測定機器の開発を企業と共同研究ですすめており、気温、気圧、活動度を同時に評価可能なABPMや、全ての心拍毎の血圧を評価可能なbeat-by-beat血圧計の開発をすすめています。

●臨床高血圧フォーラムの開催

2016年5月に第5回臨床高血圧フォーラムが主任教授である苅尾七臣先生を会長として行われました。1100名を超える方々に参加していただき、おかげさまで盛況な会となりました。以下、ご報告致します。

『第5回　臨床高血圧フォーラム　～イベントゼロを目指した高血圧個別診療へ～』

開催のご報告

自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門
第5回　臨床高血圧フォーラム事務局長
星出　聡

2016年5月14日－15日の2日間、第5回臨床高血圧フォーラムが、ステーションコンファレンス東京にて、自治医科大学循環器内科学講座主任教授である苅尾七臣教授を会長として開催されました。

臨床高血圧フォーラムと秋に行われる高血圧学会総会との大きな違いは、実地医科の医師が、翌日の診療からすぐさま取り入れることができる内容を中心とする、ということにあります。今回のテーマは、「イベントゼロを目指した高血圧個別診療へ」で、現在、ガイドラインなどにより、ある程度は均一な高血圧診療が可能にはなっていますが、より個々の症例に特化した診療を行うことで、更なる心血管イベント抑制につなげるということがテーマとなりました。なかでも、苅尾教授が高血圧の臨床研究を開始してからのこだわりである、“血圧変動性”に特化したシンポジウムを“血圧変動スペシャル390”と銘打ち、1会場を開会式から閉会式まで、一連の流れで行いました。この中で、会長講演では、「血圧変動より　循環器予防医学へ」というタイトルで行われました。本講演では、苅尾教授が、いまや第一人者として知られる高血圧診療や研究の今まで行ってきた軌跡とそのこだわり、また今後の発展や展望を熱く語っていただきました。本シンポジウムに御講演を依頼したアカデミアの先生方には、患者診療に直接つながる臨床高血圧領域の重要トピックに焦点を当て、臨床研究の最新成績の発表や解説、見解を発表していただきました。また、今まで我々と共に臨床研究を行ってきた、第一線で高血圧診療を行っている先生方を選りすぐり、実際にご自身がこだわる診療スタイルとノウハウを発表していただきました。加えて、第一線の研究者からは高血圧診療に必要な最新基礎知識を整理し、今後の臨床への展望を発表していただきました。

特別講演は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金・戦略投資効果局の國井修先生に、ご講演頂きました。國井先生は、大会長の苅尾教授の自治医科大学の同期生であり、日本の僻地にとどまらず、世界の僻地への医療支援をグローバルな展開でなされている先生です。東日本大震災の時にも、発生直後からユニセフの多大な支援金を持参し、現地で支援活動を行っています。小生も以前より國井先生のことは存じあげ、会う度にスケールの大きさに驚かされているのですが、國井先生の、いかに多くの人材と巨額な資金を医療に対してグローバルに動かすか、という講演内容に、聴衆者の方々から感嘆の声が聞かれました。

今回、新たな試みとして、日本医師会理事の先生の御協力もあり、厚生労働省、食品会社、学会側が共同して減塩に関するシンポジウムを開催することができました。学会参加者の減塩に対する興味・感心が非常に高く、用意した会場は満員になり、急遽、別室での映像配信をさせていただきました。本セッションは御好評を頂き、次回の高血圧フォーラムでも企画される予定であると聞いています。

また、高血圧学会のワーキンググループの一つである、“若手活性化ワーキンググループ”の企画として、“高血圧症例検討道場（SKD）ファイト2016”を行いました。事前の準備段階から、メン

バーによる活発なメールでのやり取り、前日、当日の数時間にも及ぶ打ち合わせ、会を盛り上げるための衣装や道具の準備など念入りに行った結果、当日は大変盛り上がり、会場に入りきれないほどの人であふれてしまい、次回開催時はもっと広い会場で、というご意見も頂きました。

本会開催直前の4月に熊本大震災が発生しました。これに伴い、大会初日の夕方にプログラムを急遽変更し、臨時震災セッションを設け、被災者の方々、これから現地に向かおうと思われる医師・コメディカルの方々に向けたメッセージを東日本大震災を現地で経験された先生方に講演いただきました。

臨床高血圧フォーラムは今回で5回目となりましたが、2日間の参加者は1100名を超え、秋の総会の参加人数に近づいてきました。今回、6の会場およびポスター会場にて行いましたが、今後、参加人数の増加も見込まれることを考えれば会場の選定なども重要と思われました。

このように、今回の第5回臨床高血圧フォーラムは、おかげさまで大変な盛会となり終了することができました。今後も、臨床高血圧フォーラムは高血圧の診療や研究に関わる全ての方々に、臨床に必要な有用な情報共有の場を提供できることができ、日本の高血圧診療に大きく貢献できる会であると思われます。

（写真1）開会式にて

（写真2）ポスター会場の様子

【2015年度を振り返って：循環器センター看護師長　飯田久子】

2016年4月より、中山看護師長の後任として６Ａ・６Ｂ病棟に配属となりました飯田久子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2015年度、循環器センターは、3つの基本方針と3つの目標を掲げ、多職種それぞれが目標達成に向けた取り組みを行いました。私たち病棟部門は、看護師50名（うち新人8名）・看護補助員5名・医療事務2名でスタートしました。昨年と同様、院内で導入している固定チームナーシングの看護体制をとり、医療チームの一員として、看護の役割を担えるよう努めています。

固定チームナーシングは、看護の特徴でチーム分けをします。そのため、病棟部門は3つの看護チームに分かれています。６Ａ病棟をＡチーム（19床）とし、主にカテーテル検査や治療、術前の検査、不整脈デバイス治療を行う患者を担当しています。６Ｂ病棟はＢチーム（18床）とＣチーム（28床）に分かれています。Ｂチームは、主に人工呼吸器管理やせん妄など、重症や頻度の高い観察を必要とする患者を担当しています。Ｃチームは、急性期を脱し在宅復帰に向けた心臓リハビリテーションや退院指導を必要とする患者を担当しています。各チームにおいて具体的な目標を掲げ、それぞれの目標ごとに小集団を作り、目標達成に向けた活動を行いました。そのうちの一つの小集団活動については、院内の「固定チームナーシング成果発表会」で成果発表を行いました。

日頃の自己研鑽として、院内のキャリアラダーに応じて、看護師個人が自らのキャリアアップ、スキルアップのため、院内研修や院外研修に積極的に参加をしています。2016年3月に行われた「第44回人工心臓と補助循環懇話会学術集会」において、2名の看護師が日々の看護実践における看護研究の成果を発表しました。演題は「体外式補助人工心臓装着後に合併症を発症した患者の療養上の困難と支援」「産褥心筋症患者の体外式補助人工心臓装着から離脱までの心理的支援」です。また、循環器センターでキャリアを積んだ看護師が「慢性心不全看護」の認定看護師養成研修を受講しました。慢性心不全患者は増加傾向にあり、再入院率が高いことが問題視されている中、「慢性心不全看護」の認定看護師が誕生することにより、慢性心不全患者の看護の向上に期待しています。

医療の機能分化が進む中、当院は高度急性期病院としての役割を担っていくというビジョンを明らかにしています。私たち看護師は医療チームの一員として多職種と協同し、看護の対象となる患者・家族に対し、より良い看護を提供できるよう努めてまいります。今後とも、ご指導ご支援の程よろしくお願いいたします。

【自治医大循環器内科マラソン部（シリーズ3）：江口和男】

さすがに部としてまとまって活動しているわけではありませんが、今年も主に近隣で行われたマラソン大会に出場しました。マラソンの輪は循内に限らず医局の垣根を超えています。昨年末の下野市南河内一周駅伝大会には残念ながら出場しませんでしたが、各大会、みんなで健脚を競いました。最近、エースが業務多忙で、せっかく当たった東京マラソンにも出られていませんが、忙しさが落ち着いたらまた復帰してくれると思います。

PCに向かうことが多い現代人において、空前のマラソンブームとなっています。足は第２の心臓と呼ばれるほど大事で、足を使って歩いたり走ったりすることが医学的にも重要です。「走ることで起こる“よいこと”」は無数にありますが、足を傷めるという”わるいこと”もあります。

クリストファー・マクドゥーガル著『BORN TO RUN』では、メキシコのタラウマラ族は走ることを子供のように楽しむことが描かれています。スポーツ科学の見地からは、人体は走ることに適しておらず、走り続けるとは、悪習に馴染むにも似たものだという意見もあります。我々の中には、本に出てくるように裸足で走るほど徹底している人はいませんが、これからも苦しんで走るのではなく楽しんで走ることにこだわりたいと思います。

〔出場している大会〕

1月　天平マラソン（下野市）
2月　東京マラソン（東京）
4月　日立さくらロードレース（日立市）
　　思川ざくらマラソン（小山市）
5月　鹿沼さつきマラソン（鹿沼市）
11月　大田原マラソン（大田原市）
12月　壬生町ゆうがおマラソン（壬生町）
　　はが路ふれあいマラソン（真岡市、芳賀町）

2016年1月下野天平マラソン
天気がよく、気持ちいいランでした。
自治医大医学部学生も合流しました

2016年4月　日本循環器学会　広瀬川FunRunWalk集合写真

※医局からは、小森孝洋先生が参加しました。

2016年5月の鹿沼さつきマラソン。
完走後“はるばる賞”のさつきを手に
記念撮影

筆者の標準的な練習コース。
基本的に週1回です。
ランニング用GPSウオッチで
記録されたものです。

5. 診療実績

診療実績

Clinical service（2015.1.1～2015.12.31）

1. 外来患者数

	新　来	再　来	計
年間	1,262人	25,622人	26,884人
1日平均	5.2人	106人	111.6人

実日数　241人　紹介率（病院全体）：84.8%
紹介率（循環器内科）：100.2%
（医療法改正により紹介率の算出方法が変わりました）

2. 入院患者数（一般68床、CCU8床、post CCU2床）

年間	1,632名（男性 1,107名、女性　525名）
月平均	136名
平均在院日数	9日（外科転科の入院日数を含む）

3. 病名別入院患者人数

分　類	略　語	病　名	患者数
心不全	CHF	心不全	320
虚血性心疾患	AMI	急性心筋梗塞	134
		（24時間以内のAMI発症）	123
	OMI	陳旧性心筋梗塞	274
	AP	狭心症	477
	post-CABG	CABG術後	35
弁膜症	MVD	僧帽弁疾患	43
	AVD	大動脈疾患	199
先天性心疾患	ASD	心房中隔損症	36
	VSD	心室中隔欠損症	3
心筋症	DCM	拡張型心筋症	26
	HCM	肥大型心筋症	14
	HOCM	閉塞性肥大型心筋症	6
		心サルコイドーシス	24
不整脈	SSS	洞不全症候群	39
	WPW	WPW症候群	13
		AVNRT	0
	AV-block	房室ブロック	95
	Vf	心室細動	24
	VT	心室頻拍	73
	AF/AFL	心房細動・心房粗動	179
	PSVT	上室性頻拍症	62
		Pacemaker交換	46
感染症	IE	感染性心内膜炎	5
	pericarditis	心外膜炎	1
	myocarditis	心筋炎	6
血管、血栓症	Aortitis	大動脈炎症候群	4
	DAA	解離性大動脈瘤	26
	TAA	胸部大動脈瘤	7
	AAA	腹部大動脈瘤	20
	PE	肺塞栓症	13
	IPAH	特発性肺動脈性肺高血圧症	3
	ASO	閉塞性動脈硬化症	69
	Buerger	バージャー病	0
高血圧症	HT	高血圧	139
	HHD	高血圧性肥大心	6
	PA	原発性アルドステロン症	0
合計	（重複あり）		2,544

4. 死亡退院症例病名別リスト

病　　名	人　数
急　性　心　筋　梗　塞	9
心　不　全	15
肺　塞　栓	3
不　整　脈	6
そ　の　他	12
合　計	45

5. 主な検査・処置・治療件数

①カテーテル検査・治療

心臓カテーテル検査　　1,357件

PCI	459件 （573症例）
AMI	125（27.2%）
UAP	33（7.2%）
STENT	394（85.8%）
Rotablator	12（2.6%）
エキシマレーザー（12月～）	6（1.3%）
AMI　生存退院	112（89.6%）

カテーテルアブレーション　　141件

（内訳）

AVNRT	31
WPW / AVRT	29
AT	6
AFL	22
AF	36
VT	17

電気生理検査（EPS）　　31件

副腎静脈サンプリング　　30件

末梢動脈疾患のカテーテル治療　　59症例
インターベンション数　　75病変

大動脈腸骨動脈領域	32病変
大腿膝窩動脈領域	27病変
下腿動脈領域	6病変
腎動脈領域	8病変
鎖骨下動脈領域	2病変

②CT・核医学検査

マルチスライスCTによる心臓（冠動脈）診断　300件
心臓PET-CT　35件
心筋シンチ　455件

テクネ負荷心筋（合計） （運動負荷） （薬剤負荷）	326件 （146件） （180件）
安静タリウム心筋 心筋（タリウム+BMIPP）	3件 41件
BMIPP心筋シンチ	0件
MIBG心筋シンチ	76件
安静テクネ心筋	8件
心筋ピロリン酸シンチ	1件

③デバイス関連手術

デバイス植込み・交換　168件

ペースメーカー	新規	83
	房室ブロック	49
	洞不全	26
	徐脈性 AF	8
	交換	23
	房室ブロック	16
	洞不全	5
	徐脈性 AF	2
ICD/CRT	新規 ICD 植込み	25
	ICD 交換	15
	新規 CRT-D 植込み	11
	新規 CRT-P 植込み	1
	CRT-D,-P 交換	9
	ILR	1

（新規合計　121件、交換合計　47件）

④生理機能検査

トレッドミル負荷試験　230件

循環器内科（外来）	182件
循環器内科（入院）	5件
他　　科	43件

心肺運動負荷試験（CPX件数）　73件

循環器内科（外来）	34件
循環器内科（入院）	31件
他　　科	8件

心臓エコー検査　5,736件

	循環器内科	心臓血管外科	他　　科	合　　計
外　　来	2,892件	285件	57件	3,234件
入　　院	1,532件	439件	387件	2,358件
総　　合　　計	4,424件	724件	444件	5,592件

（経食道エコー　　144件　）

血管エコー（頸動脈、腎動脈、末梢動脈の評価）　732件

Holter心電図検査　1,503件

循環器内科（外来）	784件
循環器内科（入院）	160件
その他	559件

late potential検査　36件

循環器内科（外来）	15件
循環器内科（入院）	21件
その他	0件

⑤リハビリテーション

心臓リハビリテーション　3,120件

（心ﾘﾊﾋﾞﾘの依頼方法の変更につき、2015年の件数は、前年までより大きく増加している）

6. 研究業績

（A）原著論文（2015年）

1. Bavishi C., Messerli FH., Kadosh B., Ruilope LM., Kario K.： Role of neprilysin inhibitor combinations in hypertension: insights from hypertension and heart failure trials. Eur Heart J. 36:1967-1973, 2015.
2. Edison ES., Yano Y., Hoshide S., Kario K.: Association of electrocardiographic left ventricular hypertrophy with incident cardiovascular disease in Japanese older hypertensive patients. Am J Hypertens. 28: 527-534, 2015.
3. Eguchi K., Hoshide S., Kario K. : Effects of celiprolol and bisoprolol on blood pressure, vascular stiffness, and baroreflex sensitivity. Am J Hypertens. 28: 858-867, 2015.
4. Eguchi K., Hoshide S., Komori T., Nagasaka S., Kario K. : A new proposal for the target value for home BP in type 2 diabetes patients: the J-HOP Study. Am J Hypertens. 28: 971-979, 2015.
5. Fadl Elmula FE., Jin Y., Yang WY., Thijs L., Lu YC., Larstorp AC., Persu A., Sapoval M., Rosa J., Widimsky P., Jacobs L., Renkin J., Petrak O., Chatellier G., Shimada K., Widimsky J., Kario K., Azizi M., Kjeldsen SE., Staessen JA.; European Network Coordinating Research On Renal Denervation (ENCOReD) Consortium. Meta-analysis of randomized controlled trials of renal denervation in treatment-resistant hypertension. Blood Press. 24:263-274, 2015.
6. Gautam M., Fujita D., Kimura K., Ichikawa H., Izawa A., Hirose M., Kashihara T., Yamada M., Takahashi M., Ikeda U., Shiba Y.: Transplantation of adipose-tissue-derived stem cells improves cardiac contractile function and electrical stability in a rat myocardial infarction model. J Mol Cell Cardiol. 81:139-149, 2015.
7. Hasegawa T., Asakura M., Eguchi K., Asanuma H., Ohara T., Kanzaki H., Hashimura K., Tomoike H., Kim J., Kitakaze M. : Plasma B-type natriuretic peptide is a useful tool for assessing coronary heart disease risk in a Japanese general population. Hypertens Res. 38:74-79, 2015.
8. Hoshide S., Kario K., de la Sierra A., Bilo G., Schillaci G., Banegas JR., Gorostidi M., Segura J., Lombardi C., Omboni S., Ruilope L., Mancia G., Parati G.: Ethnic differences in the degree of morning blood pressure surge and in its determinants between Japanese and European hypertensive subjects: Data from the ARTEMIS study. Hypertension;66:750-756, 2015.
9. Imai Y., Morita H., Takeda N., Miya F., Hyodo H., Fujita D., Tajima T., Tsunoda T., Nagai R., Kubo M., Komuro I.: A deletion mutation in myosin heavy chain 11 causing familial thoracic aortic dissection in two Japanese pedigrees.Int J Cardiol. Sep 15, 195:290-292, 2015.
10. Imaizumi Y., Eguchi K., Kario K. : Coexistence of PM2.5 and low temperature is associated with morning hypertension in hypertensives. Clin Exp Hypertens. 37 : 468-472, 2015.
11. Imaizumi Y., Eguchi K., Kario K.: Lung Disease and Hypertension. Pulse (Basel). 2015 ; 2 : 103-112.
12. Inoue Y., Takahashi M.: Comment on “Radiation exposure induces inflammatory pathway activation in immune cells”. J Immunol,194 : 5039, 2015.
13. Ishiguro Y., Sasanuma H., Nitta N., Taniguchi N., Ogata Y., Yasuda Y., Akiyama I.: The

arrhythmogenic effect of ultrasonic exposure with acoustic radiation force (ARF) impulse on the rabbit heart with ultrasound contrast agent perfluorobutane. J Med Ultrason (2001). 42:47-50, 2015.

14. Ishikawa J., Ishikawa S., Kario K. : Prolonged corrected QT interval is predictive of future stroke events even in subjects without ECG-diagnosed left ventricular hypertrophy. Hypertension, 65:554-560, 2015.
15. Ishikawa J., Ishikawa S., Kario K.; the JMS Cohort Study Investigator Group.: Relationships between the QTc interval and cardiovascular, stroke, or sudden cardiac mortality in the general Japanese population. J Cardiol. 65 : 237-242, 2015.
16. Iwasaki Y., Maejima Y., Suyama S., Yoshida M., Arai T., Katsurada K., Kumari P., Nakabayashi H., Kakei M., Yada T.: Peripheral oxytocin activates vagal afferent neurons to suppress feeding in normal and leptin-resistant mice: a route for ameliorating hyperphagia and obesity. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 308 : R360-R369, 2015.
17. Kabutoya T., Kario K.: Depression in hypertension and blood pressure variability over shorter time periods. Hypertens Res. 38: 713-715, 2015.
18. Kadoya H., Sato M., Sasaki T., Taniguchi S., Takahashi M., Kashihara N.: Excess aldosterone is a critical danger signal for inflammasome activation in the development of renal fibrosis in mice. FASEB J. 29: 3899-3910, 2015.
19. Kagitani H., Hoshide S., Kario K. : Optimal indicators of home BP variability in perimenopausal women and associations with albuminuria and reproducibility: The J-HOT home BP study. Am J Hypertens. 28: 586-594, 2015.
20. Karasawa T., Kawashima A., Usui F., Kimura H., Shirasuna K., Inoue Y., Komada T., Kobayashi M., Mizushina Y., Sagara J., Takahashi M.: Oligomerized CARD16 promotes caspase-1 assembly and IL-1β processing. FEBS Open Bio 5: 348-356, 2015.
21. Karasawa T., Takahashi M.: RIP140 as a novel therapeutic target in the treatment of atherosclerosis. J Mol Cell Cardiol. 81: 136-138, 2015.
22. Karasawa T., Takahashi M. : Letter regarding article "Anti-inflammatory and anti-atherogenic effects of the inflammasome NLRP3 inhibitor, arglabin, in ApoE2.Ki mice fed a high fat diet". Circulation 132: 21(e249), 2015.
23. Kario K,, Bhatt DL., Brar S., Cohen SA., Fahy M,, Bakris GL. : Effect of catheter-based renal denervation on morning and nocturnal blood pressure: Insights from SYMPLICITY HTN-3 and SYMPLICITY HTN-Japan. Hypertension. 66: 1130-1137, 2015.
24. Kario K,, Hamasaki H.: Nocturnal blood pressure surge behind morning surge in obstructive sleep apnea syndrome: Another phenotype of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome. J Clin Hypertens (Greenwich),17: 682-685, 2015.
25. Kario K., Hoshide S., Haimoto H., Yamagiwa K., Uchiba K., Nagasaka S., Yano Y., Eguchi K., Matsui Y., Shimizu M., Ishikawa J., Ishikawa S.; the J-HOP study group. Sleep blood pressure self-measured at home as a novel determinant of organ damage: Japan morning surge home

blood pressure (J-HOP) study. J Clin Hypertens (Greenwich).17: 340-348, 2015.
26. Kario K., Hoshide S. : Age-related difference in the sleep pressure-lowering effect between an angiotensin II receptor blocker and a calcium channel blocker in Asian hypertensives: The ACS1 study. Hypertension, 65: 729-735, 2015.
27. Kario K., Ogawa H., Okumura K., Okura T., Saito S., Ueno T., Haskin R., Negoita M., Shimada K.; SYMPLICITY HTN-Japan Investigators. SYMPLICITY HTN-Japan - First randomized controlled trial of catheter-based renal denervation in Asian patients. Circ J. 79: 1222-1229, 2015.
28. Kario K. : HONEST to clarify association between home blood pressure and cardiovascular events under antihypertensive medication. J Hum Hypertens. 29 : 69, 2015.
29. Kario K. : Morning surge in blood pressure: a phenotype of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome. Am J Hypertens. 28:7-9, 2015.
30. Kario K. : Systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome: A blind spot in the current management of hypertension. J Clin Hypertens (Greenwich). 17: 328-331, 2015.
31. Kario K. : Prognosis in relation to blood pressure variability: pro side of the argument. Hypertens. 65: 1163-1169, 2015.
32. Kario K. : Preface: EDITORIAL COMMENT "Perfect 24-hr blood pressure control" from morning to nocturnal hypertension: Up-to-date 2015. Curr Hypertens Rev.11: 2-6, 2015.
33. Kario K. : Key points of the Japanese Society of Hypertension guidelines for the management of hypertension in 2014. Pulse (Basel) 3: 35-47, 2015.
34. Kimura H., Caturegli P., Takahashi M., Suzuki K.: New insights into the function of the immunoproteasome in immune and non-immune cells. J Immunol Res. :541984, 2015.
35. Kimura H., Usui F., Karasawa T., Kawashima A., Shirasuna K., Inoue Y., Komada T., Kobayashi M., Mizushina Y., Kasahara T., Suzuki K., Iwasaki Y., Yada T., Caturegli P., Takahashi M.: Immunoproteasome LMP7 deficiency improves obesity and metabolic disorders. Sci Rep. 5 : 15883, 2015.
36. Kitazawa T., Fujisawa K., Narboux-Neme N., Arima Y., Kawamura Y., Inoue T., Wada Y., Kohro T., Aburatani H., Kodama T., Kim KS., Sato T., Uchijima Y., Maeda K., Miyagawa-Tomita S., Minoux M., Rijli FM., Levi G., Kurihara Y., Kurihara H.: Distinct effects of Hoxa2 overexpression in cranial neural crest populations reveal that the mammalian hyomandibular-ceratohyal boundary maps within the styloid process. Dev Biol.402:162-174, 2015.
37. Koga M., Yamagami H., Okuda S., Okada Y., Kimura K., Shiokawa Y., Nakagawara J., Furui E., Hasegawa Y., Kario K., Arihiro S., Sato S., Homma K., Matsuki T., Kinoshita N., Nagatsuka K., Minematsu K., Toyoda K.; SAMURAI Study Investigators. Blood glucose levels during the initial 72 h and 3-month functional outcomes in acute intracerebral hemorrhage: the SAMURAI-ICH study. J Neurol Sci. 350: 75-78, 2015.
38. Komada T., Usui F., Kawashima A., Kimura H., Karasawa T., Inoue Y., Kobayashi M., Mizushina Y., Kasahara T., Taniguchi S., Muto S., Nagata D., Takahashi M.: Role of NLRP3 inflammasomes for rhabdomyolysis-induced acute kidney injury. Sci Rep. 5: 10901, 2015.

39. Komori T., Eguchi K., Saito T., Nishimura Y., Hoshide S., Kario K. : Riser blood pressure pattern is associated with mild cognitive impairment in heart failure patients. Am J Hypertens. 29:194-201, 2015.
40. Kushiro T., Kario K., Saito I., Teramukai S., Mori Y., Okuda Y., Shimada K. : Effectiveness of olmesartan-based treatment on home and clinic blood pressure in elderly patients with masked and white coat hypertension. Hypertens Res.38:178-185, 2015.
41. McMullan CJ., Yano Y., Bakris GL., Kario K., Phillips RA., Forman JP.: Racial impact of diurnal variations in blood pressure on cardiovascular events in chronic kidney disease. J Am Soc Hypertens. 9:299-306, 2015.
42. Miyagi T., Koga M., Yamagami H., Okuda S., Okada Y., Kimura K., Shiokawa Y., Nakagawara J., Furui E., Hasegawa Y., Kario K., Arihiro S., Sato S., Minematsu K., Toyoda K.: Reduced estimated glomerular filtration rate affects outcomes 3 months after intracerebral hemorrhage: The Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement-Intracerebral Hemorrhage Study. J Stroke Cerebrovasc Dis. 24:176-182, 2015.
43. Mizushina Y., Shirasuna K., Usui F., Karasawa T., Kawashima A., Kimura H., Kobayashi M., Komada T., Inoue Y., Mato N., Yamasawa H., Latz E., Iwakura Y., Kasahara T., Bando M., Sugiyama Y., Takahashi M. : NLRP3 protein deficiency exacerbates hyperoxia-induced lethality through Stat3 protein signaling independent of interleukin-1beta. J Biol Chem. 290: 5065-5077, 2015.
44. Nagai M., Hoshide S., Dote K., Kario K. : Visit-to-visit blood pressure variability and dementia. Geriatr Gerontol Int. 15 Suppl 1: 26-33, 2015.
45. Nagai M., Hoshide S., Takahashi M., Shimpo M., Kario K.: Sleep duration, kidney function, and their effects on cerebral small vessel disease in elderly hypertensive patients. Am J Hypertens. 28: 884-893, 2015.
46 Nagai M., Kario K.: Visit-to-visit blood pressure variability: a possible marker of cognitive decline in Alzheimer's disease? Neurobiol Aging. 36 e1, 2015.
47. Nagayama S., Ohkuchi A., Shirasuna K., Takahashi K., Suzuki H., Hirashima C., Sakata A., Nishimura S., Takahashi M., Matsubara S. : The frequency of peripheral blood CD4+Fox3+ regulatory T cells in women with preeclampsia and those with high risk factors for preeclampsia. Hypertens Preg. 34: 443-455, 2015.
48. Natsuaki M., Kozuma K., Morimoto T., Kadota K., Muramatsu T., Nakagawa Y., Akasaka T., Igarashi K., Tanabe K., Morino Y., Ishikawa T., Nishikawa H., Awata M., Abe M., Okada H., Takatsu Y., Ogata N., Kimura K., Urasawa K., Tarutani Y., Shiode N., Kimura T.: Final 3-Year Outcome of a Randomized Trial Comparing Second-Generation Drug-Eluting Stents Using Either Biodegradable Polymer or Durable Polymer: NOBORI Biolimus-Eluting Versus XIENCE/PROMUS Everolimus-Eluting Stent Trial. Circ Cardiovasc Interv.; 8(10), 2015.
49. Nishizawa M., Hoshide S., Okawara Y., Shimpo M., Matsuo T., Kario K. : Aftershock triggers augmented pressor effects in survivors: Follow-up of the great east Japan earthquake. Am J

Hypertens. 28 : 1405-1408, 2015.

50. Oba Y., Watanabe H., Nishimura Y., Ueno S., Nagashima T., Imai Y., Shimpo M., Kario K. : A case of adult-onset acute rheumatic fever with long-lasting atrioventricular block requiring permanent pacemaker implantation. Int Heart J. 56 : 664-667, 2015.
51. Osaki M., Koga M., Maeda K., Hasegawa Y., Nakagawara J., Furui E., Todo K., Kimura K., Shiokawa Y., Okada Y., Okuda S., Kario K., Yamagami H., Minematsu K., Kitazono T,. Toyoda K. ; Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement (SAMURAI) Study Investigators. A multicenter, prospective, observational study of warfarin-associated intracerebral hemorrhage: The SAMURAI-WAICH study. J Neurol Sci. 359:72-77, 2015.
52. Park JB., Kario K., Wang JG. : Systolic hypertension: an increasing clinical challenge in Asia. Hypertens Res. 38:227-236, 2015.
53. Roush GC., Fagard RH., Salles GF., Pierdomenico SD., Reboldi G., Verdecchia P., Eguchi K., Kario K., Hoshide S., Polonia J., de la Sierra A., Hermida RC., Dolan E., Fapohunda J. ; ABC-H Investigators. Prognostic impact of sex-ambulatory blood pressure interactions in 10 cohorts of 17312 patients diagnosed with hypertension: systematic review and meta-analysis. J Hypertens. 33: 212-220, 2015.
54. Sakamoto A., Ishizaka N., Imai Y., Uehara M., Ando J., Nagai R., Komuro I.: Association between serum IgG4 concentrations and the morphology of the aorta in patients who undergo cardiac computed tomography. J Cardiolo. 65:150-156, 2015.
55. Sakamoto A., Ishizaka N., Imai Y., Uehara M., Ando J., Nagai R., Komuro I.: Relationship between serum IgG4 concentrations and atherosclerotic coronary plaques assessed by computed tomographic angiography. J Cardiol. 67:254-261, 2015.
56. Sakamoto K., Kawamura M., Kohro T., Omura M., Watanabe T., Ashidate K., Horiuchi T., Hara H., Sekine N., Chin R., Tsujino M., Hiyoshi T., Tagami M., Tanaka A., Mori Y., Inazawa T., Hirano T., Yamazaki T., Shiba T. ; RESEARCH Study Group. Effect of Ezetimibe on LDL-C Lowering and Atherogenic Lipoprotein Profiles in Type 2 Diabetic Patients Poorly Controlled by Statins. PLoS One: 10, e0138332, 2015.
57. Sakamoto Y., Koga M., Todo K., Okuda S., Okada Y., Kimura K., Shiokawa Y., Kamiyama K., Furui E., Hasegawa Y., Kario K., Okata T., Kobayashi J., Tanaka E., Yamagami H., Nagatsuka K., Minematsu K., Toyoda K. ; for the SAMURAI study investigators. Relative systolic blood pressure reduction and clinical outcomes in hyperacute intracerebral hemorrhage: the SAMURAI-ICH observational study. J Hypertens. 33:1069-1073, 2015.
58. Shibasaki S., Hoshide S., Eguchi K., Ishikawa J., Kario K. ; on behalf of the Japan Morning Surge-Home Blood Pressure (J-HOP) Study Group. Increase trend in home blood pressure on a single occasion is associated with B-type natriuretic peptide and the estimated glomerular filtration rate. Am J Hypertens. 28: 1098-1105, 2015.
59. Shimada K., Kario K., Kushiro T., Teramukai S., Ishikawa Y., Kobayashi F., Saito I. : Differences between clinic blood pressure and morning home blood pressure, as shown by Bland-Altman

plots, in a large observational study (HONEST study). Hypertens Res. 38: 876-882, 2015.

60. Shimizu M., Hoshide S., Ishikawa J., Yano Y., Eguchi K., Kario K. : Correlation of central blood pressure to hypertensive target organ damages during antihypertensive treatment: the J-TOP Study. Am J Hypertens. 28 : 980-988, 2015.
61. Shirasuna K., Karasawa T., Usui F., Kobayashi M., Komada T., Kimura H., Kawashima A., Ohkuchi A., Taniguchi S., Takahashi M.: NLRP3 deficiency improves angiotensin II-induced hypertension but not fetal growth restriction during pregnancy. Endocrinology, 156: 4281-4292, 2015.
62. Shirasuna K., Usui F., Karasawa T., Kimura H., Kawashima A., Mizukami H., Ohkuchi A., Nishimura S., Sagara J., Noda T., Ozawa K., Taniguchi S., Takahashi M. Nanosilica-induced placental inflammation and pregnancy complications: Different roles of the inflammasome components NLRP3 and ASC. Nanotoxicology, 9: 554-567, 2015.
63. Takahashi M.: High-mobility group box 1 protein in myocardial infarction: Should it be stimulated or inhibited? J Atheroscler Thromb. 22: 553-554, 2015.
64. Tomiyama H., Kohro T., Higashi Y., Takase B., Suzuki T., Ishizu T., Ueda S., Yamazaki T., Furumoto T., Kario K., Inoue T., Koba S., Watanabe K., Takemoto Y., Hano T., Sata M., Ishibashi Y., Node K., Maemura K., Ohya Y., Furukawa T., Ito H., Ikeda H., Yamashina A. : Reliability of measurement of endothelial function across multiple institutions and establishment of reference values in Japanese. Atherosclerosis, 242: 433-442, 2015.
65. Toyoda K., Arihiro S., Todo K., Yamagami H., Kimura K., Furui E., Terasaki T., Shiokawa Y., Kamiyama K., Takizawa S., Okuda S., Okada Y., Kameda T., Nagakane Y., Hasegawa Y., Mochizuki H., Ito Y., Nakashima T., Takamatsu K., Nishiyama K., Kario K., Sato S., Koga M. ; SAMURAI Study Investigators. : Trends in oral anticoagulant choice for acute stroke patients with nonvalvular atrial fibrillation in Japan: The SAMURAI-NVAF Study. Int J Stroke; 10: 836-842, 2015.
66. Usui F., Kobayashi M., Takahashi M.: Letter regarding article "Inhibition of interleukin-1beta decrease aneurysm formation and progression in murine model of thoracic aortic aneurysm". Circulation, 131, e399, 2015.
67. Usui F., Shirasuna K., Kimura H., Tatsumi K., Kawashima A., Karasawa T., Yoshimura K., Aoki H., Tsustui H., Noda T., Sagara J., Taniguchi S., Takahashi M.: Inflammasome activation by mitochondrial oxidative stress in macrophages leads to the development of angiotensin II-induced aortic aneurysm. Arterioscler Thromb Vasc Biol. 35: 127-136, 2015.
68. Yamashita E., Takeuchi M., Seo Y., Izumo M., Ishizu T., Sato K., Suzuki K., Akashi YJ., Aonuma K., Otsuji Y., Oshima S.: Prognostic value of paradoxical low-gradient severe aortic stenosis in Japan: Japanese Multicenter Aortic Stenosis Study, Retrospective (JUST-R) Registry. J. Cardiol. 65:360-368, 2015.
69. Yano K., Yasuda H., Takaoka K., Takahashi M., Nakamura H., Imai Y., Wakitani S. : Fate, origin and roles of cells within free bone grafts. J Orthop Sci. 20 : 390-396, 2015.

70. Yokota K., Sakurada T., Koitabashi K., Shibagaki Y., Kario K., Kimura K.: Association between residual kidney function and visit-to-visit blood pressure variability in peritoneal dialysis patients. Adv Perit Dial. 31: 49-53, 2015.

（B）学会発表

『国内学会』

「日本循環器学会　第79回年次学術集会」

（2015年4月24–26日　大阪国際会議場他）

＜会長特別企画＞

興梠貴英：「循環器疾患におけるデータマネージングの重要性」セッションの「臨床研究におけるデータ管理」

＜Late Breaking Clinical Trials 1＞

苅尾七臣：Effectiveness and Safety of Catheter-based Renal Denervation in Japan : Result of the SYMPLICITY HTN-Japan Randomized Trial.

＜Plenary Session 6 (HT)＞

苅尾七臣：Perspectives on renal denervation in Japan.

＜コントロバーシー4（HT）＞　腎デナベーションの現状と展望

苅尾七臣：Renal Denervation Remaining Issues and Perspectives.

池本智一：Renal Denervation for Resistant Hypertension:Current Situation and Future Prospects.

＜ガイドライン委員会セッション：ガイドライン解説3＞

苅尾七臣：災害時循環器疾患の予防・管理に関するガイドライン；心血管リスク評価

＜Luncheon Seminar 48＞ 薬剤性心毒性をバイオマーカーでどう捉えるか？

桂田健一：トラスツズマブによる心毒性とバイオマーカー

＜Featured Research Session 23(HT)＞

Imaizumi Y., **Eguchi K., Kario K.** : Locomotive syndrome –an independent Risk of Larger BP Variability in Elderly Hypertensives-Subanalysis from the JAMP study–.

＜Oral Presentation (English)4(CAD)＞

Kabutoya T.,Kohro T., Kario K.: Antiplatelet Therapy is Associated with a Decrease in the Time in the Therapeutic Range of Warfarin.

＜Oral Presentation (English)19(M)＞ Echo/Doppler(Others)

Yamashita E., Goto E.,Murata T., Okaniwa H., Toide H., Sasaki T., Nakamura K., Kumagai K., Naito S., Oshima S.:Inferior Vena Cava Compression Maneuver as a Novel Technique to Detect Patent Foramen Ovale –Transesophageal Echocardiographic Study–

＜Oral Presentation（日本語）45(MD)＞

Kanegae H.,Oikawa T., **Hoshide S., Kario K.**: Differential Age-related Impact of Risk Factors on New-onset of Hypertension in 95000 Japanese Normotensive Adults: Results of an 8-year-follow-up Study.

＜Poster Session (English)56(HT)＞

Imaizumi Y., **Eguchi K.,Hoshide S.,Kario K.**: Low respiratory function coexisting with smoking habit is associated with elevated morning BP –The J-HOP Study–

＜Poster Session (English)57(HT)＞

Imaizumi Y.,**Eguchi K.**,Tsuchihashi T., **Kario K.**: Increased BP variability is not a marker of target organ damage in the elderly in a remote island –Subanalysis from the JAMP study–

＜Poster Session(English) 77(CAD)＞

Fujiwara T.,Yamashita E., **Hoshide S., Kario K.**: Comparisons of Thromboembolic Milieu Among Each CHADS2 Component in Atrial Fibrillation Patients with CHADS2 Score of 1.

＜Poster Session (English)80（HT）＞

Shimpo M.,Hoshide S., Nagai M., Eguchi K., Kario K.: Association of Diurnal Blood Pressure Variation and Nocturnal Hypoxia in Patients with Cardiovascular Risk Factors: Japan Ambulatory Blood Pressure Prospective (JAMP) SAS Study.

＜Poster Session（日本語）46(CAD)＞

Kabutoya T.,Hoshide S.,Kario K.: tiffness Parameter β of the Brachial Artery is Associated with Total Cholesterol and High Sensitivity C-reactive Protein.

「第235回　日本循環器学会関東甲信越地方会」

（2015年2月7日　東京）

大瀬戸宏綱、今泉悠希、角田顕子、星出　聡、小森孝洋、池本智一、江口和男、市田　勝、新保昌久、苅尾七臣：重症虚血性心疾患による慢性心不全に長期のトルバプタン投与が有効であった一例。

「第236回　日本循環器学会関東甲信越地方会」

（2015年6月20日　東京）

横山靖浩、**渡部智紀、今井　靖、渡邉裕昭、甲谷友幸、緒方信彦、新保昌久、苅尾七臣**：左房粘液腫術後の非通常型心房粗動に対しカテーテルアブレーションが奏功した一例。

「第237回 日本循環器学会関東甲信越地方会」

（2015年9月26日 東京）

＜SessionⅡ-5＞　心臓・腫瘍/その他の疾患

三玉唯由季、小森孝洋、渡邉裕昭、福冨基城、河野　健、緒方信彦、苅尾七臣、小古山由佳子、鳥海進一、池本智一：腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術既往があり、経皮的腎動脈形成術が有効だった難治性高血圧症例。

＜Session Ⅲ-2＞心筋炎・心筋症 - Ⅰ

関谷万理子、江口和男、横田彩子、渡邉裕昭、河野　健、新保昌久、苅尾七臣、廣江道昭：心サルコイドーシスに伴う完全房室ブロックにおいてステロイドパルス療法が無効であった一例。

「第613回　日本内科学会関東地方会」

（2015年3月14日　東京）

＜循環器2＞

小坂明博、山中祐子、永井道明、小森孝洋、江口和男、新保昌久、苅尾七臣：顔面神経麻痺を合併したAL心アミロイドーシスの一例。

「第617回 日本内科学会関東地方会」

（2015年9月12日　東京）

山下英治、村田智行、関　満、村上　淳、河口　廉、安達　仁、星崎　洋、江連雅彦、大島　茂：部分肺静脈還流異常症を合併した重度先天性肺動脈弁狭窄症の高齢患者の一例。

「第311回 日本内科学会九州地方会」

（2015年11月15日　長崎市）

前田幸佑：造影CTで再評価し診断に至った急性巣状細菌性腎炎の1例。

「第17回 日本成人先天性心疾患学会　総会・学術集会」

（2015年1月17–18日　　学術総合センター　一橋記念講堂・会議場　東京）

＜一般口演＞

久保田香菜、市田　勝、西村芳興、石川譲治、小形幸代、上野修市、今井　靖、河田政明、苅尾七臣：成人期に達した修正大血管転位の当院における7例の検討。

＜ポスター＞

山下英治、関　満、池田健太郎、佐々木健人、伴野潤一、村上　淳、中村紘規、安達　仁、内藤滋人、大島　茂：心室頻拍アブレーションと心臓リハビリテーションにより自覚症状の改善が得られたファロー四徴症術後重症肺動脈弁閉鎖不全の1例。

「JET2015(Japan Endovascular Treatment Conference 2015)」

（2015年2月20–22日　大阪市、グランフロント大阪内）

＜The Renaissance of Renal Artery Stenting after CORAL trial>

苅尾七臣：「The importance of Appropriate Renal Artery Stenting」：この高血圧患者には期待できる

＜「Renal denervation after HTN-3」腎デナベーションへの道＞

池本智一：Q3.デバイス開発と臨床試験の現状。

＜Session-4＞

池本智一：Renal Denervation：PositiveなデータとNegativeなデータ(Simplicity3)日本では今後どうなるのか？

＜Session-6＞

緒方信彦：Ao-iliac EVTの合併症とそのBail out：考えられる合併症とそのBail out,事例も踏まえて

＜サテライトシンポジウム2-5＞

緒方信彦：All about SFA

＜ランチョンセミナー3-2＞

緒方信彦：脳血管領域におけるカテーテル治療

「日本総合健診医学会　第43回大会」

（2015年2月20日　富山市）

宮下　洋、志村名佳子、三枝充代：橈骨動脈波波形解析指標による血管機能評価と生活習慣。総合健診： 42 (1) 143、2015

「第26回日本老年医学会四国地方会」

（2015年2月22日　高知市）

＜特別講演：高齢者高血圧の評価と治療＞

苅尾七臣：画一緩和ガイドラインから主治医が考える個別療法へ

「日本生理学会　第92回大会」

（2015年3月23日　神戸国際会議場）

＜口述（英語）＞

Miyashita H.,Katsuda S.：Present conditions of and problems in the clinical application of central blood pressure estimation based on pulse waveform analyses. J Physiol Sci , 65 (suppl 1)：S93、2015

「第26回日本心エコー図学会学術集会」

（2015年3月26–28日　北九州国際会議場）

Yamashita E., Goto E., Murata T., Okaniwa H., Toide H., Sasaki T., Nakamura K., Kumagai K., Naito S., Oshima S. : Inferior Vena Cava Compression Maneuver as a Novel Technique to Detect Patent Foramen Ovale -Transesophageal Echocardiographic Study-.

「第40回日本脳卒中学会総会」

（2015年3月26–29日　広島市）

＜特別企画3：災害と脳卒中＞

苅尾七臣、**大河原幸恵**、**星出　聡**、松尾武文、西澤匡史：東日本大震災にみる血圧管理の重要性とDCAPネットワークシステムの役割

「第58回日本糖尿病学会年次学術集会」

（2015年5月21–24日　下関市）

＜ランチョンセミナー＞

江口和男：糖尿病患者における降圧治療の考え方

「第88回日本超音波医学会学術集会」

（2015年5月23日　東京）

＜ワークショップ＞

山下英治：「low-flow low-gradient ASを極める」我が国のLFLPG/ASの実態

「第4回　臨床高血圧フォーラム（日本高血圧学会）」「臨床最前線からの情報発信」

（2015年5月23–24日　　アクロス福岡）

＜特別企画Ⅴ＞

「災害時循環器疾患の予防・管理に関する3学会合同ガイドラインの要点―日本循環器学会/日本高血圧学会/日本心臓病学会」

星出　聡：災害と心血管疾患

西澤匡史：望ましい避難所環境と感染対策

佐藤敏子：災害時の栄養管理

＜ディベート1＞「治療抵抗性高血圧：薬物治療 vs デバイス治療（RDN）」

星出　聡：治療抵抗性高血圧はデバイス治療にて行う

＜教育講演1＞

江口和男：血圧変動性をどう評価するか

＜一般演題（口演）2　食塩＞

藤原健史、菊池　薫、**星出　聡**、**苅尾七臣**：山間部へき地診療所に通院する後期高齢患者における食塩摂取状況の評価 –簡易食事調査票「塩分チェックシート」を用いて–

＜一般演題（口演）7＞　血管機能

1）志水元洋、**星出　聡**、**矢野裕一朗**、石川譲治、**江口和男**、**苅尾七臣**：降圧薬治療による中心血圧の低下と高血圧性臓器障害改善との関連 –J-TOP研究–

2）**今泉悠希**、**江口和男**、**甲谷友幸**、**苅尾七臣**：高血圧患者における高食塩摂取は血管内皮機能障害と関連する。（女性研究者奨励賞　受賞）

＜一般演題（口演）8　血圧変動・高齢者高血圧＞

今泉悠希、**江口和男**、**苅尾七臣**：ロコモティブシンドロームは、高齢高血圧患者における血圧変動性増大の関連因子である –JAPAN研究サブ解析より–

＜ランチョンセミナー5＞

苅尾七臣：パーフェクト24時間血圧コントロールUp-to-date –新しい概念SHATSを考える–

<ランチョンセミナー6＞

星出　聡：夜間血圧の新しい測り方～家庭血圧計による複数日測定の有用性～

＜アフタヌーンセミナー1＞

苅尾七臣：夜間高血圧UP to Date

＜一般演題（ポスター）16　症例報告（治療抵抗性・重症）＞

今泉悠希、**江口和男**、武冨　章、**苅尾七臣**：ABPMでRiser patternを呈し、大動脈瘤破裂で死亡した塵肺症の一例。

＜一般演題（ポスター）17　食塩3＞

今泉悠希、**江口和男**、土橋卓也、**苅尾七臣**：酸化ストレスが食塩摂取による高血圧性臓器障害を助長させる。

「第36回日本循環制御医学会総会」

（2015年6月5日　名古屋市）

＜シンポジウム3　炎症と周術期循環管理＞

江口和男：高血圧、心疾患と炎症

「第58回日本腎臓病学会学術総会」

（2015年6月5–7日　名古屋国際会議場）

＜イブニングセミナー1：ES1＞

苅尾七臣：全身血行動態アテローム硬化症候群（SHATS）－血圧変動と血管・臓器障害の悪循環

「第2回日本心血管脳卒中学会」

（2015年6月12–13日　　ホテルクレメント徳島）

＜イブニングセミナー2＞

緒方信彦：頸動脈ステント留置術　Up to Date ～脳神経外科医が行うCAS/循環器内科医が行うCAS～

「第15回　臨床血圧脈波研究会」（日本高血圧学会）

（2015年6月20日　新大阪　ワシントンホテルプラザ）

＜口述（日本語）高得点演題＞

1）　**甲谷友幸**：積分化したFMD値の低下はbaPWV高値に関連し、ハイリスク高齢者の心血管イベント発生の予測因子である

2）　今泉悠希、**江口和男、甲谷友幸、苅尾七臣**：高血圧患者における高食塩摂取は血管内皮機能障害と関連する.

＜ポスター演題C＞

宮下　洋、苅尾七臣：橈骨動脈波波形解析とPWVとの併用意義の検討

「第35回日本静脈学会総会」

（2015年7月10–11日　奈良春日野国際フォーラム甍～I・RA・KA～）

久保田香菜、小森孝洋、池本智一、苅尾七臣：人工妊娠中絶周術期に肺血栓塞栓症を来たし、経過中にヘパリン起因性血小板減少症を併発するなど治療に難渋した若年女性の一例.

「第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2015）」

（2015年7月30–8月2日、ヒルトン福岡シーホーク）

＜JUSTNeck 合同セッション＞

緒方信彦：頸動脈狭窄症に対するCASの脳卒中予防効果

＜Panel Discussion：腎デナベーションの未来は？＞

池本智一：HTN-3後の腎デナベーション –今後の試験と新たなデバイス–

「第47回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会」

（2015年10月23–24日　東京（大手町サンケイプラザ））

＜一般演題＞

鳥海進一、緒方信彦、大場祐輔、小古山由佳子、福冨基城、池本智一、苅尾七臣：EVTによる下肢血行再建術を先行することで冠動脈重症多枝病変に対するall arterial graftsによるCABGが可能となったルリッシュ症候群の1例

「第63回日本心臓病学会学術集会」

（2015年9月18–20日　パシフィコ横浜）

＜シンポジウム5：新たなエビデンスに基づく震災時循環器疾患の予防と管理：急性期から慢性期へ＞
苅尾七臣：血圧変動異常：最近のTOPICS-循環器疾患トリガーとしての血圧サージ共振仮説
＜ビジュアルワークショップ5：心サルコイドーシスの診断と治療＞
江口和男、苅尾七臣、廣江道昭：FDG-PET検査は心サルコイドーシスの活動性病変、治療効果および再燃の評価に有用であるか？
＜日本循環器学会・日本心臓病学会・日本高血圧学会合同ガイドライン＞
西澤匡史、**星出　聡、新保昌久、苅尾七臣**：災害時の疾病予防
＜ポスター＞
1）**滝　瑞里、小森孝洋、今井　靖、新保昌久、苅尾七臣**、河田政明：高齢になって自覚症状が出現し手術に至った先天性肺動脈二尖弁の一例。
2）今泉悠希、**江口和男**、土橋卓也、**苅尾七臣**：減塩は高齢者においても高血圧性臓器障害の改善に有用である。
3）**久保田香菜、上野修市、苅尾七臣**：Dasatinibにより発症した肺動脈性肺高血圧症の一例。

「第3回日本肺高血圧学会・第4回日本肺循環学会（JPHS）合同学術集会」
（2015年10月3–4日　ステーションコンファレンス東京）
＜ミニシンポジウム＞
久保田香菜、上野修市、苅尾七臣：両心室間の拡張末期圧比較差はPHの新たな病状評価の指標と成り得る
＜一般＞
① **久保田香菜、上野修市、苅尾七臣**：PEA適応外のCTEPHに対するPDE5阻害薬とsGC刺激薬との比較
② **久保田香菜、上野修市、苅尾七臣**：Dasatinibにより発症した肺動脈性肺高血圧症の一例
③ **久保田香菜、上野修市、苅尾七臣**：重症肺高血圧症患者に精神疾患を併発し、救命し得なかった一例

「第38回日本高血圧学会総会」
（2015年10月9–11日　ひめぎんホール　愛媛）
＜会長特別企画＞
江口和男：高齢者高血圧の降圧目標
＜日本腎臓病学会・日本高血圧学会 合同シンポジウム＞
苅尾七臣：CKD合併高血圧患者の血圧変動性の意義とその管理のあり方
＜日中韓シンポジウム＞
① **Kario K.**：Evidence and Perspective in Home BP Monitoring-Development of New IT-based Home BP Monitoring from Morning to Nocturnal Hypertension
② **Hoshide S.**：Consciousness of Asian Key Opinion Leaders on Management of Hypertension
＜シンポジウム＞
9：今泉悠希、**江口和男、苅尾七臣**：慢性呼吸器疾患患者における血圧変動性の増大について

12：西澤匡史、**星出　聡**、**苅尾七臣**：被災地における血圧管理

13：**興梠貴英**：市販後調査を利用した降圧薬の効果と安全性の把握

15：西澤匡史、**星出　聡**、**苅尾七臣**：被災地におけるABPMを用いた血圧管理

17：苅尾七臣：高血圧の時間医療：日内変動と投薬計画

＜若手企画シンポジウム＞

永井道明、土手慶五、加藤雅也、佐々木正太、**星出　聡**、**苅尾七臣**：ハイリスク高齢者における血圧変動と認知機能障害

＜若手研究者活性化WG企画＞

矢野裕一朗：高血圧臨床研究での留学

＜ランチョンセミナー3＞

苅尾七臣：ITを活用した夜間家庭血圧計の開発と臨床応用

＜高得点演題＞

柴﨑誠一、**星出　聡**、**江口和男**、石川譲治、**苅尾七臣**：1機会に複数回測定した家庭血圧測定値の1機会内における上昇傾向は臓器障害と関連する

＜一般口演＞

① 鐘江　宏、及川孝光、**星出　聡**、**苅尾七臣**：日本人正常血圧集団における高血圧新規発症に関するリスク要因の性別、年齢区分による特徴

② **星出　聡**、**矢野裕一朗**、灰本　元、山際加代、内場　廉、長坂昌一郎、松井芳夫、中村　了、**福冨基城**、石川譲治、**江口和男**、**苅尾七臣**：日本人における家庭血圧の心血管予後推定能に関する研究（Japan Morning Surge-Home Blood Pressure [J-HOP] Study）；予後追跡結果報告

③ **苅尾七臣**、**星出　聡**：心房細動を有する高血圧患者への長時間作用型アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬/カルシウム拮抗薬配合剤の時間降圧療法の降圧効果：他施設共同無作為化比較試験（ACROBAT）

④ 今泉悠希、**江口和男**、土橋卓也、**苅尾七臣**：減塩は高齢者においても高血圧性臓器障害の改善に有用である

⑤ 今泉悠希、**江口和男**、**苅尾七臣**：ロコモティブシンドロームは、高齢高血圧患者における血圧変動性増大の関連因子である –JAMP研究サブ解析より–

⑥ 藤原健史、**星出　聡**、**苅尾七臣**：超高齢者における起立性低血圧とフレイルの関連性 –記名力障害とサルコペニアの観点から–

⑦ **八坂寛久**、**星出　聡**、**江口和男**、**苅尾七臣**：80歳以上の超高齢者における血圧および血圧変動のフレイルと認知機能への関与

＜ポスター＞

佐藤ちひろ、**星出　聡**、海老原　至、**苅尾七臣**：腎機能低下者ではRAS阻害薬内服が夜間高血圧を抑制する：Japan Morning Surge-Home Blood Pressure(J-HOP)Study.

「カテーテルアブレーション関連秋季大会　2015」

（2015年10月15–17日　ビッグパレットふくしま）

<ポスター>

① 佐藤彰洋、**今井　靖、渡部智紀、渡邉裕昭、小森孝洋、甲谷友幸、苅尾七臣**、三橋武司：左上大静脈遺残を合併した発作性上室頻拍の2例

② **渡部智紀、今井　靖、渡邉裕昭**、佐藤彰洋、**小森孝洋、甲谷友幸、苅尾七臣**、蜂谷　仁：順行性遅伝導路に対するカテーテルアブレーションにより逆行性速伝導路が消失した通常型房室結節リエントリー性頻拍の１例

「第56回日本脈管学会総会」

（2015年10月29–31日　虎の門ヒルズフォーラム）

＜会長指定シンポジウム：マルファン症候郡の診療・研究の最前線＞

基調講演：**今井　靖**：マルファン症候群における包括的診療体制の重要性～マルファン症候群専門外来の経験から～

＜症例検討1＞

緒方信彦：閉塞性動脈硬化症：この病変はどう治療するべきか？

「第52回日本臨床生理学会」

（2015年10月31日–11月1日　大宮ソニックシティ）

＜口述（日本語）＞

甲谷友幸、星出　聡、苅尾七臣：心血管リスクを持つ患者での圧受容体反射と睡眠呼吸障害の関連

「第19回日本病態栄養学会年次学術集会」

（2015年11月22日　東京）

＜市民公開講座＞

苅尾七臣：こころとからだのケア：家庭血圧と減塩で血管老化を予防する

「第37回心筋生検研究会」

（2015年12月10–12日　神戸国際会議場）

＜ポスター＞

今泉悠希、**江口和男、小古山由佳子、苅尾七臣**、鈴木　司、福嶋敬宜、廣江道昭：心筋に炎症所見を認めた高血圧心疾患の１例

「第14回自治医科大学シンポジウム」

（2015年9月3日–4日　自治医科大学研修センター）

＜講演＞（講演優秀賞受賞）

江口和男：糖尿病患者における高血圧管理と心血管イベント予防への挑戦。

＜ポスター＞

1） 今泉悠希、**江口和男、星出　聡、苅尾七臣**：Locomotive syndrome a true cause of exaggerated BP variability in the elderly –The JAMP study–.

2) 小森孝洋、江口和男、齋藤俊信、西村芳興、星出　聡、苅尾七臣：Abnormal Circadian Blood Pressure Rhythm is Associated with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction.

『国際学会』

「12th Malaysian Sociey of Hypertension, Jan.24, 2015, Kuala Lumpur」

＜Lunch Symposium＞

Hoshide S.：The Evolution to treatment of hypertension with advanced formulation.

「The 10th Anniversary of Annual Symposium of the Korean Vascular Research Working Group, March 6-7, 2015, Seoul, Korea」

＜Presidential lecture: Special lecture＞

Kario K.：Concept of systemic hemodynamic atherothrombotic syndrome (SHATS) and evidence.

＜COCONET Satellite Symposium: BP Behaviors Session＞

Kario K.：Nocturnal hypertension and morning surge.

「Asia Cardio Care Summit, April 11-12, 2015, Ho Chi Minh, Vietnam」

Kario K.：Burden of cardiovascular disease in Asia: Focusing on high-risk Asian patients.

Kario K.：Optimizing blood pressure management; -What is the role of morning BP surge?

「Hypertension Forum 2015; Asia Expert Advisory Meeting on Hypertension, May 15-16, 2015, Hong Kong」

1) Kario K.：Optimal control of blood pressure in Asia.
2) Kario K.：BPV and home blood pressure monitoring program: Gaps and needs assessment.

「American Society of Hypertension (ASH) 2015 Annual Scientific Meeting, May 15-19 2015, New York, USA」

＜Posters English＞

1) Imaizumi Y., Eguchi K., Tsuchihashi T., Kario K.：High salt intake is associated with target organ damage independently of BP.
2) Imaizumi Y., Eguchi K., Hoshide S., Kario K.：Low respiratory function coexisting with smoking habit is associated with elevated morning BP -The J-HOP Study -
3) Imaizumi Y., Eguchi K., Kario K.：Locomotive syndrome -an independent risk of large BP variability in elderly hypertensives. -Subanalysis from the Japan Ambulatory Blood Pressure Prospective (JAMP) study-

「7th Annual Meeting of The Pulse of Asia, May 22-24, 2015、Shanghai, China 上海（Inter Continental Shanghai Ruijin）」

＜Oral Communication＞

Shimpo M., Hoshide S., Eguchi K., Kario K.：To Prevent Cardiovascular Event in Asian Population: Systemic Hemodynamic Atherothrombotic Syndrome (SHATS) as a novel disease entity.

「25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, June 12-15, 2015, Milan, Italy」

＜Late-breakers: Session 1＞

Kario K., Saito I., Kushiro T., Teramukai S., Tomono Y., Okuda Y., Shimada K.：Morning home blood pressure is a strong predictor of coronary artery disease events as well as stroke events in hypertensive patients on antihypertensive treatment The HONEST study.

＜Late-breakers: Session 3＞

Hoshide S., Kario K., Yano Y., Haimoto H., Yamagiwa K., Uchiba K., Nagasaka S., Matsui Y., Nakamura A., Fukutomi M., Eguchi K., Ishikawa J.：Morning hypertension is an important risk for stroke in Asian population: from J-HOP study.

＜Minisymposium: 24-hr blood pressure management from morning to nocturnal hypertension＞

Kario K.: Research and development of IT-based home BP monitoring from morning to nocturnal hypertension.

＜ESH working group on blood pressure monitoring and cardiovascular variability-Debated Issues in the Field of BP Monitoring＞

1) Kario K.：Debate 1-What is the prognostic relevance of morning blood pressure surge? Morning surge has more prognostic value than the dipping pattern.
2) Hoshide S.：Session 3-Night Time Blood Pressure : New Insights. Night time BP date obtained by a home BP device.

＜Parallel oral session 4A: Resistant hypertension＞

Kario K., Bakris GL., Bhatt D.：Preferential reduction in morning/nocturnal hypertension by renal denervation for drug-resistant hypertension: A new ABPM analysis of SYMPLICITY HTN-3 and HTN-Japan.

＜Parallel oral session 6A: Blood pressure measurement＞

Kuwabara M., Hoshide S., Hamasaki H., Kario K.：Reproducibility of nocturnal blood pressure in sleep apnoea syndrome.

＜Parallel oral session 7A: Obesity and metabolic syndrome＞

Palatini P., Reboldi GP., Beilin L., Casiglia E., Eguchi K., Imai Y., Kario K., Ohkubo T., Pierdomenico SD., Schwartz JE., Wing L., Verdecchia P.：Increased risk of mortality in obese patients with high nocturnal blood pressure variability; Results from the ABP-international study.

＜Posters' Session 07＞

Redon J., Deedwania P., Kario K., Wang J., Versteden J., Reimitz P.：Meta-analysis of blood pressure

reductions with olmesartan medoxomil in clinical comparisons with active controls in patients with hypertension.

＜Posters' session 15　Epidemiology and healthcare organization＞

Nishizawa M., **Hoshide S., Okawara Y., Shimpo M.**, Matsuo T., **Kario K.**：Achievement of blood pressure control using a Disaster Cardiovascular Prevention (DCAP) network.

＜Posters' session 17: Blood pressure measurement and variability＞

Nishizawa M., **Hoshide S., Okawara Y., Shimpo M.**, Matsuo T., **Kario K.**：Environmental changes affect circadian blood pressure variability caused by emotional stress even a few years after the earthquake; Follow-up of the great east Japan earthquake.

＜Posters' session 31: Blood pressure measurement and variability＞

1) Saito I., **Kario K.**, Kushiro T., Teramukai S., Yaginuma M., Mori Y., Okuda Y., Shimada K.：Prognostic value of first, second and a difference between first and second on-treatment home blood pressure measurements.
2) **Hoshide S.**, Matsui Y., Shibasaki S., **Eguchi K., Ishikawa J., Ishikawa S., Kabutoya T., Kario K.**：Association between abnormal orthostatic blood pressure change and day-to-day blood pressure variability.

「2015 American Society of Echocardiography (ASE) Scientific Sessions, June 13–16　2015, Boston, USA」

＜Posters＞

Yamashita E., Goto E., Murata T., Okaniwa H, Toide H., Sasaki T., Nakamura K., Kumagai K., Naito S., Oshima S.：Inferior Vena Cava Compression Maneuver　as a Novel Technique to Detect Patent Foramen Ovale　–Transesophageal Echocardiographic Study–

「Incretin 2015, July 29–31, 2015, Vancouver, British Columbia, Canada」

Katsurada K., Nakata M., Suyama S., Iwasaki Y., **Kario K.**, Yada T.：GLP-1 neurons in the nucleus tractus solitarius project to paraventricular nucleus and suppress feeding.

「European Society of Cardiology(ESC) CONGRESS 2015, August 29–Sep. 2, 2015, London UK」

＜Meet the Experts; Challenges in hypertension＞

Kario K.：The "morning surge" in blood pressure.

＜Moderated Poster; Hypertension: Devices and interventions＞

Kario K., Bhatt D., Townsend R., Flack J., Negoita M., Oparil S., Bakris G.：Potential reduction in office and nocturnal blood pressure after renal denervation in patients with obstructive sleep apnea: a subgroup analysis of SYMPLICITY HTN-3.

＜Poster English＞

1) **Kabutoya T., Hoshide S., Kario K.**：Broad P-wave is associated with brain natriuretic peptide,

left atrial diameter, length of hypertension history and hypertensive medication in hypertensive patients.

2) Yamashita E., Goto E., Murata T., Okaniwa H., Toide H., Sasaki T., Nakamura K., Kumagai T., Naito S., Oshima S. : Inferior Vena Cava Compression Maneuver as a Novel Technique to Detect Patent Foramen Ovale-TransesophagealEchocardiographic Study-

「The 17th National conference of Chinese Society of Cardiology (CSC) and the 9th Oriental Congress of Cardiology (OCC), September 10-13th, 2015, Shanghai, China)」

<Hypertension forum Session 6 ; Management of morning hypertension in community>

Kario K. : Management of morning hypertension in Japan.

「The Annual Scientific Meeting of Taiwan Society of Lipids & Atherosclerosis 2015 and The 15th Taipei International Vascular Biology Symposium, September 12-13th, 2015 Taipei」

<Plenary Session>

Kario K. : The relationship between circadian BP rhythm and cardiovascular risk – Revisit the evidences and update on treatments.

「American Heart Association Scientific Session 2015, November 7-11, 2015, Orlando, USA」

<Abstract Oral session>

Ogoyama Y., Kabutoya T., Hoshide S., Negishi K., Kario K. : Nondipper Pulse Rate Pattern is Associated With Cardiovascular Events, but Night Pulse Rate is Not: Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) Study.

<Abstract Poster Session>

1) Hoshide S., Yano Y., Haimoto H.,Yamagiwa K.,Uchiba K., Nagasaka S., Matsui Y.,Nakamura A., Fukutomi M., Eguchi K., Ishikawa J.,Kario K. on behalf of the JHOP study group. : Home morning versus evening blood pressures as predictors of incident stoke in the Japanese high-risk population : The Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) Study.

2) Kabutoya T., Hoshide S., Kario K. : Depression is associated with cardiovascular events in male but not female patients with one or more cardiovascular risk factors : Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) Study.

3) Negishi K., Hoshide S., Kabtoya T., Ogoyama Y., Eguchi K., Kario K. : Exploring the Interaction Between Nighttime Heart Rate and Heart Rate Variability on Future Cardiovascular Event.

4) Watanabe H., Kabutoya T., Hoshide S., Kario K. : Atrial Fibrillation is Associated with Cardiovascular Events in Obese Japanese with One or More Cardiovascular Risk Factors : Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP)Study.

<e-Abstract session>

Nagai M., Niijima S., Hoshide S., Takahashi M., Shimpo M., Kario K. : Nocturnal Blood Pressure

Burden, Diuretics, and Cardiac Load: Determinants of Nocturia in the Japanese at High-Risk of Cardiovascular Disease.

「2015 Taiwan Society of Cardiology Winter Scientific Meeting; Scientific Sessions, December 11-13th, 2015, Taiwan」

＜Symposium on preventive medicine and hypertension controversial issues in the management of hypertension＞

Kario K.：Morning HTN: Is it a true hazard?

「講演会・研究会」

苅尾七臣

1）加古川内科医会学術講演会～高血圧治療を再考する～（加古川医師会・加古川内科医会）「高血圧治療ガイドラインの改訂の狙いとポイント～イベント発生抑制を見据えた高血圧治療戦略～」2015年1月31日、兵庫県加古川市。

2）第49回糖尿病学の進歩（日本糖尿病学会）＜レクチャー：糖尿病診療に必要な知識＞「糖尿病と高血圧（JSH2004をふまえて）」2015年2月20－21日、岡山市。

3）新潟県地域医療講演会「血圧変動を考慮した降圧療法の重要性～ICTを用いた管理も含めて～」2015年2月28日、新潟県新潟市。

4）第140回鈴鹿市医師会臨床集談会～血圧変動はイベントの要因（鈴鹿市医師会）「家庭血圧に基づく高血圧治療～HONEST StudyのエビデンスからSHATS抑制へ～」2015年4月17日、静岡県鈴鹿市。

5）市民公開講座、健康長寿は高血圧管理から（認定NPO法人日本高血圧協会、「高血圧を自分で下げる5つの習慣」2015年5月10日、秋田県秋田市。

6）岡崎市医師会学術講演会Metsフォーラム（岡崎市医師会）、家庭血圧に基づく高血圧治療～HONEST StudyのエビデンスからSHATS抑制へ～、2015年7月10日、愛知県岡崎市。

7）循環器地域連携講演会～災害時の地域連携について考える会～「災害と高血圧治療～2度の震災経験を踏まえて～」2015年7月13日、東京都千代田区。

8）西予市医師会学術講演会（西予市医師会）「家庭血圧に基づく高血圧治療～HONEST StudyのエビデンスからSHATS抑制へ～」2015年7月24日、愛媛県西予市。

9）第1回宮崎循環器疾患予防研究会「全身血行動態アテローム硬化症候群SHATS－血圧変動と血管・臓器障害の悪循環－」2015年8月7日、宮崎県。

10）小松市・能美市・加賀市医師会学術講演会（小松市・能美市・加賀市医師会、石川県臨床内科医会他）「高血圧診療up to date-β blockerの位置づけも含めて」2015年8月21日、石川県小松市。

11）小県医師会学術講演会（小県医師会）「家庭血圧に基づく高血圧治療～Honest StudyのエビデンスからSHATS抑制へ～」2015年9月24日、長野県上田市。

新保昌久

1）第24回糖尿病センター合同カンファランス「糖尿病患者さんの全身の血管を見る・診る・看る」2015年2月18日、下野市、自治医科大学。

2）第15回市民公開講座、第2部医療講演「血流障害に伴う手足の冷えとしびれ－さまざまな原因と血管の老化・動脈硬化について－」2015年10月31日、宇都宮市。

宮下　洋

1）中之島循環器フォーラム [特別講演]「脈波解析の基礎と応用の可能性」　2015年2月6日、大阪。

2）日本総合健診医学会優良施設認定基準研修会「平成27年度 当施設における総合健診の品質向上の取り組み」2015年9月6日、東京。

星出　聡

1）The official trade launch of Norvasc ODT in Malaysia「The Evolution to treatment of

hypertension with advanced formulation」2015年1月24日、Kuala Lumpur。

2）第18回山陰心血管研究会「血圧変動性の捉え方」2015年2月5日、米子市。

3）上都賀郡医師会学術講演会「血圧変動を考慮した高血圧診療」2015年3月19日、鹿沼市。

4）Characteristics on the Management of Hypertension in Asia (COME Asia) Morning Hypertension Discussion Group(MHDG)、Results of questionnaire on guidelines in Asia、2015年4月23日、大阪。

5）2015 Hypertension Roundtable Discussion Series, Advances in hypertension management：From BP control to organ protection「How do we manage hypertension using home BP monitoring? － From J-HOP study」2015年4月24日、大阪。

6）自分の将来を考える「自分の将来を考える」2015年5月30日、城北学園、東京。

7）MINI Symposium for Doctors in ME in conjunction with ESH 2015 - Milan
「How do we manage hypertension using home BP monitoring? － From J-HOP study」
2015年6月12日、Milan。

8）小山地区医師会学術講演会「高血圧治療のピットフォール～睡眠と夜間高血圧～」2015年11月17日、小山市。

9）第2回Yakushiji Cardiovascular Seminar「個別療法を目指した高血圧診療 ～生活習慣病と心血管イベント～」2015年12月18日、下野市。

今井　靖

1）宇都宮心不全カンファレンス、デバイス治療のタイミング「自治医科大学附属病院における心不全・心室性不整脈の診療」2015年2月13日、宇都宮市。

2）小山地区医師会学術講演会、total care supportを目指した地域医療、テーマ：血栓「心房細動治療の安全路線　薬物療法・非薬物療法」2015年2月24日、小山市。

3）芳賀成人先天性心疾患と肺高血圧治療カンファレンス「成人先天性心疾患への内科・総合診療医の積極的参加」2015年3月19日。

4）下野成人先天性心疾患と肺高血圧治療カンファレンス：state of the heart、2015年4月6日、自治医大。

5）Anticoagulation Therapy up to date「心房細動治療の安全路線　薬物療法・非薬物療法」2015年4月24日、福井県小浜市。

6）真壁医師会学術講演会＜不整脈＞「緊急対応を要する不整脈－注意すべき症状・所見」2015年5月25日、筑西市。

7）第4回栃木地区心原性脳塞栓症予防研究会「実地臨床における心房細動の抗血栓療法」2015年6月11日、栃木市。

8）第41回地域医療を考える会　学術講演会「心房細動治療の安全路線　薬物療法・非薬物療法」2015年7月24日、秋田市。

9）若手医師の為のTokusima β1blocker Conference「頻脈性不整脈の急性期治療」2015年8月26日、徳島市。

10）第6回北関東先天性心疾患肺高血圧フォーラム「成人先天性心疾患　内科医の積極的関与と診療連携」2015年8月29日、さいたま市。

11）第8回栃木県肺高血圧症フォーラム：講演　2015年9月10日　宇都宮市
12）臨床医の為の県南不整脈談話会「不整脈診療における診療連携～自治医大における最近の症例から～」2015年10月19日 小山市。
13）第2回Tochigi Device Symposium、2015年10月23日、宇都宮市。
14）第219回栃木県臨床循環器談話会「不整脈のプライマリーケアとその治療」2015年10月29日、宇都宮市。
15）蕨戸田市医師会学術講演会「失神・めまいの診断と治療～循環器医師の立場から～」2015年11月11日、戸田市。
16）β-blocker Innovation Forum in Saitama「不整脈領域における最近の話題とベータ遮断薬の有用性」2015年11月17日、さいたま市。
17）血栓・塞栓症リスクセミナー～脳梗塞・肺塞栓症～「心房細動に伴う様々なリスクと心房細動治療～薬物・ｱﾌﾞﾚｰｼｮﾝ・ﾍﾟｰｼﾝｸﾞの実際～」2015年11月25日、宇都宮市。
18）第6回　CCM/CRRT CONFERENCE「不整脈領域における最近の話題とベータ遮断薬の有用性」2015年11月30日､東京都文京区。
19）横須賀市うわまち地区　地域連携講演会｢不整脈領域における最近の話題とベータ遮断薬の有用性｣2015年12月7日、横須賀市。

緒方信彦

1）「SLENDER CLUB JAPAN Live Demonstration & Annual Meeting 2015 in TOKYO」実技指導、2015年4月10～12日、東京。
2）足利 Total Vascular Control Seminar：特別講演「全身の動脈硬化疾患を診る～脳・心・下肢の血管病変への包括的アプローチ～」2015年4月14日、足利市。
3）佐野市医師会学術講演会「PCIの最近の話題」2015年4月20日,佐野厚生総合病院
4）順天堂大学浦安病院　EVT Workshop：講演・実技指導、2015年5月14日、千葉県浦安市　順天堂大学浦安病院。
5）真壁医師会学術講演会 ＜虚血性心疾患＞「ガイドラインから学ぶ急性冠症候群の初期診療」2015年5月25日、筑西市。
6）第6回県北循環器懇話会「エキシマレーザー冠動脈形成術について」2015年5月28日、大田原市。
7）循環器カンファレンス2015「PCIの最近の話題」2015年6月5日、熊本県八代市。
8）第35回心筋梗塞研究会 「2025年を見すえた心筋梗塞診療；心筋梗塞を地域で診る」2015年7月4日、品川。
9）TOPIC 2015（Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervension Confereence) Operator、Lecture、2015年7月9日～11日、東京都渋谷区。
10）自治医科大学-真岡・芳賀地区医療ネットワークセミナー「エキシマレーザー冠動形成術について」2015年7月23日、真岡市。
11）院内ワークショップ、Feng Yuan Hospital他　ライブ及びレクチャー、2015年8月26, 27日、台湾。
12）CCI 2015 (Complex Cardiovascular Intervention) Moderator , Speaker　2015年10月22～24日、大韓民国　ソウル特別市。

13）第2回チーム岩手で考える　～PAD治療と患者スクリーニング～「PAD治療について」2015年11月12日、盛岡市。

14）五稜郭脂質異常症セミナー「全身の動脈硬化性疾患を診る　～脳・心・下肢への血管病変への包括的アプローチ～」2015年12月3日、函館市。

15）Pan-Pacific Primary Angioplasty Conference 2015「Session 9：New Device」
2015年12月12日　ベルサール新宿。

江口和男

1）βブロッカーセミナー「高血圧治療におけるβブロッカーの使い方」2015年1月29日　大阪市。

2）高血圧学術講演会 in Osaka「130/80mmHg未満が望ましい疾患へのアプローチ―糖尿病合併高血圧の降圧目標値について考える」2015年2月7日、大阪市。

3）Sapporo Circulate × DM Conference 「家庭血圧・自由行動下血圧を診療に活かす」 2015年3月5日　札幌市。

4）北関東高血圧Web講演会「家庭血圧・ABPMをどう評価し、どう使っていくか？」2015年3月9日 下野市。

5）栃木市糖尿病学術講演会「糖尿病患者における高血圧治療の考え方」2015年6月25日 栃木市。

6）鎌倉市医師会学術講演会「家庭血圧・ABPMを高血圧診療に活かす」2015年7月17日　鎌倉市

7）第７回豊の国地域医療懇話会「日常診療で血圧変動性をどう考え、どう治療していくか」2015年7月31日、大分市。

8）高血圧 Forum 2015 in 会津「高血圧診療において家庭血圧をどのように活かすか？」2015年11月6日、会津若松市。

9）第75回　あすなろう会「高血圧診療でβブロッカーをどう使っていくか」2015年11月13日、栃木市。

甲谷友幸

1）第27回両毛不整脈セミナー「ICD植え込み9年後に心室穿孔を起こした1例」2015年5月9日　高崎市。

2）上都賀郡市北部医師団研修会「心房細動患者に対する最新の新規抗凝固薬(NOAC)の使い分け」2015年5月12日 日光市。

3）島後医師会学術講演会「1時間で分かる新規抗凝固薬(NOAC)の使い分け」2015年5月23日 島根県隠岐町。

4）HAKATA Cardiovascular Conference「第1回　Nondipping pulse rate was associated with a higher level of brain natriuretic peptide in treated hypertensive patients」2015年5月30日、北九州市。

5）第17回東北ストレス関連疾患研究会「高血圧と抑うつ」2015年6月13日、仙台。

6）第15回臨床脈波研究会「積分化したFMD値の低下はハイリスク高齢者の心血管
イベント発生の予測因子である」2015年6月20日、大阪市。

7）ペースメーカ友の会栃木県支部　講演会「ペースメーカークリニックでできること～脳梗塞、心不全の予防のために～」2015年6月28日　宇都宮市。

8）第3回ICD友の会「最近のICD情報」2015年7月14日　宇都宮市。

9）第27回血圧管理研究会「Broad P-wave is associated with brain natriuretic peptide and left atrial diameter in treated hypertensives」2015年11月28日、京都。

池本智一

1）PCI三ノ宮Gambit 2015「日本における腎デナベーションの現状と課題」2015年10月30日、神戸市。

小森孝洋

1）真壁医師会学術講演会「夜間血圧をターゲットとした高血圧治療　－薬物治療をふまえて－」2015年5月25日、筑西市。

横田克明

1）第42回実地医家の為の県南循環器勉強会「複数の合併症を伴い治療に難渋した急性心筋梗塞の一例」2015年6月26日、小山市。

渡部智紀

1）臨床医の為の県南不整脈談話会「日常診療でよく見る発作性上室性頻脈」2015年10月19日、宇都宮市。

桂田健一

1）第2回　ニューロネットワークと循環研究会「GLP-1の中枢を介した摂食・循環調節作用」2015年5月9日 東京。

2）第1回 HAKATA Cardiovascular Conference 「Chronic Intracerebroventricular Injection of Liraglutide Counteracts Hypertension in Spontaneously Hypertensive Rats」2015年5月29-30日、福岡。

3）上都賀郡市医師会学術講演会「術後肺血栓塞栓症の診断・治療ストラテジー」 2015年10月29日 鹿沼市。

渡邉裕昭

1）第1回栃木県心臓電気生理研究会「左右両心側に副伝導路を有する一例」2015年10月9日　宇都宮市。

2）第43回実地医家の為の県南循環器勉強会「ICD電池交換入院中の検査で心室細動の原因と思われる冠動脈起始異常が判明した1例」2015年11月20日、小山市。

滝　瑞里

1）第42回実地医家の為の県南循環器勉強会「高齢になって自覚症状が出現し、手術に至った先天性肺動脈二尖弁の一例」2015年6月26日、小山市。

大場祐輔

1）第1回下野ネットワークミーティング：症例検討「両側の著名な下肢浮腫に鑑別を要した1例」2015年6月25日、下野市。

篠原　肇

1）第41回下野循環器研究会「健康診断の胸部X線異常で判明した先天性心疾患の症例」2015年5月8日、下野市。

久保田香菜

1）医学生、若手医師のキャリアデザインを考える会：シンポジウム2「若手医師のやりがいと悩

み」2015年2月1日、宇都宮市。

2）小山市医師会「循環器内科におけるVTE治療へのとりくみ」2015年2月24日　小山市。

3）第12回東京心臓病理フォーラム「多発脳梗塞と拡張型心筋様の形態を呈した若年女性の心筋症」2015年3月21日、東京。

4）第9回 肺循環研究会「ダサチニブにより発症した 肺動脈性肺高血圧症の一例」2015年4月4日　仙台市。

5）下野成人先天性心疾患と肺高血圧症治療カンファレンス「アイゼンメンジャー症候群患者の在宅療養への取り組み」2015年4月6日 下野市。

6）第42回 下野循環器研究会「速やかな病診連携により救命に至った稀有な肺高血圧症」2015年10月2日、下野市。

7）蔵の街医療・介護セミナー「静脈血栓症(VTE)に取り組むためのチーム医療　～むくみを見たら血栓かも！～」2015年10月13日、栃木市。

8）第3回北関東心不全研究会「植込み型左室補助装置を用いたアドリアマイシン心筋症重症心不全例の管理」2015年11月13日　宇都宮市。

脇　広昴

1）第43回実地医家の為の県南循環器勉強会「当院で行った低体温療法について」2015年11月20日、小山市。

小古山由佳子

1）第1回下野ネットワークミーティング：症例検討「外来にて治療可能であった頻脈性心房細動による心不全の1例」2015年6月25日、下野市。

山中祐子

1）第1回下野ネットワークミーティング：症例検討「持続性心房細動への移行を契機に心不全を発症した1例」2015年6月25日、下野市。

山下英治

1）第17回心筋会「経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）術後1ヶ月で心不全を発症した弁周囲逆流の一例」2015年7月11日　東京。

2）自治医大最新医療研究会 JMU Meeting「大動脈弁狭窄症の最新のトピックス」2015年8月7日　高崎市。

3）第2回群馬成人先天性心疾患研究会「挙児希望を有する両大血管右室起始症（DORV）の１成人例－どのように評価し対応するべきか？－」2015年9月11日　前橋市

4）第44 回群馬県立心臓血管センター症例検討会『当センター 成人先天性心疾患外来で見極める治療の選択』2015年9月15日　前橋市。

5）日本心エコー図学会第12回秋期講習会「弁膜症 僧帽弁」2015年10月3日、東京。

6）群馬県立心臓血管センター地域医療連携企画：成人先天性心疾患の対応について　～先天性心疾患患者の経過観察の指標と最近の治療について考える～「群馬県立心臓血管センター成人先天性心疾患外来で見極める治療の選択」2015年10月28日、桐生市。

7）第43回群馬小児循環器研究会「群馬県立心臓血管センターにおける成人先天性心疾患外来の取り組み」－現状と今後の課題－ 2015年11月14日、前橋市。

藤原健史

1）第1回HAKATA Cardiovascular Conference「Exaggerated blood pressure variability in both clinic and ABPM are associated with cognitive dysfunction in extremely elderly patients」2015年5月29日–30日 福岡。

2）第3回Premium Hypertension Conference「Exaggerated blood pressure variability in both clinic and ABPM are associated with cognitive dysfunction in extremely elderly patients」2015年8月1日–2日　東京

3）第27回血圧管理研究会「Frailty is an important prognostic factor in extremely elderly patients」2015年11月27日、京都。

桑原光巨

1）第1回HAKATA Cardiovascular Conference＜ポスター＞「Reproducibility of Nocturnal Blood Pressure in Sleep Apnea Syndrome.」2015年5月29–30日　福岡市（九州大学医学部）

学会長

苅尾七臣

1）第237回日本循環器学会関東甲信越地方会

（2015年9月26日、ステーションコンファレンス東京）

2）第5回　臨床高血圧フォーラム

（2016年5月14日–15日、ステーションコンファランス東京）

座長・コメンテーター

苅尾七臣

○Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015（2015年2月20–22日, 大阪）

○第40回日本脳卒中学会総会（2015年3月26–29日、広島）

○第79回日本循環器学会学術集会（2015年4月24日–26日、大阪国際会議場）

○第4回 臨床高血圧フォーラム（2015年5月23日–24日、アクロス福岡）

○Hakata Cardiovascular Conference 2015（2015年5月29–30、福岡）

○第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（2015年7月30日–8月1日、福岡）

○第63回日本日本心臓病学会学術集会（2015年9月18–20日、横浜）

○第237回日本循環器学会関東甲信越地方会（2015年9月26日、東京）

○第38回日本高血圧学会総会（2015年10月9–11日、愛媛）

○薬師寺PCIセミナー（2015年7月7日、自治医科大学地域医療情報研修センター）

○European Society of Cardiology Congress 2015（2015年8月29日–9月2日、London, UK）

○The 17th National conference of Chinese Society of Cardiology（CSC）and the 9th Oriental Congress of Cardiology（OCC）（2015年9月10日–13日、Shanghai, China）

新保昌久

○第79回日本循環器学会学術集会（2015年4月24–26日、大阪国際会議場）

○第237回日本循環器学会関東甲信越地方会（2015年9月26日、ステーションコンファレンス東京）

○第55回栃木県総合医学会（2015年11月15日、宇都宮市（とちぎ健康の森））

○第7回Annual Meeting of The Pulse of Asia（2015年5月22日–24日、Shanghai, China）

宮下　洋

○第57回脈波解析研究会（2015年10月31日、東京）

○第52回日本臨床生理学会総会（2015年10月31日、大宮）

興梠貴英

○第79回日本循環器学会学術集会（2015年4月24日–26日、大阪国際会議場）

星出　聡

○第4回臨床高血圧フォーラム（2015年5月23日–24日、アクロス福岡）

○第63回日本日本心臓病学会学術集会（2015年9月18–20日、横浜）

○第38回日本高血圧学会総会（2015年10月9日–11日、愛媛）

今井　靖

○第17回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会（2015年1月17日–18日、東京）

○第1回栃木県若手循環器勉強会（2015年2月16日、下野市（自治医科大学））

○第79回日本循環器学会学術集会（2015年4月24日–26日、大阪国際会議場）

○第1回Current Topic in 宇都宮（2015年5月9日、宇都宮）

○第236回日本循環器学会関東甲信越地方会（2015年6月20日、東京）

○第1回日本心筋症研究会（2015年7月4日、東京）

○第49回日本ペーシング治療研究会（2015年9月5日、広島）

緒方信彦

○Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015（2015年2月20–22日、大阪市：EVTライブデモンストレーションコメンテーター、座長）

○第24回九州トランスラディアル研究会（2015年3月6–7日、佐賀県嬉野市：ライブデモンストレーション2015　コメンテーター）

○第79回日本循環器学会学術集会（2015年4月24–26日　大阪国際会議場）

○第46回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（関東甲信越CVIT）（2015年5月9日、東京）

○第1回栃木県インターベンション研究会（2015年5月30日、宇都宮市）

○第2回日本心血管脳卒中学会学術集会（2015年6月13日、徳島市）

○TOPIC 2015（Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervension Conference）（2015年7月9日–11日　東京）

○第24回日本心血管インターベンション治療学会学術集会（CVIT2015）（2015年7月30–8月2日、福岡）

○第237回日本循環器学会関東甲信越地方会（2015年9月26日、東京）

○第56回日本脈管学会総会（2015年10月29–31日、東京：コメンテーター）

○CCT2015（Complex cardiovascular therapeutics 2015）（2015年10月29–31、神戸）

○Optimal Treatment of peripheral Artery Club（2015年11月14日、横浜市）

○第1回　PAC15（Pan-Pacific Primary Angioplasty Conference 2015）（2015年12月11–12日、ベルサール新宿）

江口和男

○第79回日本循環器学会学術集会（2015年4月24日–26日、大阪国際会議場）

○第237回日本循環器学会関東甲信越地方会（2015年9月26日、東京）

○第4回臨床高血圧フォーラム（2014年5月23日–24日、福岡市）

○第15回臨床血圧脈波研究会（2015年6月20日、大阪市）

○第14回自治医科大学シンポジウム（2015年9月4日、下野市）

池本智一

○Japan Endovascular Treatment Conference（JET）2015（2015年2月20–22日、大阪）

○薬師寺PCIセミナー（2015年7月7日　自治医科大学）

渡邉裕昭

○Hakata Cardiovascular Conference 2015（2015年5月29–30日、福岡）

山下英治

○第17回心筋会（2015年7月11日、東京）

（C）著書・総説

1）荒川規矩男、**苅尾七臣**、島本和明（記事）：鼎談：アムロジピン20年の歴史、臨床高血圧、vol. 21、P3–12。

2）井上賢之、**高橋将文**：肝臓虚血再灌流傷害とインフラマソーム、G.I.Research、23：P397–402.

3）**今井　靖**：Editorial 心臓弁膜症2015、内科、116(3)、P360–362。

4）**今井　靖**、藤田大司：循環器疾患のtrends and topics 2015、循環器遺伝子診療の新展開、Mebio 32 (7)。

5）今泉悠希、**江口和男**、**苅尾七臣**：いま知っておきたい！　内科最新トピックス　5. 家庭血圧測定にはどのような意義があるか　南江堂「内科」、vol. 116（増大号）P1020–1023。

6）岩﨑有作、**桂田健一**、河野大輔、矢田俊彦：消化管ホルモンと迷走神経・中枢神経による摂食・代謝・生体恒常性調節、内分泌・糖尿病・代謝内科　41、P3-8。

7）岩崎美穂香，戸出浩之，岡庭裕貴，吉住聖子，荒関朋美，小林康之，山下英治：心房中隔欠損症における心エコー肺体血流量比の精度に関する検討、A Study on the Accuracy of Pulmonary to Systemic Flow Ratio by Echocardiography in Patients with Atrial Septal Defect、超音波検査技術、40（6）P649–657。

8）臼井文武、**高橋将文**：脂質代謝異常と関連疾患：慢性炎症関連因子ASC、疾患モデルの作製と利用：脂質代謝異常と関連疾患、P43-51。

9）**Eguchi K.**：Blood Pressure Management in Patients with Type 2 Diabetes. Intern Med. 2015 ; 54 : P2285–2289

10）**Eguchi K.**：New insight into effects of β-blockers on arterial functions. Pulse. 2015 ; 3 : 190–194

11）**江口和男**：超高齢者の血圧変動と規定要因、血圧 第22巻第6号。

12）**江口和男**：自律神経機能検査　第5版、心・循環系　6圧受容器感受性検査　P154–159

13）大口昭英、**江口和男**：ハイリスク妊婦の管理、高血圧　P310-315、臨床婦人科産科　2015増刊号 Vol.69 no.4　妊婦健診のすべて　医学書院。

14）**緒方信彦**：E. 英語論文作成の実際（ｃ.抄録、ｄ.序文）、国際学会発表・英語論文作成―成功の秘訣、P120–125

15）貝原俊樹、**星出　聡**、**苅尾七臣**：「家庭血圧をどう診るか」呼吸と循環vol. 63、P671–675。

16）**苅尾七臣** 講演録：血圧変動を抑えて循環器系疾患を防ぐ！広報、消防基金　2015年1月No.194。

17）**苅尾七臣**（インタビュー記事）:「夜の血圧」は夕食前？就寝前？　家庭血圧測定の指導は生活パターンに合わせて臨機応変に。日経メディカル3月号、P26–27。

18）**苅尾七臣**、天野恵子（インタビュー記事）：更年期からリスクが急増。血液にまつわる3つの病気；高血圧、脂質異常症、糖尿病。日経ヘルス1月号　P52–53。

19）**苅尾七臣**：早朝高血圧に注意を―心血管病防ぐ第一歩（共同通信社；17誌に掲載）2015年3月。

20）**苅尾七臣**、Youfa Wang（インタビュー記事）：Controverseries on USPSTF BP screening gudelines、Clinic 門診、2月号　P77–78。

21）**苅尾七臣**（企画・構成）：特集　腎デナベーションの今　Heart View　5月号。

22）**苅尾七臣**：特集　腎デナベーションの今；企画にあたって。Heart View 5月号　P6–7.

23）**苅尾七臣**（監修）：健康情報館；気にしていますか？自分の血圧。健保だより（鉄道弘済会健康保険組合）、no.191 (SPRING)　P6–7。
24）**苅尾七臣**、稲森正彦：便秘INTERFACE；消化器専門医から循環器専門医への質問（回答）；循環器専門医から消化器専門医への質問。Pharma Medica vol.33 P119–123
25）**苅尾七臣**、久代登志男（インタビュー記事）：生活習慣病のいい病院；高血圧、手術数でわかるいい病院（週刊朝日MOOK）。3月15日発行、P336–337。
26）**苅尾七臣**：岡崎市医師会学術講演会MetS フォーラム、家庭血圧に基づく高血圧治療；HONEST StudyからSHATS抑制へ。岡崎医報、第343号、P11。
27）**苅尾七臣**（記事）：睡眠時無呼吸そのとき血圧上昇。朝日新聞　8月5日号 P3
28）**苅尾七臣**（インタビュー記事）：“立って座って”再測定ワザ。NHKためしてガッテン; 脱・高血圧の「超」特効ワザ。3月7日発行、P14–15、主婦と生活社。
29）**苅尾七臣**（監修）：特集1. 家庭血圧測定と温度差対策で寒い季節の血圧管理　こまど　no. 46 P4–8。
30）**苅尾七臣**：朝の血圧測定で心筋梗塞、脳卒中のリスクを予測（広告）、読売新聞　11月7日号 P18。
31）**苅尾七臣**（聞き手 池脇克則）：脈圧測定。ドクターサロンvol.59　P881–884。
32）**苅尾七臣**（記事）：第79回日本循環器学会学術集会が開催される；ガイドライン解説3 心血管リスク評価　Medicament News　6月25日号（第2199号）P10-11。
33）**苅尾七臣**：パーフェクト24時間血圧コントロールのための治療戦略。実地医家が知っておきたい心血管イベント抑制を目指した治療戦略（第36回冠不全研究会 Keynote）P15–25。
34）**Kario K.**：Essential manual of 24-hour blood pressure management from morning to nocturnal hypertension. Wiley-Blackwell, London, P1–138。
35）桑原光巨、**苅尾七臣**：SASのリスクを検出する夜間家庭血圧計の開発。Bio Clinica　Vol.30 P67–73。
36）桑原光巨、**苅尾七臣**：血圧計の歴史。Bio Clinica Vol.31 P98–101。
37）桑原光巨、白崎　修、**苅尾七臣**：特集　睡眠時無呼吸症候群と高血圧
SASのリスクを検出する夜間家庭血圧計の開発。血圧 vol.22　P359–363。
38）Kuwabara M., **Kario K.**：Development of a Triggered Nocturnal Blood Pressure Monitoring which Detects Nighttime Blood Pressure Surges in Sleep Apnea Syndrome. Curr Hypertens Rev. Vol.12 P27–31。
39）小林　基、**高橋将文**：心血管疾患とインフラマソーム。循環器内科78（5）P505–511。
40）**小森孝洋、星出　聡、苅尾七臣**：特集　各国の治療ガイドラインからみたRAS抑制薬の位置づけ。高血圧治療におけるRAS抑制薬の位置づけ－欧州のガイドラインの立場から－。Angiotensin Research　vol.12　P6–9。
41）**新保昌久**：心臓MRIの活用。診断と治療　増刊号　「心不全のすべて」vol. 103 Suppl　P105–110。
42）**新保昌久**：虚血性心疾患。ワシントンマニュアル第13版　P113–168。
43）**高橋将文**：心血管病における無菌性炎症とインフラマソーム。日本臨床検査自動化学会会誌

40(3)、P191–197。
44）永井道明、**苅尾七臣**：特集　肥満と高血圧；睡眠時無呼吸症候群に伴う高血圧と肥満（特別企画）。血圧　vol. 22 P13–17。
45）永井道明、**苅尾七臣**：特集　循環器疾患と睡眠呼吸障害；高血圧症と睡眠呼吸障害循環器内科 vol.77　P129–134。
46）永井道明、**苅尾七臣**：特集　睡眠時無呼吸症候群と高血圧。SASの高血圧の特徴：治療抵抗性高血圧と夜間高血圧。血圧　vol.22 P355–358。
47）南野　徹、鈴木啓介、**苅尾七臣**、堀中繁夫、鳥羽泰之：座談会　リバーロキサンの実臨床における位置付けを考える。Medical Tribune 2015年1月22日。
48）**根岸経太、星出　聡、苅尾七臣**：特集　β遮断薬はこう使いこなせ－基本の理解と処方tips－ 7治す；高血圧：どのような症例でどのように使うか－β遮断薬の位置づけと意義－ Heart View vol 19 P46–55。
49）**福冨基城、苅尾七臣**：特集　新しい循環器病のバイオマーカー　–臨床的意義を理解する– 3. 循環器疾患における各種バイオマーカーの意義；a. CRP　Heart Vie vol.19（増刊号）P142–146。
50）藤原健史、**星出　聡、苅尾七臣**：高血圧とACE阻害薬；概論；RAA系の位置づけを再確認し、ACE阻害薬の効果を再考する ACE阻害薬を使う深い理由。10月5日発行 P36–48、メディカ出版, 大阪。
51）藤原健史、**星出　聡、苅尾七臣**：家庭血圧（就寝前か夕食前）・白衣高血圧（朝夕のみでよいか）ガイドラインから読み解く。高血圧診療のClinical Conference 17講、6月10日発行 P12–30、医薬ジャーナル社、大阪。
52）藤原健史、**星出　聡、苅尾七臣**：「診察室血圧·家庭血圧·ABPM」高血圧治療 update –最新の治療動向– 日本臨床社 Vol. 73, No.1, P1825–1831。
53）藤原健史、**星出　聡、苅尾七臣**：「高齢者の不眠と夜間高血圧およぶ臓器障害を防ぐには」Geriatric Medicine;ライフ・サイエンス　Vol. 53, No.10 P1062–1067.
54）藤原健史、**星出　聡、苅尾七臣**：「高血圧と交感神経」 循環器内科；科学評論社　Vol.78、No.5, P453–461。
55）**星出　聡**：高血圧治療ガイドライン2014からみた高血圧診療。　診断と治療　増刊号　Vol 103 Suppl. P200–204。
56）**星出　聡、苅尾七臣**：デバイスを用いた高血圧治療の最新情報 Heart View　Vol.19. No.4 P84–88。
57）**星出　聡、苅尾七臣**：特集　高血圧治療ガイドラインJSH2014改訂と高血圧治療の展望；Expertise；デバイスを用いた高血圧治療の最新情報Heart View　vol.19 No.4 P420–424。
58）**星出　聡**：腎デナベーションの降圧効、Heart View　Vol.19. No.5 P47–51。
59）**星出　聡**：質疑応答　臨床一般；早朝高血圧患者への対応、日本医事新報　No.4758、P67。
60）**星出　聡**：Visit-to-visitの血圧変動。血圧　Vol.22, No.7 P46–50。
61）**星出　聡、苅尾七臣**：サーカディアンリズムと循環器疾患；サーカディアンリズムと高血圧。医学のあゆみvol. 253　P233–238。
62）**星出　聡**：睡眠呼吸障害と高血圧。医学のあゆみ　Vol.254 No6, 7　P479–484。

63）**星出　聡、苅尾七臣**：トピックス8 高血圧症。循環器診療の最新エビデンスを使いこなす。9月30日発行、P117–131、学研マーケティング，東京

64）**星出　聡、苅尾七臣**：重視される家庭血圧と血圧変動の脳卒中発症予防。分子脳血管病　Vol.14 No.1 P8–21。

65）**星出　聡、苅尾七臣**：Renal denervation（腎神経焼灼術），PTRA（経皮的腎血管形成術）の有効な症例のポイント– SYMPLICITY HTN3, CORAL研究をふまえて。日本内科学会雑誌　第104巻　第2号別冊　P275-281。

66）**星出　聡、苅尾七臣**：高血圧新ガイドラインを読み解く 3. 高血圧の治療–薬物療法心臓　Vol. 47 No.4 P415–419。

67）**星出　聡、苅尾七臣**：血圧変動のリスクの臨床評価に基づいた診療のすすめかたMedical Practice, Vol.32 No.5 P732–740。

68）**星出　聡、苅尾七臣**：特集：循環器疾患のtrends & topics 2015。高血圧治療のup date Mebio Vol.32 No.7　P74-81。

69）前田幸佑：左室駆出率が正常な心不全患者もスピロノラクトンを使用するべきか？誌上EBM抄読会「診療に活かせる論文の読み方が身につきます」Gノート2(5)、P777–786。

70）**宮下　洋**：［研究室紹介］自治医科大学附属病院 健診センター、血圧22(2)、P146–147。

71）**宮下　洋**：［研修会：優良施設認定基準研修会（2015.9.6）］当施設における総合健診の品質向上の取り組み、総合健診42(6) P660–661。

72）山下英治：臨床講座「低流量低圧較差大動脈弁狭窄症の重症度診断　–ドブタミン負荷心エコーの有用性とその実際–」超音波検査技術Vol.40 No.1 P60–66。

73）横山靖浩、**今井　靖**：循環器分野におけるバイオマーカー、細胞　47(3) P9–113。

74）**渡邉裕昭、今井　靖**、小森孝洋、甲谷友幸、苅尾七臣：ペースメーカーの最近の進歩、医学と薬学 72(3)、P405–416。

医学雑誌編集

苅尾七臣

1. Current Hypertension Reviews：USA：Editor-in-Chief
2. Journal of Cardiology (Official Journal of Japanese Society of Cardiology)Japan： Associate Editor
3. Circulation Journal (Official Journal of Japanese Society of Circulation)：Japan：Editorial Board
4. Hypertension (Official Journal of American Heart Association)：USA：Editorial Board
5. Current Cardiology Reviews：UK：Editorial Board
6. Evidence-based Cardiovascular Medicine：UK：Editorial Board
7. Expert Review of Cardiovascular Therapy：UK：Editorial Board
8. Renin Angiotensin system in Cardiovascular Medicine：Netherlands：Editorial Board
9. Journal of Clinical Hypertension (Official Journal of World Hypertension League)：USA：Editorial Board
10. Blood Pressure Monitoring：USA：Editorial Board
11. Current Hypertension Reviews：UK：Editorial Board
12. American Journal of Hypertension：USA： Editorial Board
13. Recent Patent Reviews on Cardiovascular Drug Discovery：UK：Editorial Board
14. Journal of Japanese Society on Thrombosis and Hemostasis： Japan：Editorial Board
15. Journal of American Society of Hypertension (Official Journal of American Society of Hypertension)：USA：Editorial Board
16. Journal of Human Hypertension： UK：Editorial Board
17. International Journal of Hypertension：USA：Editorial Board
18. World Journal of Cardiology：Beijing：Editorial Board
19. Journal of Hypertension (Official Journal of Internal Society of Hypertension)：Milan：Editorial Board
20. Current Cardiology Reviews：U.A.E.：Editorial Board
21. Cardiology Research: Canada：Editorial Board
22. Heart and Vessels : Japan : Editorial Board
23. International Heart Journal : Japan : Editorial Board
24. Internal Medicine : Japan : Editorial Board
25. Hypertension Research (Official Journal of Japanese Society of Hypertension) : Japan : Editorial Board
26. Current Hypertension Reports : USA : Editorial Board
27. PLOS ONE :USA : Editorial Board
28. Clinical Hypertension, Korea：Korea： Editorial Board
29. Faculty of 1000 Medicine 'Hemodynamics, Hypertension and Vascular Biology': USA: Evaluation Board

高橋将文

1. Journal of Geriatric Cardiology：China：Editorial Board
2. Journal of Molecular and Cellular Cardiology：USA：Editorial Board
3. ISRN Cardiology：USA：Editorial Board
4. American Journal of Cardiovascular Disease： USA ：Editorial Board
5. World Journal of Pharmacology：China： Editorial Board
6. World Journal of Hypertension： China：Editorial Board
7. World Journal of Hematology：China： Editorial Board
8. Translational Medicine: Current Research：USA ：Editorial Board
9. The Scientific World JOURNAL：USA：Editorial Board
10. International Journal of Clinical Therapeutics and Diagnosis：USA：Editorial Board
11. Organ Biology：Japan：Editorial Board
12. Advances in Medicine ：USA：Editorial Board
13. Journal of Cardiology and Therapy： Hong Kong：Editorial Board
14. Frontiers in Cardiovascular Medicine：Switzerland： Editorial Board
15. Journal of Biochemistry and Molecular Biology Research：Hong Kong ：Editorial Board
16. International Heart Journal：Japan：Editorial Board

今井　靖

1. 診断と治療：日本：2015-2019編集委員
2. 内科（南江堂）：日本：心臓弁膜症2015　初期診断・治療・管理のすべて：編集
3. エルゼビアジャパン：今日の診療サポート（web教科書）：日本：今日の診療サポート（web教科書）：編集委員
4. International Heart Journal：日本（国際誌）：Associated Editor

テレビ・ラジオ放送、新聞等への出演・寄稿

苅尾七臣

○NHK ためしてガッテン（2015年11月11日（水）20：00～22：43放送）

「血管を守れ！動脈硬化を見抜く夢ワザ3連発」

新保昌久

①広報　しもつけ　2015年5月号（2015年5月1日発行）

自治医科大学附属病院　連携協働コラム

「安全な医療は、まず患者さんのお名前を言っていただくことから始まります！」

②下野新聞の生活情報紙　ASPO（2015年12月17日発行）

健康特集　vol.41 脳卒中を防ごう「動脈硬化予防に禁煙は必須」

甲谷友幸

○ラジオNIKKEI　医学講座 FMD（血管内皮機能検査）を臨床に活かすには（2015/7/7放送）

（D）その他

＜受賞＞

星出　聡

ALBERTO FERRARI POSTER PRIZE - 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection.

「Association between abnormal orthostaticc blood pressure change and day-to-day blood pressre variability.」

江口和男

JMUシンポジウム講演優秀賞

「糖尿病患者における高血圧管理と心血管イベント予防への挑戦」

桑原光巨

HAKATA Cardiovascular Conference Poster Award.

「Reproducibility of Nocturnal Blood Pressure in Sleep Apnea Syndrome」

柴﨑誠一

第38回日本高血圧学会総会・リサーチアワード

「１機会に複数回測定した家庭血圧測定値の１機会内における上昇傾向は臓器障害と関連する」

藤原健史

第3回Premium Hypertension Conference・優秀賞

「Exaggerated blood pressure variability in both clinic and ABPM are associated with cognitive dysfunction in extremely elderly patients」

今泉悠希

第4回　臨床高血圧フォーラム（日本高血圧学会）：女性研究者奨励賞

第15回　臨床血圧脈波研究会：高得点演題

「高血圧患者における高食塩摂取は血管内皮機能障害と関連する」

池本智一

H27年度自治医科大学附属病院病院長賞（第3回）

＜研究助成＞

苅尾七臣

1）平成23–27年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「サーカディアンメディシンの基礎臨床連携研究拠点　3. リズム障害から観た疾患成因の解明と診断法の確立」（研究分担者）

2）平成25–27年度　厚生労働省長寿医療研究開発費「日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究」（研究代表者：国立長寿研究センター　櫻井　孝）分担研究：白質病変のリスクと臨床的意義の検討：睡眠ならびに腎機能との関連

3）平成25–29年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「マウスからヒトへ：大型動物を利用する橋渡し研究」（研究分担者）

4）平成25–29年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「非感染性疾患の病態解明と診断・治療法の開発拠点の形成」（研究分担者）

5）平成25–27年度　厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「特定健診・保健指導における健診項目等の見直しに関する研究」（研究分担者）

6）平成25–27年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「高感度加速度センサー内蔵携帯型自由行動下血圧計を用いた心疾患患者への運動プログラムの作成」（研究分担者）

7）平成25年–27年　度科学研究費助成事業（学術研究助成基金）（基盤研究C）「上腕動脈の血管弾性の臨床的意義についての検討」（研究分担者）

8）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究代表者）

9）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「細胞老化における臓器障害と心血管予後のメカニズム」（研究分担者）

10）平成27–31年度　日本医療研究開発機構（AMED）研究費：革新的先端研究開発支援事業「リン恒常性を維持する臓器間ネットワークとその破綻がもたらす病態の解明」（研究分担者）

11）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）「高血圧ワクチン実用化による降圧の質的改善を目指した新規治療」（研究分担者）

12）平成27–30年度　日本医療研究開発機構（AMED）研究費：未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業ICTを活用した診療支援技術研究開発プロジェクト「ウェアラブルモニターで実現する循環器診断支援技術の開発」（研究開発担当者）

13）Banyu Foundation Research Grant－震災研究支援－2015年度追加助成金「震災被災者の血圧遠隔モニタリング・リスク管理システムの構築および循環器リスク予防に関する研究」（研究代表者）

14）科学技術振興機構（JST）委託費（革新的研究開発推進プログラムImPACT）平成27–30年度「社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォーム」（プログラム・マネージャー：京都大学　原田 博司）「医療データの統合・解析による予測モデルの構築とリスクシミュレータの開発：地域医療、心疾患、血圧・血圧変動リスクシミュレータの開発、および医療計測リアルタイムデータ取得のための無線データ収集システムの開発」（研究開発分担研究者）

高橋将文

1）平成25年度–29年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業：非感染性疾患の病態解明と診断・治療法の開発拠点の形成（自治医科大学　永井 良三）「生活習慣病・心血管病における自然炎症

機構の解明」

2）平成26年度–31年度　戦略的創造研究推進事業：リン恒常性を維持する臓器間ネットワークとその破綻がもたらす病態の解明（自治医科大学　黒尾誠）「コロイド粒子CPPによる自然免疫反応誘導機構の解明」

3）平成26年度　武田科学振興財団2014年度特定研究助成：NCDの成因としての間質・実質細胞間ネットワーク破綻のメカニズムの解明と新規治療標的分子の同定（自治医科大学　古川雄祐）「慢性炎症における治療標的分子の同定」

4）平成27年度–29年度　科学研究費補助金（基盤研究C）「インフラマソームを介した心血管病の分子基盤の解明」

5）平成27年度　ソルト・サイエンス研究「低カリウム誘発性炎症性反応における新規自然炎症経路インフラマソームの役割の解明」

新保昌久

1）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

2）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）「高血圧ワクチン実用化による降圧の質的改善を目指した新規治療」（研究分担者）

星出　聡

1）平成25–27年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「高感度加速度センサー内蔵携帯型自由行動下血圧計を用いた心疾患患者への運動プログラムの作成」（研究代表者）

2）平成25年–27年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金）（基盤研究C）「上腕動脈の血管弾性の臨床的意義についての検討」（研究分担者）

3）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）:「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

4）平成27年一般財団法人日本健康増進財団（生活習慣病予防に関する研究助成）「動脈硬化病変からみた高血圧発症機序に関する研究」（研究代表者）

5）公益財団法人　三井生命厚生財団　第24回（平成27年度）「医学研究特別助成」「慢性心不全患者に対する運動療法の最適化：高感度加速度センサー内臓携帯型自由行動下血圧計を用いた検討」

6）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「細胞老化における臓器障害と心血管予後のメカニズム」（研究分担者）

今井　靖

1）平成25年度–27年度　科学研究費補助金（基盤研究C）:「遺伝子診断・細胞工学を組み合わせた遺伝性大動脈疾患の病態解明」(研究代表者)

江口和男

1）平成25年–27年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金）（基盤研究C）「上腕動脈の血管弾性の臨床的意義についての検討」（研究分担者）

2）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）:「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

3）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「細胞老化における臓器障害と心血管予後のメカニズム」（研究代表者）

市田　勝

1）平成26–28年度　科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）：「レジリエンス・エンジニアリングによる新たな医療安全文化を醸成するシステムの開発」（研究分担者）

2）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）：「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

甲谷友幸

1）平成25年–27年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金）（基盤研究C）「上腕動脈の血管弾性の臨床的意義についての検討」（研究代表者）

2）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）：ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

3）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「細胞老化における臓器障害と心血管予後のメカニズム」（研究分担者）

池本智一

1）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）：「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

小形幸代

1）平成24–27年度　科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究B）
「位相差トラッキング法による局所血管弾性率の臨床的有用性の実証」（研究代表者）

2）平成26–30年度　科学研究費助成事業（基盤研究B）：「ITマルチトリガー夜間家庭血圧モニタリングシステムの開発と臨床応用」（研究分担者）

小森孝洋

1）平成27–29年度　科学研究費助成事業（基盤研究C）「細胞老化における臓器障害と心血管予後のメカニズム」（研究分担者）

山下英治

1）平成27年度群馬県立病院総合研究費「心房細動患者における先天性心疾患罹患率とその臨床的特徴に関する研究」

藤原健史

1）平成27年度　長寿長寿社会づくりソフト事業費交付金（公益財団法人 地域社会振興財団「群馬県東吾妻町の循環器リスク高齢患者における情報技術を用いた家庭血圧予測研究」

＜教室内カンファランス＞

1. 1月14日（水）学位審査研究発表予演「日本人の高齢高血圧患者における心電図上の左室肥大と心血管疾患との関連」
2. 1月21日（水）学位審査研究発表予演「糖尿病治療薬GLP-1受容体アゴニストの中枢を介した心血管作用」

3. 1月28日（水）ミトコンドリア心筋症が疑われた若年女性の一例
4. 2月4日（水）日循第235回関東甲信越地方会予演「重症虚血性心疾患による慢性心不全に長期のトルバプタン投与が有効であった一例」、Impellaについて
5. 2月18日（水）外来看護師・栄養士による「外来通院心不全患者への多職種介入の取り組み」
6. 2月25日（水）たこつぼ心筋症の画像所見
7. 3月4日（水）卒後臨床研修センター主催第3回CPC
8. 3月11日（水）日本内科学会第613回関東地方会予演
9. 3月25日（水）冠動脈バイパス術後に僧帽弁閉鎖不全が増悪した症例
10. 4月1日（水）心移植登録の実際
11. 4月15日（水）第79回日本循環器学会予演①
12. 4月22日（水）第79回日本循環器学会予演②
13. 5月13日（水）Research meeting
14. 5月27日（水）症例検討
15. 6月3日（水）学位審査研究発表予演
16. 6月10日（水）海外学会報告（Heart Rhythm 2015，Euro PCR 2015）
17. 6月17日（水）出血性潰瘍に心筋梗塞が合併した症例
18. 6月24日（水）左手指に虚血をきたした症例
19. 7月1日（水）Research meeting
20. 7月8日（水）治験の説明会
21. 7月15日（水）卒後臨床研修センター主催　第1回CPC
22. 9月9日（水）海外学会報告（ESC 2015）
23. 9月16日（水）第237回日循関東甲信越地方会予演／第63回心臓病学会予演
24. 9月30日（水）Research meeting：心カテデータベース
25. 10月7日（水）二次予防外来の現状と展望
26. 10月14日（水）成人先天性心疾患カンファ（2件）
27. 10月21日（水）川人宏次先生（心外）による「左室形成術について」
28. 11月4日（水）AHA予演会（5演題）
29. 11月11日（水）卒後臨床研修センター主催 第2回CPC（循環器内科「多彩な臨床症状を呈した原発性肺高血圧の症例」
30. 11月18日（水）海外学会報告会（AHA2015）/SPRINTを考える
31. 11月25日（水）Heyde Syndrome
32. 12月2日（水）成人先天性心疾患カンファ（3症例）
33. 12月9日（水）肝機能障害とトルバプタン
34. 12月16日（水）TAVIの適応基準（症例提示）

＜Journal Club＞

1. 1月14日（水）“The speed of blood pressure fluctuations in patients with chronic obstructive pulmonary disease.”（肺気腫患者の血圧変動）担当：今泉

2. 1月21日（水）“Implant-based multiparameter telemonitoring of patients with heart failure (IN-TIME): a randomised controlled trial.”（心不全患者における植え込み型電子デバイスの遠隔監視：ランダム化比較試験）　担当：今井
3. 1月28日（水）“Long-term outcome in congenitally corrected transposition of the great arteries: a multi-institutional study.”（修正大血管転位症の長期予後）　担当：久保田
4. 2月4日（水）“Impaired responsiveness to the platelet P2Y12 receptor antagonist clopidogrel in patients with type 2 diabetes and coronary artery disease.”（糖尿病合併冠動脈疾患患者におけるP2Y12受容体拮抗薬（クロピドグレル）の反応性低下機序）　担当：緒方
5. 2月18日（水）“Efficacy of a device to narrow the coronary sinus in refractory angina.”（難治性狭心症における冠静脈洞径を縮小させるデバイスの有効性）担当：大場
6. 2月25日（水）“Association between surgical indications, operative risk, and clinical outcome in infective endocarditis: a prospective study from the international collaboration on endocarditis.”（感染性心内膜炎における外科的適応、手術リスクおよび予後の関連）担当：江口
7. 3月4日（水）“Ischemic brain lesions after carotid artery stenting increase future cerebrovascular risk.”（頭部MRI画像における頸動脈ステント留置後の虚血性病変と脳血管障害再発のリスク？）担当：永井
8. 3月11日（水）“Low-level transcutaneous electrical vagus nerve stimulation suppresses atrial fibrillation.”（経皮的低電位迷走神経電気刺激は心房細動を抑制する）　担当：渡部
9. 3月25日（水）“Surgical treatment of moderate ischemic mitral regurgitation.”（中等度の虚血性僧帽弁閉鎖不全症の外科治療）　担当：市田
10. 4月1日（水）“Sumo E2 enzyme UBC9 is required for efficient protein quality control in cardiomyocytes.”（心筋細胞におけるSUMO特異的E2様酵素UBC9のタンパク質調整の役割）　担当：河野
11. 4月15日（水）“Electrocardiographic deep terminal negativity of the P wave in V(1) and risk of sudden cardiac death: the Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) study.”（心電図V1誘導のP波の変化と突然死リスク）　担当：甲谷
12. 4月22日（水）“Clinical outcome of renal artery stenting for hypertension and chronic kidney disease up to 12 months in the J-RAS Study – prospective, single-arm, multicenter clinical study.”（アテローム性腎動脈狭窄を有する日本人患者における腎動脈ステント留置術：J-RAS試験）　担当：小古山
13. 5月13日（水）“Discordance between echocardiography and MRI in the assessment of mitral regurgitation severity: a prospective multicenter trial.”（MRIとエコー検査での僧帽弁逆流重症度評価の相違）　担当：山中
14. 5月27日（水）“Safety and effectiveness of drug-eluting versus bare-metal stents in saphenous vein bypass graft percutaneous coronary interventions: insights from the Veterans Affairs CART program.”（SVG-PCI時におけるBMSとDESの有効性、安全性の比較）担当：鳥海
15. 6月3日（水）“Approaches to catheter ablation for persistent atrial fibrillation.”（持続性AFのアブレーション）　担当：渡邉

16. 6月10日（水）“Adaptive servo-ventilation therapy for patients with chronic heart failure in a confirmatory, multicenter, randomized, controlled study.”（慢性心不全患者に対するAdaptive servo-ventilation therapy（ASV療法）の多施設無作為化比較試験）担当：滝
17. 6月17日（水）“Comparison of dopamine and norepinephrine in the treatment of shock.”（ショック治療におけるドパミンとノルエピネフリンの比較）　担当：池本
18. 6月24日（水）“Clinical outcomes with β-blockers for myocardial infarction: a meta-analysis of randomized trials.”（心筋梗塞に対するβ-blockersの臨床結果）　担当：有馬
19. 7月1日（水）“Baroreflex Activation Therapy for the Treatment of Heart Failure With a Reduced Ejection Fraction.”（収縮力の低下した心不全に対する迷走神経刺激療法）　担当：小森
20. 7月8日（水）“Effects of spironolactone on ventricular-arterial coupling in patients with chronic systolic heart failure and mild symptoms.”（収縮能が低下した心不全患者に対するスピロノラクトンの心室―動脈カップリングへの効果）　担当：根岸
21. 9月9日（水）“Perioperative Bridging Anticoagulation in Patients with Atrial Fibrillation.”（心房細動患者の周術期におけるヘパリンブリッジング）　担当：石山
22. 9月16日（水）“A randomized trial evaluating everolimus-eluting Absorb bioresorbable scaffolds vs. everolimus-eluting metallic stents in patients with coronary artery disease: ABSORB Japan.”（生体吸収性スキャフォールドとエベロリムス溶出性ステントの冠動脈疾患患者におけるランダム化試験：ABSORB Japan）　担当：福冨
23. 9月30日（水）“Empagliflozin, Cardiovascular Outcomes, and Mortality in Type 2 Diabetes.”（SGLT2阻害薬は心血管予後を改善するか？）　担当：星出
24. 10月7日（水）“Clinical Features and Outcomes of Takotsubo (Stress) Cardiomyopathy.”（たこつぼ型心筋症の臨床像とアウトカム）　担当：興梠
25. 10月14日（水）“Triple therapy with aspirin, prasugrel, and vitamin K antagonists in patients with drug-eluting stent implantation and an indication for oral anticoagulation.”（プラスグレルを含む3剤抗血栓療法）　担当：新島
26. 10月21日（水）“Outcomes of anatomical versus functional testing for coronary artery disease.”（安定した胸痛患者に冠動脈CTをまず行うことは、臨床転帰の改善につながるか？）　担当：新保
27. 11月4日（水）“Rate-Control Treatment and Mortality in Atrial Fibrillation.”（心房細動患者のレートコントロールの治療法と死亡率）　担当：今井
28. 11月11日（水）“Sex-Specific Association of Sleep Apnea Severity With Subclinical Myocardial Injury, Ventricular Hypertrophy, and Heart Failure Risk in a Community-Dwelling Cohort: The Atherosclerosis Risk in Communities-Sleep Heart Health Study.”（睡眠時無呼吸の重症度と心筋障害、心室肥大、心不全リスクとの相関に性別差はあるのか）　担当：篠原
29. 11月18日（水）“A Randomized Trial of Intensive versus Standard Blood-Pressure Control.”（強化降圧治療と標準降圧治療を比較したランダム化試験・SPRINT）　担当：苅尾
30. 11月25日（水）“A randomized, prospective, intercontinental evaluation of a bioresorbable polymer sirolimus-eluting coronary stent system: the CENTURYII (Clinical Evaluation of New Terumo Drug-Eluting Coronary Stent System in the Treatment of Patients with Coronary Artery

Disease) trial.”（生分解性ポリマー・シロリムス溶出ステントのエベロリムス溶出ステントとの比較検討：CENTURY Ⅱ試験） 担当：緒方

31. 12月2日（水）“Air Versus Oxygen in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction.”（STEMI患者における酸素投与する群と酸素投与しない群との比較試験） 担当：大場
32. 12月9日（水）“Diagnosis and Detection of Myocardial Injury in Active Cardiac Sarcoidosis – Significance of Myocardial Fatty Acid Metabolism and Myocardial Perfusion Mismatch.”（活動性の心サルコイドーシスにおける心筋傷害の診断と同定 –心筋脂肪酸代謝と心筋血流のミスマッチの有用性–） 担当：江口
33. 12月16日（水）“Inhibition of Histone Deacetylase Activity Aggravates Coxsackievirus B3-Induced Myocarditis by Promoting Viral Replication and Myocardial Apoptosis.”（ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬によるコクサッキーウイルス心筋炎の増悪） 担当：河野

7. 学生教育

平成27年度

1）M1　早期体験実習

平成27年6月11日（木）　　外来付き添い実習　　今井　靖

2）M2　基礎臨床系統講義「循環」

年月日（曜）	授業項目	担当者
H27年		
11. 2（月）	1. 循環器疾患の症状と徴候	苅尾七臣（循環器内科）
11. 4（水）	2. 循環器疾患の基礎知識（心臓）	甲谷友幸（循環器内科）
11. 4（水）	3. 検査法の基本（心エコー）	市田　勝（循環器内科）
11. 5（木）	4. 循環動態と身体所見のとり方	黒木茂広（循環器内科）
11.10（火）	5. 検査法の基本（正常心電図）	三橋武司（総合医学）
11.10（火）	6. 検査法の基本（異常心電図）	〃
11.12（木）	7. 弁膜疾患（大動脈弁・連合弁・その他）	市田　勝（循環器内科）
11.12（木）	8. 弁膜疾患（僧帽弁疾患・連合弁膜症）	市田　勝（循環器内科）
11.17（火）	9. 血管構造・生理とアテローム動脈硬化（リスク因子を含む）	新保昌久（循環器内科）
11.19（木）	10. 虚血性心疾患（虚血の病態生理・狭心症）	緒方信彦（循環器内科）
11.20（金）	11. 虚血性心疾患（心臓ｶﾃｰﾃﾙ検査・治療）	緒方信彦（循環器内科）
11.27（金）	12. 心不全（1）	百村伸一（総合医学）
11.27（金）	13. 心不全（2）	百村伸一（総合医学）
11.30（月）	14.虚血性心疾患（急性冠症候群の病態生理と診断・治療）	藤田英雄（総合医学）
12. 1（火）	15. 心筋疾患（心筋症・心筋炎）心膜疾患	江口和男（循環器内科）
12. 4（金）	16. 不整脈（1）	今井　靖（循環器内科）
12. 4（金）	17. 不整脈（2）	今井　靖（循環器内科）
12. 7（月）	18. 大動脈疾患、末梢動脈疾患	新保昌久（循環器内科）
12. 8（火）	19. 感染性心内膜炎・心臓腫瘍	江口和男（循環器内科）
H28年		
1. 7（木）	20. 心臓血管外科（後天性心疾患）	三澤吉雄（心臓血管外科）
1. 8（金）	21. 肺血栓塞栓症・肺高血圧症	今井 靖（循環器内科）
1.12（火）	22. 血管外科（大動脈・末梢動脈疾患・静脈疾患）	大木伸一（心臓血管外科）
1.12（火）	23. 先天性心疾患の診断・疫学・各論Ⅰ	南　孝臣（小児科）
1.14（木）	24. 先天性心疾患各論Ⅱ	南　孝臣（小児科）
1.15（金）	25. 先天性心疾患各論Ⅲ	南　孝臣（小児科）
1.15（金）	26. 心臓血管外科（先天性心疾患）	河田政明（心臓血管外科）
1.19（火）	27. 本態性高血圧・合併症・治療	苅尾七臣（循環器内科）
1.19（火）	28.　二次性高血圧	星出　聡（循環器内科）

1.20（水）	29. 循環器疾患の治療薬	星出　聡（循環器内科）
1.22（金）	30. 循環器疾患のまとめ	苅尾七臣（循環器内科）

3）M3　チュートリアル　　緒方、小古山、鳥海

4）M3　診断学基礎実習

平成27年2月 8日（月）	呼吸・心臓	篠原・甲谷・池本
2月 9日（火）	バイタル	江口・石山・有馬
2月10日（水）	頸頭部他	渡邉

5）M4　診断学実習

平成27年5月11日（月）	総合診察	福冨
5月12日（火）	高機能シミュレーター	滝・小形
5月15日（金）	病棟版 Advanced OSCE	新島

6）M4　循環器内科　必修BSL

＜クルズス＞

1．苅尾七臣：循環器内科回診、試問
2．新保昌久：症例プレゼン、中間check
3．星出　聡：心不全
4．今井　靖：不整脈の臨床
5．緒方信彦：心臓カテーテル検査
6．江口和男：オリエンテーション、身体診察、心臓の聴診法
7．市田　勝：心エコー
8．河野　健：二次性心筋症の診断の進め方
9．甲谷友幸：心電図（各論）ミニテスト
10．小森孝洋：心電図（総論）
11．黒木茂広：身体所見の確認

2015　4年生BSL予定表

	AM	PM
月	8:10集合 オリエンテーション、チーム紹介、江口	13:00-14:00 心臓の聴診法、江口
火	12:30～　レジデントカンファランス（本館6F南）	14:30-15:30 心エコー、市田（小形）
水	8:00-9:00（Complex Cardiology Canference） 9:00- チャートラウンド（新患プレゼン）苅尾	教授回診（ベッドサイド）、苅尾 15:00-16:00 身体診察 江口 18:00～ Conference
木	7:45-8:30　カルディアックカンファランス 9:30-10:30 身体所見の確認　黒木 12:30～　レジデントカンファランス（本館6F南）	16:30-17:30、心電図（各論・ミニテスト）甲谷
金	9:30-10:30 心電図（総論）小森	13:45-14:45 心不全、星出 15:05-　CPC

月			11：00-12：00 二次性心筋症の診断の進め方　河野	15:30-16:30 心臓ｶﾃｰﾃﾙ検査 緒方	
火	8:45-9:45 不整脈の臨床、 今井	10:30-12:00 中間check（症例プレゼン）新保	12:30～　レジデントカンファランス（本館6F南）		
水	8:00-9:00（Complex Cardiology Canference） 9:00- チャートラウンド（新患プレゼン）苅尾			教授回診（ベッドサイド）、苅尾 15:00-16:00 身体診察　江口	18:00～ Conference
木	7:45-8:30　カルディアックカンファランス		12:30～　レジデントカンファランス（本館6F南）		
金		9:30-11:00 最終到達度試問　苅尾			

＊カテーテルアブレーション：月・火（新館２F、血管造影室）

7）M4　外来診察実習

平成27年9月30日　　甲谷友幸
平成27年10月20日　　苅尾七臣
平成27年11月11日　　今井　靖
平成27年11月25日　　江口和男
平成27年12月16日　　河野　健

8）臨床講義

平成27年6月26日　　M4　循環器の救急疾患　　苅尾七臣
平成27年9月18日　　M４　急性心筋梗塞の診療　　苅尾七臣
平成27年7月17日　　M5　基礎臨床統合講義①-1　　苅尾七臣

9）M5　総括講義

平成28年3月7日（月）	1時限	症候論	失神・めまい	星出
	2時限	症候論	息切れ・ショック	新保
3月8日（火）	4時限	症例提示	不整脈	今井
3月9日（水）	4時限	症候論	動悸・心悸亢進	星出
	5時限	症候論	背部痛・胸部痛	緒方
3月11日（金）	1時限	症例提示	心不全	苅尾
	2時限	症例提示	高血圧	苅尾
	3時限	症例提示	虚血性心疾患	緒方
3月15日（火）	1時限	症例提示	心内膜炎・心膜炎	江口
	2時限	症例提示	大動脈瘤・末梢動脈疾患	新保
3月16日（水）	4時限	症例提示	心弁膜症	今井
	5時限	症例提示	心筋症・心膜疾患	江口

8. 博士課程修了報告

学位取得状況

博士課程（甲種）

授与番号	授与年月日	氏名	学位論文題名	紹介教員
甲　第447号	平成26年3月19日	齋藤　俊信	安定冠動脈疾患患者におけるS100A12蛋白と予後予測に関する研究	苅尾　七臣
甲　第449号	平成26年3月19日	佐野　文彦	アルコール摂取と心房細動発症の関連に関する前向き研究	苅尾　七臣
甲　第474号	平成27年3月18日	桂田　健一	糖尿病治療薬 GLP-1 受容体アゴニストの中枢を介した心血管作用	苅尾　七臣
甲　第482号	平成27年3月18日	水野　裕之	高齢高血圧患者におけるアリスキレン/アムロジピン併用療法と高用量アムロジピン単独療法の24時間血圧と微量アルブミン尿、動脈硬化、血管内皮機能に対する効果の違いに関する研究	苅尾　七臣
甲　第485号	平成27年3月18日	EIJIRO SUGIYAMA EDISON	日本人の高齢高血圧患者における心電図上の左室肥大と心血管疾患との関連	苅尾　七臣
甲　第491号	平成27年3月18日	中野　真宏	高血圧患者における積極的な減塩指導に対する外来血圧、家庭血圧、自由行動下血圧への効果	苅尾　七臣

博士課程（乙種）

授与番号	授与年月日	氏名	学位論文題名	紹介教員
乙　第682号	平成26年2月20日	甲谷　友幸	血流依存性血管拡張反応の経時的計測で得られる新しい血管内皮機能障害の指標の臨床的意義	苅尾　七臣
乙　第689号	平成26年12月18日	矢野　裕一朗	日本人一般住民における痩せ型糖尿病の総死亡に対するリスク	苅尾　七臣
乙　第695号	平成27年2月23日	永井　道明	外来血圧変動性と高血圧性臓器障害-頸動脈硬化および認知機能障害との関連	苅尾　七臣
乙　第699号	平成27年6月22日	鍵谷　英明	閉経前後の中年期女性における血圧特性に関する研究	苅尾　七臣
乙　第704号	平成27年6月22日	池本　智一	冠動脈疾患を有する患者における血漿エンドグリンの心血管イベントの予測因子としての意義に関する研究	苅尾　七臣
乙　第705号	平成27年8月24日	福富　基城	日本人高血圧患者におけるARBと利尿薬の併用療法と高用量カルシウム拮抗薬単剤療法の比較	苅尾　七臣
乙　第708号	平成27年12月21日	柴﨑　誠一	家庭血圧を用いた臓器障害評価とその治療	苅尾　七臣

自治医科大学内科学講座　循環器内科学部門
地域医療学系専攻　循環器・呼吸器疾患学専攻分野　心血管病学

鍵谷　英明

2009年4月より2015年3月までの6年間、医学部研究生として苅尾教授より多大なご指導をいただきました。

私はテルモ株式会社に所属し、循環器領域での診断デバイスの共同開発プロジェクトのために、研究生に登録させていただきました。元々、主に臨床試験における統計解析業務を担当しており、本共同開発プロジェクトにてデータ分析作業が重要な役割を占めることが想定されたことから、本プロジェクトに加わったのがきっかけです。私個人としても、かねてから臨床面での研究・開発能力を高めることで医療に貢献したいという思いを持っていたことから、業務のみならず個人としても貴重な経験をさせていただきました。

研究開始当時、血圧の測定方法として主に診察室血圧が用いられていましたが、後の2014年に発行された高血圧治療ガイドラインに「診察室血圧と家庭血圧の間に診断の差がある場合、家庭血圧による診断を優先する」と記されたように、家庭血圧の重要性の高まりを感じていました。しかしながら、当時、血圧が治療を必要とするレベルではない段階では、家庭血圧を測定する臨床的意義に関する検討は限られていました。そこで、特に女性特有の要因に注目し、家庭血圧測定を用いた検証を開始しました。

研究活動は2段階に分けられます。苅尾教授のご指導のもと、まず更年期症状と血圧値の関係について1000名規模の全国調査を行い、次いで、その中から約150名を抽出しておよそ90日間家庭血圧を測定し、これに尿中微量アルブミンなどの情報も加えたデータベースを構築しました。これらのデータベースから各種の知見を得ることができ、日本循環器学会総会でのFeatured research sessionへの採択、International Society of HypertensionでのHighest Scored Posterへの採択を経て、American Journal of Hypertension(AJH)に2本の論文がアクセプトされ、最終的に学位論文としてまとめ上げることができました。特にAJHのReviewerからは多数の厳しい指摘を受けましたが、そこから研究仮説を客観的に立証・主張するために、正確なデータ分析とその結果を示唆する科学的根拠の両方を兼ね揃える重要性を学びました。

ただし、これらの道のりは決して平坦ではありませんでした。2011年に発生した東日本大震災により自身の生活も大きく影響を受け、また、大変残念ながら当初検討していた診断デバイスも開発中止

となりました。しかし、自治医科大学自体も被災地への支援活動で大変な中、ご指導は継続いただきました。ここから、研究から新たな知見を見出す価値を信じ、その信念を持ち続ける研究者としての資質についても学びました。

現在はこれまでの研究活動を活かし、腎交感神経除神経術の国際共同開発プロジェクトに携わっています。場所は欧州の研究所に移し、引き続き苅尾教授のご指導をいただきながら、開発を推進しています。本治療は先行して実施された米国での三相試験の失敗から、世界中で開発競争が続いている状況でありますが、一早く高血圧治療における新たな選択肢を臨床現場に届けるべく、日々取り組んでおります。

最後になりましたが、研究生としての6年間、指導教員の苅尾七臣教授をはじめ、各種ご助言いただきました星出聡准教授、予演会にてご助言いただきました医局の先生方、ご協力いただきました研究補助員の皆様に、心より深く御礼申し上げます。

「閉経前後の中年期女性における血圧特性に関する研究」

1. 背景・目的

血圧は加齢に伴い上昇するが、男性では30歳代、女性では40歳代から高血圧者の増加が顕著となることが報告されている。女性で高血圧者が急増する要因のひとつに月経状況の変化が挙げられているものの、本邦ではその関係を実際に検証した報告は無く、近年注目されている血圧変動性について女性に特化した報告も無い。本研究では閉経前後の女性特有の血圧上昇要因を検討するとともに、心血管イベントの前段階である臓器障害の状況により深く関係する血圧指標を明らかにし、女性における血圧特性について検討した。

2. 方法

研究1の対象は、循環器疾患等の既往の無い40歳から59歳までの女性で、研究協力の同意を取得した上で、患者背景情報や回答日より１年以内の健康診断の情報をWebにて収集した。研究2では、研究1の参加者から追加の同意を得た151名を対象に、尿中微量アルブミンと約12週間にわたって毎日起床時と就寝前に各2回ずつ家庭血圧を測定してもらい、2週間毎に区切った各種血圧指標(平均値、最大値、最小値、最大値と最小値の差(MMD)、次の測定値との差の絶対値の平均値(ARV)、SD及びCV)を算出した。

3. 結果

研究1では1058名から有効回答を得た。ホットフラッシュを過去に経験した者、現在経験している者では、全く経験した事の無い者に比べて収縮期・拡張期血圧とも有意に高かった（表1: 収縮期血圧）。研究2では、重回帰分析にてBox-Cox変換した尿中微量アルブミンを従属変数とし、独立変数として各血圧指標をステップワイズ法で変数選択した所、被験者背景を補正後も収縮期・拡張期血圧ともに、起床時・就寝時の両方で最大値のみ有意な独立変数として選択された（表2）。

表１ 収縮期血圧（従属変数）とホットフラッシュ（独立変数）の関係

独立変数	非標準化回帰係数		標準誤差		p値
年齢[歳]	0.6	(	0.2	)	*< 0.01*
BMI[kg/m^2]	1.6	(	0.2	)	*< 0.01*
ホットフラッシュ					
現在あり	6.0	(	1.7	)	*< 0.01*
過去にあり	3.7	(	1.7	)	*0.03*
経験無し	(reference)				
喫煙状況					
喫煙中	1.9	(	2.1	)	*0.36*
禁煙した	0.7	(	1.8	)	*0.72*
経験無し	(reference)				
閉経状況					
閉経後	0.2	(	2.6	)	*0.95*
閉経前後	2.6	(	1.7	)	*0.13*
閉経前	(reference)				
飲酒習慣					
あり	-0.4	(	1.4	)	*0.80*
無し	(reference)				
切片	51.6	(	9.6	)	*< 0.01*

表2 尿中微量アルブミン（従属変数）と各種血圧指標（独立変数）の関係

区分	モデル	検出された独立変数	非標準化回帰係数	標準誤差	p値
収縮期血圧					
起床時	モデル1	最大値	0.004	(0.002)	*0.02*
	モデル2	最大値	0.004	(0.002)	*0.01*
就寝時	モデル1	最大値	0.005	(0.002)	*< 0.01*
	モデル2	最大値	0.004	(0.002)	*< 0.01*
拡張期血圧					
起床時	モデル1	最大値	0.006	(0.002)	*0.01*
	モデル2	最大値	0.006	(0.002)	*< 0.01*
就寝時	モデル1	最大値	0.007	(0.002)	*< 0.01*
	モデル2	最大値	0.007	(0.002)	*< 0.01*

モデル1: 年齢およびBMIで調整
モデル2: 年齢、BMI、月経状態、喫煙状況および飲酒状況で調整

4. 結論

本研究では、閉経前後の中年期女性において、喫煙者におけるホットフラッシュによる脈圧上昇とともに、一定期間における家庭血圧の最大値が、平均値や標準偏差等他の血圧指標に比べて最も臓器障害と関連し、かつ再現性が高いという血圧特性が明らかになった。これらはいずれもエストロゲンの低下やそれに伴う交感神経の亢進に起

因する可能性がある。以上から閉経前後の女性の血圧特性に応じた高血圧治療戦略として、①ホットフラッシュを高血圧リスクとする、②日常診療では、血圧値は平均に加えて変動性（特に最大値）を臓器障害リスクとして考慮する、③血圧変動性を高める交感神経の亢進状態に、近年開発された経皮的カテーテル腎動脈除神経術（腎デナベーション）が有効である可能性がある。

済生会山口総合病院　総合診療部

柴﨑　誠一

私は、山口県東部の山間部にある人口約3,000人の町、その中央部に立地した約60床の病院に3年目に赴任いたしました。外来と入院、夜間の急患に対応するといった、今では当たり前の業務でしたが、慣れない3年目の自分にとっては、新鮮かつストレス、そして物足りなさと漠然と取り残されていく不安を感じる日々を過ごしていました。赴任して約1年が経過した頃、すでに研究生となり精力的に活動をされていた松井芳夫先生から、JMS-1 studyへのエントリーの協力をお願いされたのが臨床研究に関わるきっかけとなりました。正直なところ、当時、臨床研究や血圧に関して何の知識も興味もなかったため、家庭血圧測定を毎月してもらう意義をどう説明したら、患者さん自身の健康維持に貢献し、そしてエントリーしていただけるのか？といった動機から、家庭血圧について勉強するようになりました。興味をもって始めるのが理想ですが、始めてから継続していく経過で、その分野に興味をもち、そこから深く学ぶことも一つの素晴らしい方法であると思うようになりました。さらに、臨床研究への参加が、仕事や生活の一つの軸足となったことによって、臨床研究以外の活動や興味への渇望感も大きくなり、何かに取り組む意欲や集中力が増し、休日をそれまで以上に楽しめる様になったと今になって感じています。

JMS-1 studyでは家庭血圧を1機会に2回測定してもらっていました。その際に、多くの患者さんは、1回目よりも2回目の測定値が低下するなか、上昇する患者さんも散見されました。患者さんや他の先生方からも、測定回数について質問されることもありましたが、結局のところ、明確に答えることができない状況であることが、測定回数を学ぶことによってわかってきました。特に、苅尾教授から、はじめて声をかけていただいた総説のテーマが、血圧測定方法、とくに1機会における測定回数の問題点についてだったこともあり、測定回数に関しては、ごく自然に興味が湧き、1機会における家庭血圧測定値の変化には、臨床的意義が存在するのではないかと、考えるようになりました。その後に赴任した診療所で1機会に3回測定するプロトコールのJ-HOP研究に参加していたこともあり、測定回数に対する興味が更に深くなり、多くの先生方の協力のもと、集約されたJ-HOP studyのデータを解析させていただける機会を与えていただいたことには、深く感謝しています。

結局のところ、偶発的に参加することになった臨床研究がきっかけになり、物事に対する姿勢や視野が広がり、地域医療を実践しながら学術活動の楽しさを経験でき、それによりさらに深く臨床への興味と意欲が湧くという良い流れを感じることができたことは、今後へとつながる貴重な経験をできたと感じております。

最後に、臨床研究や論文の執筆を進めていくにあたり、指導教員の苅尾七臣教授、江口和男教授、星出聡准教授をはじめ、諸先生方、研究補助員の皆様、臨床研究に関わる諸業務を助けていただきました多くのスタッフの皆様より、ご指導、ご協力を賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。

「1機会における家庭血圧測定値の上昇傾向は、BNPやeGFRなど高血圧臓器障害の増悪と関連している」

1　研究目的

家庭血圧測定を用いた研究を行っている過程で、1機会における測定値が変動することを多く経験した。しかし、1機会における測定回数についてはエビデンスがない。そこで、1機会における複数回測定した測定値の血圧変動性に臨床的意義が存在すれば、1機会に測定すべき測定回数が複数回であるべき根拠の一つになるのではないかと考えた。1機会における血圧の変化が臓器障害と関連しているのではないか、との仮説をたて検討した。

2　研究方法

本研究は、家庭血圧測定値が心血管疾患発症を予測できるかどうかを検討した前向き観察研究であるJapan Morning Surge-Home Blood Pressure (J-HOP)研究のサブ解析である。心血管疾患危険因子を一つでも保有する患者を対象とした。最終的に4149例で解析を行った。家庭血圧測定は、自動血圧測定器を使用した。この血圧測定器は、1回測定ボタンを押すと15秒間の間隔で連続3回測定を行う。家庭血圧は、起床後1時間以内、就寝直前の1日2回、を2週間にわたり測定した。

本研究において、1機会における家庭血圧測定の差は1回目の測定値から、2回目3回目の測定値の平均値を引いたもの{1回目－（2回目＋3回目）/2}と定義した。血圧差を5分位して、中間の3分位目を基準値として群間で、left ventricular mass index(LVMI)、intima-media thickness(IMT)、UACR、brachial-ankle pulse wave velocity(baPWV)、B-type Natriuretic peptide(BNP), N-terminal pro-BNP(NT-pro-BNP),high sensitivity cardiac troponin T(hs-TnT)を比較した。

3　研究成果

基準と定義した中間位(第3分位目)と比較して、第1分位群(1回目よりも2回目3回目の測定値が上昇する群)は、有意に、BNP、NT-proBNP、ba PWVが高値で、eGFRが低値であった。LVMI, UAR, hs-TnT, IMTに関しては5分位間での有意な差は認めなかった。

5分位間で有意差のあった因子(年齢、性別、BMI、α遮断薬内服、喫煙、糖尿病、家庭血圧の平均値)を、univariate-One-way analysis of variance (UNIANOVA)を用いて補正した。その結果、1機会における血圧差と独立して有意な関連を認めた高血圧性臓器障害は、BNP、NT-proBNP、eGFRであった。Post-hoc testでは、基準となる3分位目と比較して、BNP、NT-proBNPは独立して有意に高値であり、eGFRは独立して有意に低値であった。

4　結論

1機会に測定した家庭血圧が上昇傾向にある集団では、臓器障害が進行していることが明らかとなった。1機会に複数回測定することによって、これまでに知られてこなかった意義が存在する可能性が示唆された。つまり、家庭血圧には1機会に複数回測定する意義が存在することが示唆される。

自治医科大学内科学講座循環器内科学部門

福冨　基城

私は2004年に自治医科大学を卒業し、出身である山口県に戻って山口県立総合医療センターにて初期研修を行いました。その当時から循環器内科、特にカテーテルインターベンションに興味を持っており、循環器内科ローテート中は朝から晩までカテ室におりましたが、それは義務年限中にカテーテル治療に携わることができないということに対する焦りから来るものであったと回想します。実際に僻地の現場に赴くと、カテーテルはおろか通常の循環器治療に関わる機会もほとんどなく、自分自身のモチベーションの維持にかなり悩んでいました。そんな私を見かねられたのか、山口県の4つ上の先輩である松井芳夫先生より高血圧の臨床研究へのお誘いを頂きました。当初、松井先生は山口県内の僻地における高血圧臨床研究ですでにいくつもの論文を発表され、自分には眩しいくらいの活躍をされておりました。それまで高血圧という領域にはほとんど興味はなかったのですが、僻地でできることに没頭し、その成果をアカデミック発表し続ける松井先生の姿に感銘を受け、カテができずに腐っているよりも今できることを精一杯やってみようと気持ちを切り替えることができました。松井先生より苅尾教授をご紹介頂いたのちに循環器内科の研究生にさせて頂き、2008年から赴任した角島にて本格的に臨床研究を開始させていただきました。この研究はARBと利尿薬の併用療法に関して検討した多施設試験ですが、多くの先生方のご協力によって完遂することができ、無事本研究で学位を取得させて頂きました。この研究の経験から学んだことは数多く、この誌面では書ききれませんが、何よりも患者さんのエントリー、つまりNを集めるということがいかに困難で大変なことであるかということを痛感されられました。

その後9年間の義務を終えた後に、母校である自治医科大学循環器内科に入局となり、現在カテーテルインターベンション業務に携わっておりますが、今後は臨床研究の経験を生かしてカテーテル治療のデータベース解析による臨床研究を行っていきたいと考えております。高血圧研究とは分野が異なりますが、基本的にデータ解析のプロセスは同じですので、将来インターベンショナリストを志す自治医大卒業生のキャリアパスの一つとして、僻地での高血圧・動脈硬化領域の臨床研究は大いに意義があるのではないかと考えています。最後にこの場をお借りして、終始ご指導いただきました苅尾七臣教授、星出聡准教授に厚く御礼申し上げます。また本研究の対象患者登録にご協力いただいた江口和男教授、石川鎮清教授、渡部智紀先生、甲谷友幸先生にも御礼申し上げます。そして何より研究にご協力頂きました角島の皆さま、またリサーチの面白さに気付かせて頂いた松井芳夫先生に改めて心からの感謝の意を捧げたいと思います。

「日本人高血圧患者におけるARBと利尿薬の併用療法と高用量カルシウム拮抗薬単剤療法の比較」

1. 背景

長時間作用型のCa拮抗薬は単剤使用でも24時間にわたる優れた降圧力を発揮し、またその効果は用量依存性であり、高用量アムロジピン単剤療法は確立した降圧療法の一つである。一方我が国ではアンジオテンシンII受容体拮抗薬（angiotensin II receptor blocker: ARB）も第一選択薬として用いられることが多いが、ARB単剤の降圧力はCa拮抗薬に比べると劣るため、他の降圧剤と併用することが推奨されている。ARBと利尿薬の併用療法は食塩感受性の高い日本人高血圧患者において特に有効な組み合わせである可能性が高いが、日本人高血圧患者においてその降圧・臓器保護効果ならびに降圧効果の規定因子を高用量Ca拮抗薬療法のそれと比較検討した研究はない。

2. 方法

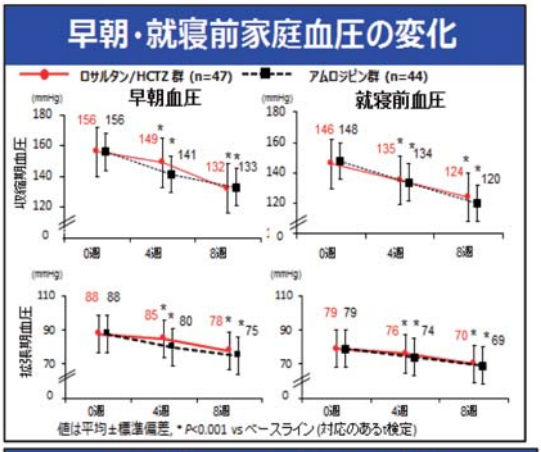
未治療高血圧患者をロサルタン/ハイドロクロロサイアザイド（HCTZ）群（47名）、もしくはアムロジピン群（44名）に割り付け、ロサルタン/HCTZ群は4週間のロサルタン50mg単剤治療を行い、その後ロサルタン50mg/HCTZ12.5mg併用療法に切り替えた。アムロジピン群は、アムロジピン5mgを4週間投与し、その後10mgに増量を行った。治療前および治療期間中の家庭血圧測定を行い、治療前後での24時間自由行動下血圧測定、BNPおよび尿中微量アルブミンの測定を行った。また降圧効の規定因子としてベースライン時の高感度CRPを測定した。

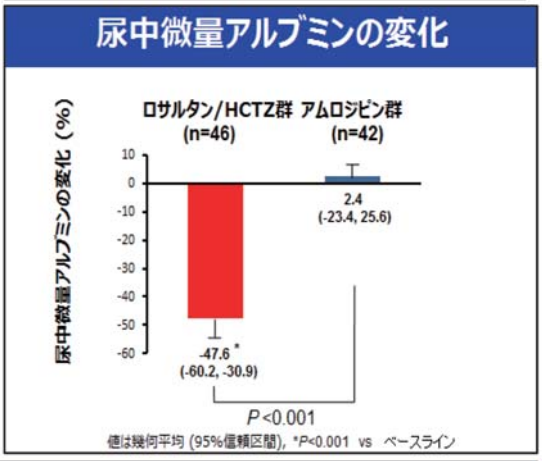
3. 結果

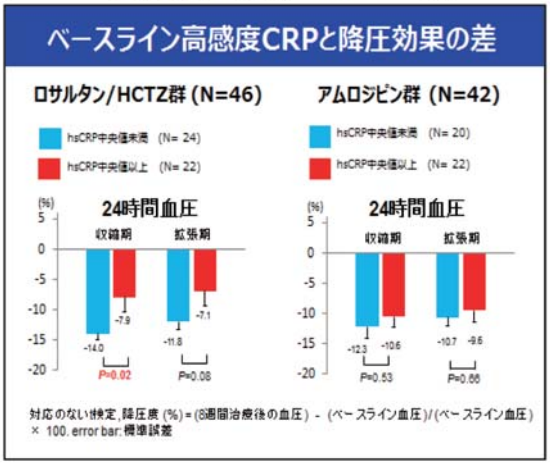
診察室血圧、家庭血圧、24時間血圧はいずれもロサルタン/HCTZ群と高用量アムロジピン群で同程度に降圧された（右上図）。尿中微量アルブミンはロサルタン/HCTZ群のみで有意に抑制され（右中図）、BNPは両治療群で同程度に低下した。またベースラインの高感度CRPが中央値より高値の群では、低値の群と比較して24時間血圧と昼間血圧の降圧度が小さかった（右下図）。この傾向はロサルタン/HCTZ群でのみみられ、高用量アムロジピン群では認めなかった。

4. 結論

日本人高血圧患者におけるARB/利尿薬の併用療法は、高用量Ca拮抗薬単剤療法と比較して、同等の降圧効果および心保護効果と優れた腎保護効果を示したが、慢性炎症が高値の患者においては降圧効果が小さかった。







9. アメリカ留学報告

留学体験記

循環器内科　　齋藤俊信

2014年4月～2016年3月までの2年間、米国スタンフォード大学に留学して参りましたのでここに報告致します。そもそも、留学を考えるようになったのは大学院に入学してからでした。

Campus of Stanford University

Hospital of Stanford University

日常診療を行っていく上で様々な問題や疑問を抱くようになり、その解決の糸口として研究に目を向けるようになり、2010年に自治医科大学大学院に入学致しました。主に動脈硬化性疾患を対象に、血液中バイオマーカーと予後予測に関する臨床研究に従事させて頂きました。

大学院時代に基本的な研究に対する考え方を学ぶと共に、病態の把握や予後予測の重要性を学ばせて頂く機会を得ることができました。そして研究を進めていくうちに、次第に血液中のバイオマーカーのみでなく、局所の病態を把握し得る画像診断にも興味を抱くようになりました。

当時、分子イメージング技術が最先端の画像診断法として注目されておりましたが、自分も最先端の診断技術を学びたいと思う気持ちから、留学を志すようになりました。

特に動脈硬化と慢性炎症に関わる研究を行って参りましたので、血管炎症をターゲットに不安定プラークや動脈瘤を同定する分子イメージング研究に尽力されている、スタンフォード大学のMichael V. McConnellラボへ留学することを決意致しました。

Home party hosted
by Prof. Michael V.McConnell

私の海外留学の目的は主に2つありました。1つ目は分子イメージングのトランスレーショナル研究を行うこと、2つ目は語学のブラッシュアップをすることでした。

2014年3月下旬、そんな目標を持って意気揚々と旅立ちましたが、現実はそう甘くはありませんでした。まず、語学に関しては渡米前に可能な限り勉強したつもりでしたが、やはり十分ではなく、「あとは現地で生活すれば何とかなるだろう」という軽い気持ちでおりました。

しかし、語学の問題は一朝一夕に解決できるものではなく、日常のことに関しては、つまずきながらも何とかコミュニケーションは取れておりましたが、やはり深い内容の話や研究のディスカッショ

ン等になると、ほとんど内容を理解できないということも多々ありました。

これは語学に多少なりとも不安のある方は、誰でも一度は経験したことがあることかと思います。ただ、生活や研究をする上ではそれをそのままにしておくと、多大な支障が生じてくるので、自分の場合は極力、あとで分かりやすい英語で内容を確認させてもらったり、重要なポイントはEmailでやり取りするようにして、フォローするように努めました。また、英会話教室へ通ったり、ボランティアの方々と英会話をさせてもらったりしながら、少しづつではありますが上達するようになりましたが、十分なものではありませんでした。

My great mentor

The final day of ELS class

帰国して思うことは、語学に支障がないということは大きなアドバンテージであることが分かりました。語学の習得が早い人はやはり、間違いを恐れずに積極的に話す人だと思います。ただ、人それぞれ性格もやり方も違うので、自分に合った習得法を見つけることが大切だと思います。

そして、これは万国共通だと思いますが、言語はあくまで意思を伝える手段であって、何より大切なものは意思を伝え合うことだと思います。全く文化の異なる人間同士、お互いの価値観を共有できたときは、何よりも喜びを実感することができたことを覚えています。逆に意思をうまく伝えることができずに心のすれ違いを生じ、不甲斐ない思いをしたことも多々ありました。

日本で生活をしていると、言語の問題をあまり感じない日々を過ごしてしまいますが、海外生活で得られたこの思いを忘れずに、これからも言語を通して相手の話を聞き、自分の意思を伝える努力は続けていきたいと考えています。

また、研究に関しては今まで未経験であった、動物実験に対する知識や技術、未使用の機器の操作方法の習得など不安要素が多くありました。ただ、幸いにも前任の先生や周囲の研究者から基本的な手技や機械の操作方法などを教えて頂くことができ、何とか実験を施行できる様にはなりました。

実験結果に関しては、幸いにも他グループとの共同研究により新たな知見を見出すことができ、論文発表までたどり着いた実験もありましたが、一方で予想した成果をなかなか得ることができず、結果として断念した実験もあり、研究の厳しさを実感したこともありました。撮影方法やトレーサーの問題など、考えられるものを改善しつつ、Bossや他の研究者とも解決索を探す努力をしても、最終的に解決できない問題も多々ありました。

ただ、結果はいずれにしろ、研究を通して学んだことも多くあります。特に、留学先の大学には世界でもトップクラスの研究者が集まって来ますが、各々の考え方や実際の仕事ぶりを学べたことは非常に良い経験となりました。やはり皆それぞれ良いところがある一方で、同じ人間ですので何かしらの欠点もあります。しかし、共同研究を行っていく上で感じたことは、必ずしも皆雲の上のような存

在ではなく、それぞれが得意不得意を有しながら、自分の利点をうまく出しつつ、できない部分は人に依頼して、埋め合わせていく事が上手だという印象を受けました。日本人はどうしても「他人に気を遣う」文化で育っており、そこが日本人の良さであり、誇らしいところではあるのですが、Projectを推し進める際には、自分達も見習うべきところがあるのではと感じました。

総じて何かと上手くいかないことが多く、気苦労の多い留学生活ではありましたが、家族みんなで海外生活を送ることができ、日本では得ることのできない貴重な経験を得られて無事に帰国出来たことが何よりの成果であったと思っております。

また、何より学校やコミュニティーを通して、米国に長く住んでいる人達だけでなく、我々と同じように世界各国から来た留学生や移住者、日本人も含めた様々な背景を持った人々と新しい出会いを持てたことは、海外生活で得られた宝であると思います。

そして、こうして無事に帰国し、時を重ねてまたここ自治医大で皆さんとお会いできたことも、また新たな出会いだと思っています。今回の海外生活での経験を活かし、今まで以上にさらに新たな感性や視点を取り入れ、より充実した生活を送れる様、精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えて頂きました、苅尾七臣教授ならびに医局内外の数多くの先生方・スタッフの皆様から多大な支援を頂戴し、今回の留学が成し得たことをここに明記すると共に感謝の念を表したいと思います。本当にありがとうございました。

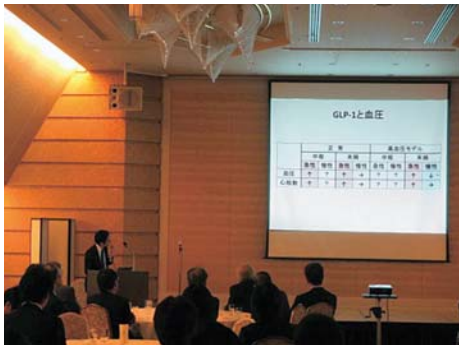
10. ～1年間を振り返って～

2015年4月8日 医局　お花見

2015年4月より新保昌久先生から医局長を引き継いだ星出聡先生主催の下、年度初め恒例の医局お花見を開催しました。外は、満開の桜の中、季節外れの雪が舞う幻想的な光景に包まれたこの日、レジデントや病棟のスタッフの皆さんを交え、医局の目標・ビジョンを共有し、新年度のスタートを切りました。

2015年4月25日 第３回 同門会『地域医療と循環器病懇話会』　（大阪）

4月24日から26日まで大阪国際会議場等で開催された第79回日本循環器学会学術集会に合わせ、リーガロイヤルNCBにて同門会を行いました。
南三陸病院副院長西澤匡史先生（宮城20期）が東日本大震災被災地での地域医療について、今井靖先生が不整脈診療の現状について、桂田健一先生が大学院研究成果について、それぞれ発表しました。
歴代の教授の先生方はじめ40人余りのご出席いただきありがとうございました。



2015年5月8日　第41回 下野循環器研究会　（自治医科大学）

今回、当院地域研修センターで開催された本研究会では、２症例について詳細な検討が行われました。関連病院の先生方と症例検討をする貴重な場となっております。
終了後には恒例の懇親会を行いました。

2015年5月23日～24日　第4回 臨床高血圧フォーラム（日本高血圧学会）　（福岡）

2015年3月まで後期研修を行っていた学外社会人大学院生今泉悠希先生（福岡30期）が「高血圧患者における高食塩摂取は血管内皮機能障害と関連する」という演題で女性研究者奨励賞を受賞しました。また、当科が中心で行った「家庭血圧を用いた時間降圧療法(J-TOP研究)」のサブ研究を発表した志水元洋先生(山口25期)がYCA最優秀賞を受賞しました。

2015年5月29日～30日　第1回 HAKATA Cardiovascular Conference （福岡）

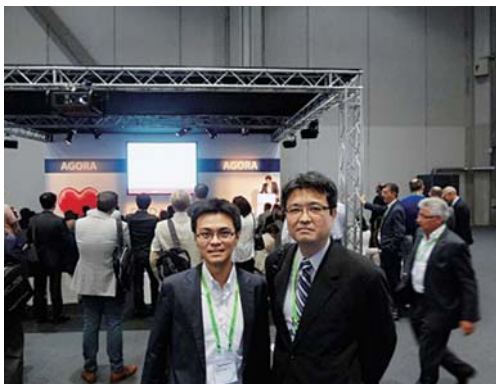
本学会は、九州大学循環器病未来医療研究センター特任教授砂川賢二先生が会長として『世代や分野を超えて、じっくりと熱い議論ができる非日常的な“考える時間”を提供したい』とのコンセプトの下、開催されました。当教室からは、大学院生根岸経太先生、学外社会人大学院生藤原健史先生（群馬32期）などが発表しました。
循環器のトップを走る先生方が集う貴重な会でした。

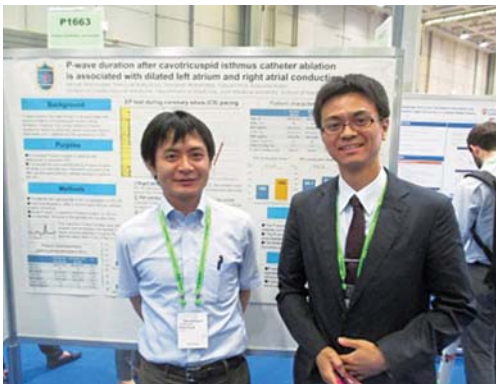
2015年6月20日　第15回 臨床血圧脈波研究会 （大阪）

学外社会人大学院生今泉悠希先生が、食塩摂取量と血管内皮機能の分析の発表を行い、高得点演題表彰を受賞しました。おめでとうございます。

2015年6月21日～24日　EHRA EUROPACE 2015 （イタリア・ミラノ）

年々盛り上がりを見せるEUROPACEでは、渡邉裕昭先生（P波と発作性・持続性心房粗動の関連）と、非常勤講師蜂谷仁先生の発表がありました。今年は過去最大の入場者を記録したそうです。

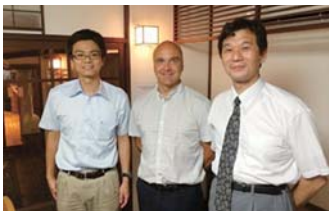




2015年7月22日　医局バーベキュー親睦会

季節の恒例行事、バーベキュー親睦会を開催しました。ローテートしたレジデントや病棟の看護師さん方を招き、楽しいひと時を過ごしました。

2015年7月28日～31日
第30回 日本不整脈学会学術大会／第32回 日本心電学会学術集会 （京都）



土浦協同病院へ国内留学中の渡部智紀先生と、渡邉裕昭先生の演題が採択され、口述発表を行いました。例年にない多数のfacultyが来日されており、多数の教育講演が行われました。

2015年8月25日～28日　PCIワークショップ （台湾）

Feng Yuan Hospital、Changhua Christian Hospitalにて行われたPCIワークショップでは、招待された緒方信彦先生と共に鳥海進一先生が参加しました。2日間を通して、CTOに対するretrograde approachや、LADのびまん性高度石灰化病変に対するRotaを要する症例に対して手技を行いました。

2015年8月29日～9月2日
EUROPEAN SOCIETY OF CARDIOLOGY (ESC) 2015 （イギリス・ロンドン）

CHALLENGES IN HYPERTENSIONのセッションでは、苅尾七臣先生、ミラノ大学のGianfranco Parati 先生、当教室客員教授もされているロンドン大学Bryan Williams先生が熱い討論が繰り広げました。また当教室からは、苅尾七臣先生、甲谷友幸先生、大場祐輔先生が発表を行いました。e-Posterでは、PDFで事前に送ったポスターデータをスクリーンに映写しながら、1つのマイクの前で、座長、発表者、質問者が入れ替わり発言するため、白熱した議論を交わされました。
会場にはロンドン大学のAlexander Jones先生もこられ、討議にも参加していただきました。

2015年9月3日　第14回 自治医科大学シンポジウム　（自治医科大学）

江口和男先生の演題「糖尿病患者における高血圧管理と心血管イベント予防への挑戦」がシンポジストの講演優秀賞として選ばれ、発表を行いました。

2015年9月15日　UH Case Medical Center　Mauricio Arruda先生 来院

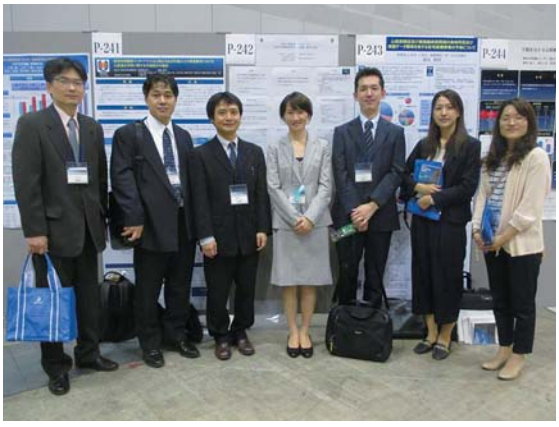
WPWの局在診断で有名なクリーブランド・UH Case Medical CenterのMauricio Arruda先生が自治医大にお越しになられました。
期せずして２例のWPW症候群のアブレーションが予定されていたこともあり2例ともArruda先生に一緒にカテラボに入っていただき電位の解釈やストラテジーを含めてdiscussionしつつ手技を行いました。

2015年9月16日　自治医科大学附属病院優秀指導医 大場祐輔先生受賞

この賞は、研修医を対象とした「研修医アンケート」の評価が極めて高く、指導・教育などに特に尽力した指導医に対して、附属病院長より表彰されるものです。
大場先生の受賞を励みとし、研修プログラムや教育体制をさらに充実することができるよう、医局員一丸となって、今後も引き続き尽力してまいります。

2015年9月18日～20日　第63回 日本心臓病学会学術集会　（横浜）

当教室からはシンポジウムでは苅尾七臣先生の血圧変動異常の最近のトピックスに関する講演があり、江口和男先生、滝瑞里先生、久保田香菜先生、学外社会人大学院生今泉悠希先生などの発表がありました。災害時における循環器疾患のセッションでは、共同研究を行っている南三陸病院の西澤匡史先生から血圧管理と疾病予防に関する発表がありました。



2015年9月26日　第237回 日本循環器学会関東甲信越地方会 （東京）

苅尾七臣先生が会長として開催した地方会では、922名の学会員が参加され、当院研修医２名を含めた約100演題の症例発表と活発な質疑応答が行われました。

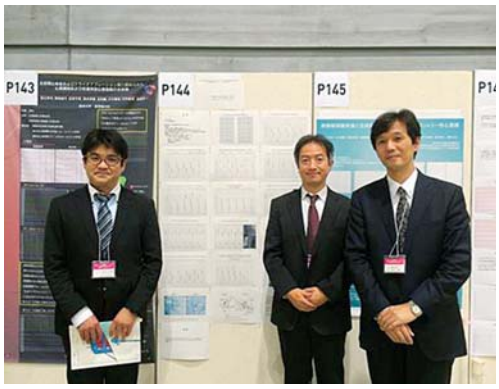
2015年10月9日～11日　第38回 日本高血圧学会総会 （愛媛）

当医局員が一般演題、シンポジストで多数発表を行いました。YIA最優秀賞に、当科で臨床・研究を行い、North Western大学に留学中の矢野裕一朗先生が選ばれました。

2015年10月14日　客員教授 ロンドン大学Bryan Williams先生 来院

Bryan先生が携わった、本年ヨーロッパ心臓病学会にて発表された3つの臨床試験について、ご講義いただきました。

2015年10月15日～17日　カテーテルアブレーション関連秋季大会 2015 （福島）



土浦協同病院へ国内留学中の渡部智紀先生が口述1題およびポスター１題、当教室の非常勤職員で福島22期の佐藤彰洋先生がポスター発表を行いました。渡部先生の口述発表はクライオアブレーションに伴うcoronary spasmに関する話であり、クライオについても土浦で経験を積み、将来当学に戻られた折に存分に経験を発揮されるのではないかと期待しています。

2015年10月23日～24日　CCI Guro Live 2015 （韓国・高麗大学九老病院）

緒方信彦先生と大場祐輔先生がインターナショナルファカルティとして招待され、緒方先生はセッションのモデレーター役やCaseベースのミニレクチャーを、大場先生はCaseベースのミニレクチャーを行いました。高麗大学Seung-Woon Rha先生が施術中のカテ室と会場を繋ぎ行われたIntervention Liveでは、緒方先生がモデレーターとして会場を盛り上げ、英語と韓国語が飛び交う大変活発なディスカッションが行われたそうです。

2015年10月28日　市田勝先生、中山美緒先生、山中祐子先生送別会

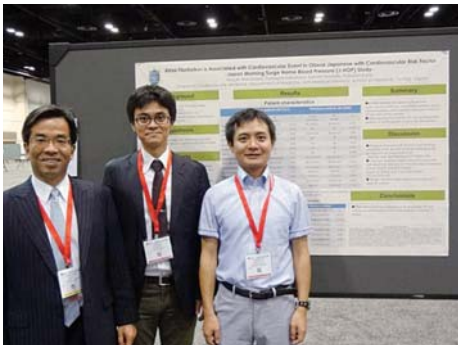
20年余にわたり当教室に多大な貢献をされた市田先生が2015年10月に鹿沼市に開業されました。中山先生、山中先生もそれぞれの道を歩まれています。

2015年11月4日　小倉記念病院　安藤献児先生 来院

心臓再同期療法（両室ペーシング）の日本の第一人者である小倉記念病院の安藤献児先生をお招きして、心臓再同期療法に関するご講演と手術の指導をいただきました。今回の症例は右植え込みの両室ペーシングで、1時間40分という短時間で3本のリードを留置され、手術を無事終了することができました。心臓再同期療法は以前は5-6時間かかることもある大変な手術でしたが、手技と道具の進歩のおかげで、より低侵襲な治療となってきています。今回の経験を糧に、さらに多くの患者様の心臓を良くしていくように一同頑張りたいと思います。

2015年11月7日～11日American Heart Association (AHA)2015 （アメリカ・オーランド）

当教室からは星出聡先生、甲谷友幸先生、小古山由佳子先生、渡邊裕昭先生、根岸経太先生と、広島に戻られた永井道明先生の演題が採択されました。今回のAHAではJHOP研究のサブ解析が多数あり、登録していただいた先生方に厚く御礼申し上げます。



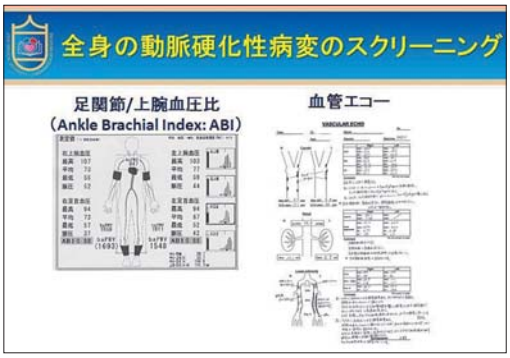
2016年1月6日　医局　新年会

年明け第1回目の医局会恒例、新年会を行いました。抱負や目標を共有する貴重な場となっています。

2016年2月5日～7日　第8回 デバイス関連冬季集会 （福岡）

小倉市にて開催された不整脈心電学会の関連学会である当冬季集会に、甲谷友幸先生、循環器センター看護師の解良健さんが発表しました。また、臨床工学部の木村好文さんの演題がBest abstract賞（コメディカル4題）に選ばれました。ペースメーカーなどのデバイス管理はチーム医療の必要性が高い分野ですが、各職種で発表をすることができました。

2016年2月20日～22日
Japan Endovascular Treatment Conference (JET)2015 （大阪）



当教室からは、「SHATS診療における血管診療技師の役割」というテーマで、当科血管診療技師の上野ひろみさんが講演を行いました。動脈硬化性疾患あるいは危険因子をもつ入院患者に対して、血管診療技師によるABI測定と血管エコーによるtotal vascular screeningを行っていますが、スクリーニングにより複数の血管病変を見出し、予後改善につながる適切な治療介入を行うよう努力をしています。

2016年3月4日　自治医科大学医学部39期卒業生謝恩会 循環器内科学教室Department of the Year (DOY) 賞、江口和男先生Teacher of the Year (TOY) 賞受賞

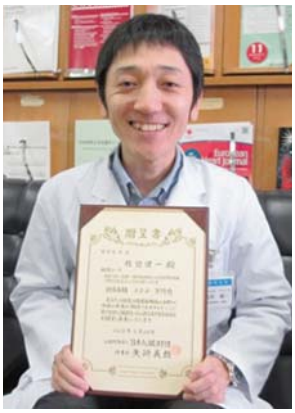
自治医科大学医学部39期卒業生謝恩会にて、当教室が3年連続でDOY 賞を、江口先生がTOY賞を受賞しました。 これらの賞は、毎年医学部卒業生の人気投票により選出・表彰されるもので、今年はダブル受賞となりました。

4年時の必修BSLでは2週間にわたって緊張感あふれる実習であったこと、5年時の選択BSLでは好きなことや興味のあることをフリーコースのように自由に学べたことで高評価を頂き、TOY賞では、江口先生のテノール歌手のような声と熱い指導が卒業生の心を掴んだことが受賞理由だったようです。

2016年3月19日　第4回　同門会 『地域医療と循環器病懇話会』 （仙台）

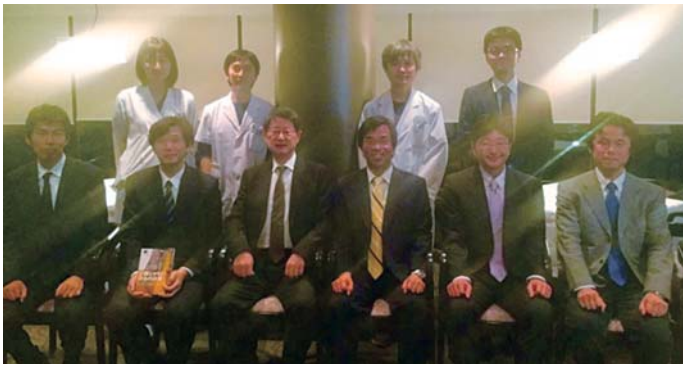
震災後5年目の節目の年、2016年3月18日から20日にかけて、第80回日本循環器学会学術集会（仙台国際センター等）が開催され、震災に関する展示や災害時のガイドラインなどのセッションが開かれました。当教室からはLate braking sessionで、J-HOP研究の夜間血圧の予後予測能に関する結果を苅尾七臣先生が発表したほか、シンポジウム、Featured Research Sessionなど、20題の発表がありました。
19日にはメトロポリタン仙台にて同門会を開催し、学外社会人大学院藤原健史先生より地域での臨床研究の取り組み、河野健先生より最新の心不全ストラテジーに関する講演があり、なごやかに終わりました。OBのみなさまや自治医大卒業生の多くのご出席を賜りありがとうございました。

2016年3月20日　第29回 日本心臓財団・バイエル薬品海外助成 桂田健一先生選出



第29回日本心臓財団・バイエル薬品海外助成金贈呈式にて、助成対象者の１人に選出された当科桂田健一先生へ贈呈書が授与されました。
この助成事業は、心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等の循環器疾患の制圧を目指す日本心臓財団が、循環器領域の研究に携わる少壮研究者の海外留学・研究活動を対象に募るものです。
研究課題は『視床下部-脳幹-腎神経連関による循環調節機構の解明と高血圧・心不全治療への応用』で、応募者42名の中から対象１0名に選出されました。桂田先生は、アメリカ ネブラスカ大学へ留学を予定しています。海外でのさらなるご活躍と研究の成果報告を楽しみに待っています。

2016年3月31日　立川病院 病院長 三田村秀雄先生講演会 （自治医科大学）



日本の不整脈研究で多大な業績を作られた三田村先生をお招きしてご講演をいただきました。心房細動の発生のメカニズムから、最近の抗凝固薬はどうして梗塞、出血を減らすのか、と基礎から最新の臨床まで幅広くわかりやすくお話ししていただきました。当院の心房細動の治療も症例が徐々に増え、クライオバルーンの導入に向け一同頑張っているところです。三田村先生はじめご来場いただいた近隣の先生方、誠にありがとうございました。

～ あとがき ～

「自治医科大学内科学講座　循環器内科学部門」の医局年報、2015年年報　第7号を発行する事が出来ました。医局年報は、医局員の多忙な1年間の記録であり、また、関連病院・同門会の皆様には、成し遂げた活動のご報告の1冊となっております。

今年も、当科で身に着けたスキルを武器に新たな活躍の場へと巣立って行かれた先生がおられる一方、2016年4月には新入医局員5人をお迎えする事ができました。新たな風を吹き込んで下さることを期待し、今後も「創新」をめざして医局員一同精進して参りますので、引き続きのご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後に、お忙しい中、原稿を寄せて下さいました先生方に心より感謝申し上げます。

（編集担当：菅原則子）

循環器内科学部門ホームページ業務に携わらせて頂くようになり、間もなく2年になります。その間、星出聡先生、甲谷友幸先生監修の下、2015年4月には公式Facebookを開設し、医局員の先生方の学会・学術活動や同門会の皆様との交流の様子などをリアルタイムで発信する試みを始めました。また、2015年7月にはアクセシビリティの向上と若手医師向けコンテンツの拡充を目的に、ホームページのリニューアルを行っております。

今後も、循環器内科教室の「いいね！」を内外に拡げるお手伝いができるよう尽力して参りますので、お時間がございましたら、ぜひホームページ・Facebookをご高覧頂けますと幸いに存じます。

（ホームページ業務担当：古澤理紗）

自治医科大学内科学講座　循環器内科学部門

＜ホームページ＞　http://www.jichi.ac.jp/usr/card/index.html

＜Ｆａｃｅｂｏｏｋ＞　https://www.facebook.com/junkan.jichi/

自治医科大学内科学講座
循環器内科学部門　2015年年報 第7号

2016年10月発行

〒329-0498　栃木県下野市薬師寺3,311番地の1
TEL 0285(58)7344　FAX 0285(44)5317